

平成 28 年度

市政に関する意識調査

平成 28 年度

福岡市

目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査の性格	1
4. 標本の構成	2
5. 調査結果利用上の注意	6
6. 適合度の検定	7
II. 調査結果	9
1. 「住みやすさ」に関する調査結果の総括	9
2. 「住みやすさ」に関する調査結果	17
（1）福岡市が好きかどうか	17
（2）総合的な福岡市の住みやすさ	20
（3）福岡市にずっと住み続けたいと思うか	23
（4）福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいと思うか	26
（5）福岡市の都市環境等に関する満足度	29
3. 「地域の活動やまちづくり」に関する調査結果の総括	39
4. 「地域の活動やまちづくり」に関する調査結果	48
（1）過去2年間に居住地域で地域活動に参加したか	48
（2）参加した活動の分野	53
（3）活動に参加したきっかけ	55
（4）地域活動に参加しなかった理由	57
（5）地域活動を行うことは大切だと思うか	60
（6）地域活動で特に大切だと思う活動の分野	62
（7）地域で行われるとよいと思う活動の内容	64
（8）自治会・町内会の加入状況	66
（9）自治会・町内会に加入していない理由	72
（10）自治会・町内会の活動内容の認知度	75
（11）自治会・町内会の活動を知った媒体	81
（12）自治会・町内会の運営について知っている内容	83
（13）自治会・町内会が地域住民に知らせるべきこと	85
（14）自治会・町内会が必要だと思うか	87
（15）自治会・町内会が必要だと思う理由	89
（16）自治会・町内会が多くの住民の理解・参加を得るために取り組むべきこと	92
（17）自治協議会の認知度	94

(18) 自治協議会を知った媒体	100
(19) 地域活動の望ましい進め方	102
(20) 地域活動を進めるために福岡市が取り組むべきこと	105
(21) 市が行っている取り組みで知っているもの	107
(22) NPOの認知	109
(23) NPOについて知っている程度	111
(24) NPOが地域団体と連携・協力した地域のまちづくり活動を行うことができると思うか	113
(25) 企業・事業所, NPO, 大学などが地域のまちづくり活動に関わっていくべき内容	116
(26) 地域の公民館の認知度	119
(27) 地域の公民館を知ったきっかけ	122
(28) 過去2年間に公民館を利用した頻度	124
(29) 公民館を利用した内容	126
(30) 公民館を利用するきっかけとなること	129
(31) 現在の住居の居住年数	131
5. 「かかりつけ医と在宅医療」に関する調査結果の総括	133
6. 「かかりつけ医と在宅医療」に関する調査結果	140
(1) 同一医療機関への定期的な通院	140
(2) かかりつけ医の有無	142
(3) かかりつけ医を持ちたいか	145
(4) かかりつけ医を選ぶうえで重要なこと	148
(5) かかりつけ医を持ちたくない理由	153
(6) 在宅医療の認知度	154
(7) 在宅医療について聞いたことがある内容	156
(8) 自分が高齢期に長期療養・介護が必要になった場合に過ごしたい場所	158
(9) 家族が高齢期に長期療養・介護が必要になった場合に過ごさせたい場所	160
(10) 在宅医療・介護に関する情報を入手している媒体	162
(11) 在宅医療・介護に関する情報で知りたい内容	164
(12) 在宅医療を推進する必要があると思うか	167
(13) 在宅医療を推進するために必要な体制整備・取り組み	169

Ⅲ. 調査票	173
--------	-----

I. 調査の概要

I. 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民の市政についての意見や評価を、科学的、統計的に把握し、今後の市政を推進する上での基礎資料にするもの。

2. 調査項目

- (1) 福岡市の住みやすさについて
- (2) 地域の活動やまちづくりについて
- (3) かかりつけ医と在宅医療について

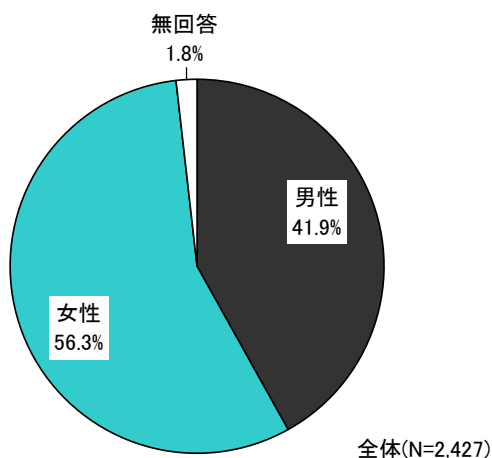
3. 調査の性格

- (1) 調査地域 福岡市全域
- (2) 調査対象者 福岡市内に居住する満20歳以上の男女
- (3) 調査対象者数 4,500 サンプル（回収2,427 サンプル，回収率53.9%）
- (4) 抽出方法 住民基本台帳による無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査期間 平成28年6月15日～6月30日
- (7) 調査主体 福岡市 市長室広聴課
- (8) 調査実施機関 株式会社サーベイリサーチセンター 九州事務所
- (9) 調査結果分析 総括執筆・各論監修
 - 調査項目(1) 九州産業大学 経営学部 産業経営学科
准教授 山下 永子
 - 調査項目(2) 九州大学 人間環境学研究院 人間科学部門 共生社会学
教授 高野 和良
 - 調査項目(3) 九州大学 医学研究院 保健学部門 広域生涯看護学
教授 鳩野 洋子

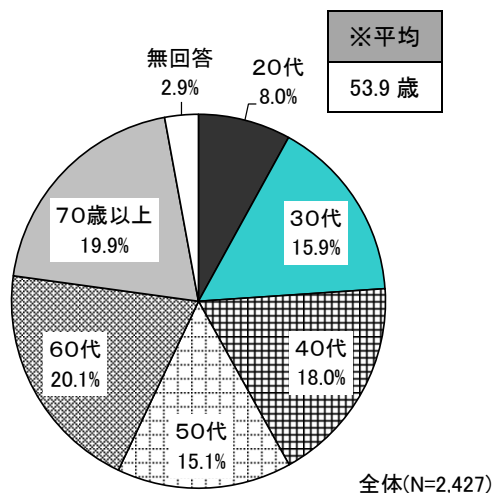
4. 標本の構成

(1) 標本の全体構成

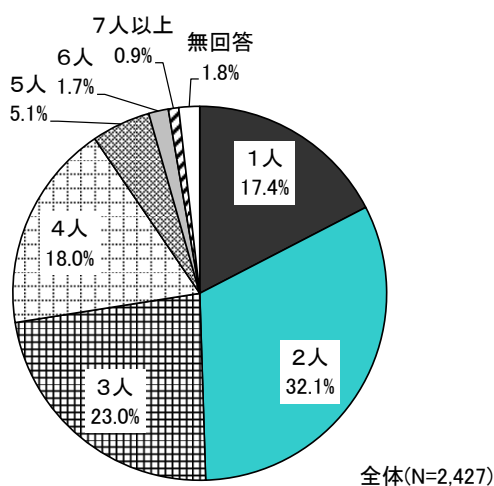
<性別>



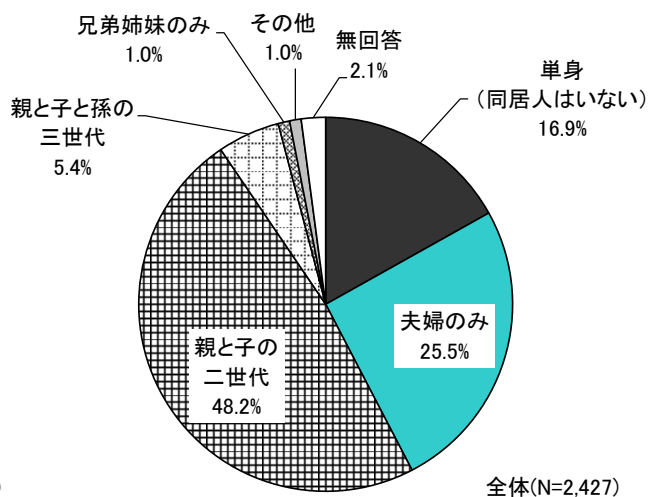
<年代別>



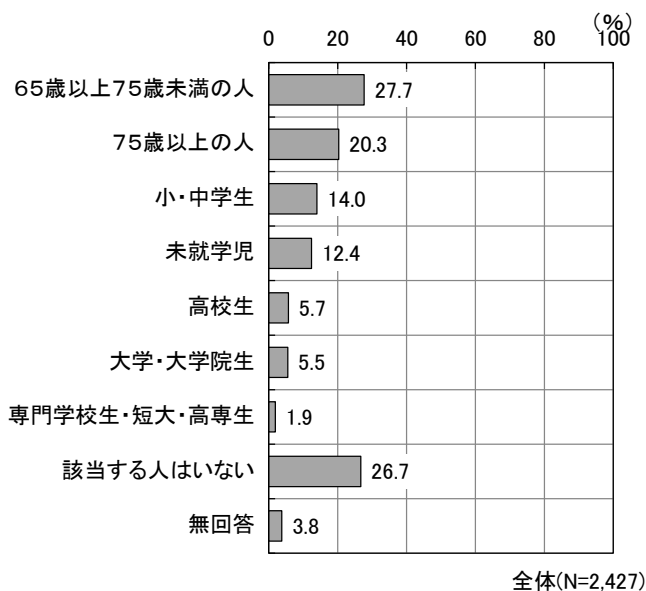
<家族数別(同居)>



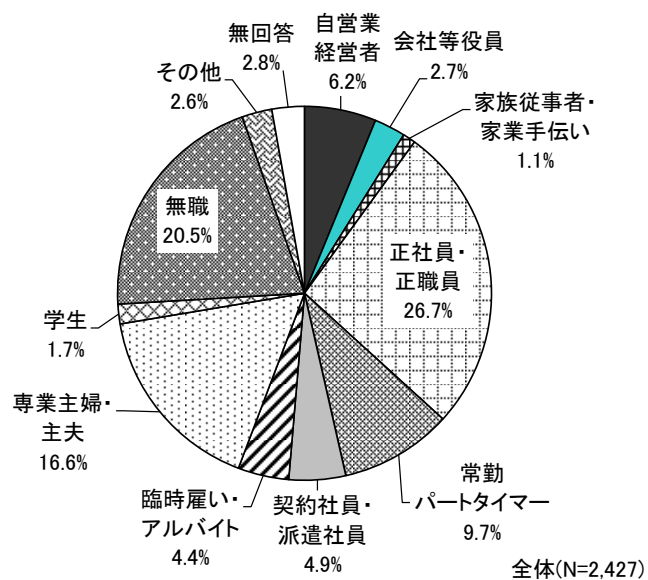
<家族構成別>



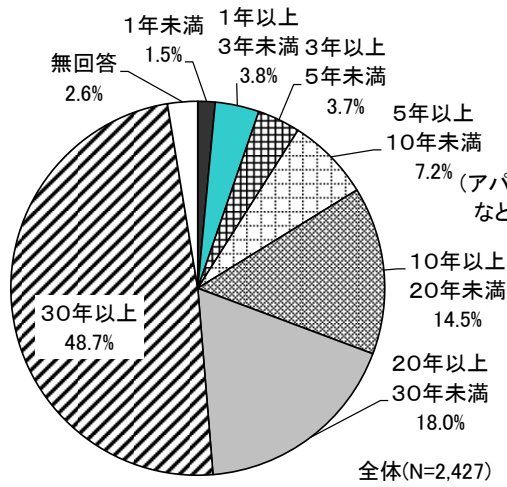
<同居している家族(複数回答)>



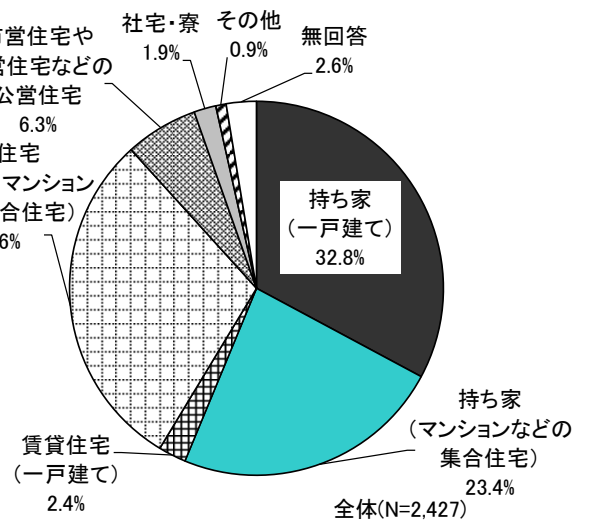
<職業別>



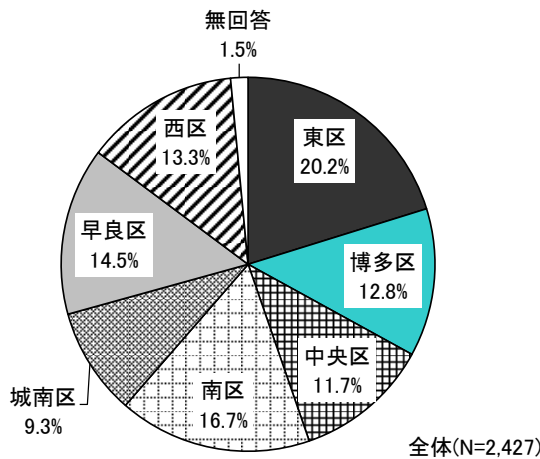
<居住年数別>



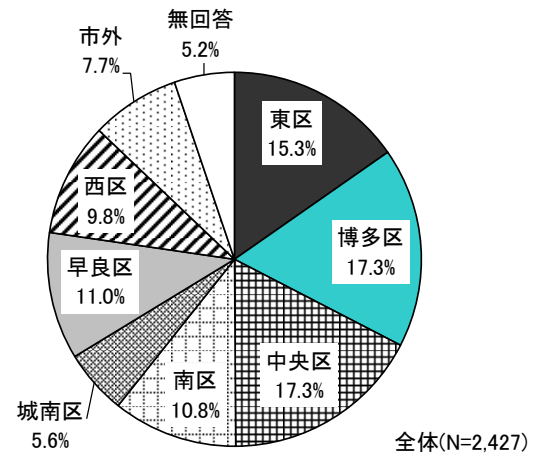
<住居形態別>



<行政区別>



<日中主に活動(勤務先等)している地域>



<行政区別にみた日中の主な活動地域>

	全 体	日中の主な活動地域別								
		東 区	博 多 区	中 央 区	南 区	城 南 区	早 良 区	西 区	市 外	無 回 答
全 体 ()は実数を示す	100.0 (2,427)	15.3 (372)	17.3 (421)	17.3 (419)	10.8 (261)	5.6 (137)	11.0 (267)	9.8 (237)	7.7 (186)	5.2 (127)
行政 区 別										
東区	20.2	66.6	9.6	6.7	1.2	0.4	1.4	0.2	9.6	4.3
博多区	12.8	2.6	70.7	9.3	2.6	-	1.3	1.0	7.4	5.1
中央区	11.7	2.8	12.0	64.3	1.8	2.5	3.2	1.8	6.0	5.7
南区	16.7	2.0	11.8	11.1	54.4	2.5	1.0	-	11.6	5.7
城南区	9.3	1.3	7.5	21.7	4.4	47.3	5.3	1.8	6.6	4.0
早良区	14.5	2.3	8.0	13.1	1.7	2.3	59.0	4.6	4.6	4.6
西区	13.3	2.5	6.5	9.6	0.6	0.6	5.9	64.0	5.0	5.3
無回答	1.5	5.4	16.2	10.8	8.1	2.7	13.5	5.4	13.5	24.3

(2) 属性別にみた行政区の標本構成

単位：%

	全 体	行政 区 別								
		東 区	博 多 区	中 央 区	南 区	城 南 区	早 良 区	西 区	無 回 答	
全 体 ()は実数を示す	100.0 (2,427)	20.2 (491)	12.8 (311)	11.7 (283)	16.7 (406)	9.3 (226)	14.5 (351)	13.3 (322)	1.5 (37)	
性 別	男性	41.9	21.2	12.0	10.9	17.3	9.1	14.4	15.0	-
	女性	56.3	20.1	13.6	12.6	16.8	9.7	14.9	12.4	-
	無回答	1.8	2.3	7.0	-	2.3	2.3	-	-	86.0
年 代 別	20代	8.0	19.5	21.5	12.8	19.0	10.8	9.7	6.7	-
	30代	15.9	23.1	14.8	11.4	16.4	7.5	12.5	14.3	-
	40代	18.0	17.1	12.1	13.5	15.3	8.4	18.0	15.5	-
	50代	15.1	19.3	11.4	12.3	15.0	12.3	16.9	12.8	-
	60代	20.1	21.6	10.5	11.1	17.7	9.9	15.0	14.4	-
	70歳以上	19.9	21.7	12.8	10.7	19.0	8.7	13.4	13.6	-
	無回答	2.9	11.3	5.6	5.6	8.5	5.6	7.0	4.2	52.1
家 族 数 別	1人	17.4	20.1	21.3	17.3	15.6	6.6	9.5	9.5	-
	2人	32.1	19.6	12.1	13.7	17.3	9.8	14.4	13.1	-
	3人	23.0	21.6	9.8	10.9	17.9	10.4	15.0	14.3	-
	4人	18.0	21.2	10.0	7.1	17.8	9.8	18.3	15.8	-
	5人	5.1	22.0	11.4	5.7	13.0	12.2	20.3	15.4	-
	6人	1.7	14.6	22.0	4.9	17.1	7.3	19.5	14.6	-
	7人以上	0.9	19.0	23.8	4.8	14.3	4.8	4.8	28.6	-
	無回答	1.8	4.5	-	2.3	2.3	4.5	2.3	-	84.1
家 族 構 成 別	単身(同居人はいない)	16.9	20.5	22.7	17.1	14.9	6.4	9.8	8.6	-
	夫婦のみ	25.5	20.4	11.5	13.1	16.6	9.2	14.7	14.5	-
	親と子の二世帯	48.2	21.2	10.4	10.0	18.4	10.9	15.8	13.2	-
	親と子と孫の三世帯	5.4	17.6	12.2	3.8	14.5	9.9	22.1	19.8	-
	兄弟姉妹のみ	1.0	20.8	4.2	20.8	12.5	4.2	4.2	33.3	-
	その他	1.0	12.5	25.0	16.7	8.3	-	16.7	20.8	-
	無回答	2.1	4.0	4.0	2.0	6.0	2.0	2.0	6.0	74.0
同 居 家 族 別	未就学児	12.4	24.8	11.9	10.6	15.6	7.0	14.6	15.6	-
	小・中学生	14.0	20.3	11.2	8.5	15.6	10.9	18.2	15.3	-
	高校生	5.7	20.3	13.0	12.3	13.0	8.0	15.9	17.4	-
	専門学校生・短大・高専生	1.9	20.0	8.9	6.7	28.9	13.3	11.1	11.1	-
	大学・大学院生	5.5	17.3	8.3	7.5	18.0	13.5	16.5	18.8	-
	65歳以上75歳未満の人	27.7	20.1	10.7	10.5	17.7	9.4	15.8	15.9	-
	75歳以上の人	20.3	19.9	13.6	10.2	18.7	10.4	15.0	12.2	-
	該当する人はいない	26.7	20.3	16.6	14.6	16.0	8.2	12.8	11.4	-
	無回答	3.8	12.0	9.8	12.0	4.3	8.7	2.2	10.9	40.2

※「同居家族別」は複数回答のため、合計値が100%を超える。

単位：％

	全 体	行政 区 別								
		東 区	博 多 区	中 央 区	南 区	城 南 区	早 良 区	西 区	無 回 答	
全 体 ()は実数を示す	100.0 (2,427)	20.2 (491)	12.8 (311)	11.7 (283)	16.7 (406)	9.3 (226)	14.5 (351)	13.3 (322)	1.5 (37)	
職 業 別	自営業経営者	6.2	12.7	12.7	16.7	18.7	12.0	10.0	14.0	3.3
	会社等役員	2.7	13.6	15.2	9.1	21.2	12.1	12.1	16.7	-
	家族従事者・家業手伝い	1.1	22.2	11.1	14.8	14.8	7.4	14.8	14.8	-
	正社員・正職員	26.7	20.7	13.4	13.0	15.6	8.8	15.7	11.4	1.4
	常勤パートタイマー	9.7	22.5	14.4	9.7	16.5	10.2	11.4	14.0	1.3
	契約社員・派遣社員	4.9	20.0	18.3	10.8	19.2	6.7	12.5	12.5	-
	臨時雇い・アルバイト	4.4	15.0	15.9	12.1	20.6	9.3	15.0	11.2	0.9
	専業主婦・主夫	16.6	22.1	9.7	9.7	15.1	10.9	16.4	15.4	0.7
	学生	1.7	19.0	7.1	7.1	23.8	19.0	11.9	11.9	-
	無職	20.5	21.9	11.2	10.8	17.7	7.8	14.9	14.1	1.6
	その他	2.6	25.4	17.5	12.7	14.3	6.3	12.7	11.1	-
無回答	2.8	11.9	14.9	16.4	10.4	6.0	16.4	11.9	11.9	
居 住 年 数 別	1年未満	1.5	21.6	24.3	13.5	8.1	8.1	10.8	10.8	2.7
	1年以上3年未満	3.8	17.2	22.6	18.3	15.1	2.2	15.1	8.6	1.1
	3年以上5年未満	3.7	20.0	17.8	14.4	8.9	5.6	14.4	16.7	2.2
	5年以上10年未満	7.2	21.3	19.0	12.1	14.4	8.6	8.0	14.9	1.7
	10年以上20年未満	14.5	22.4	11.6	12.7	18.1	10.5	13.0	10.8	0.8
	20年以上30年未満	18.0	20.8	11.7	12.6	20.1	8.7	13.7	11.9	0.5
	30年以上	48.7	19.8	11.3	10.0	16.8	10.2	16.0	14.6	1.4
	無回答	2.6	12.9	11.3	14.5	9.7	9.7	17.7	9.7	14.5
住 居 形 態 別	持ち家(一戸建て)	32.8	21.2	8.4	6.1	16.9	11.3	17.8	16.9	1.3
	持ち家(集合住宅)	23.4	23.0	10.9	15.5	16.9	9.5	11.6	11.4	1.2
	賃貸住宅(一戸建て)	2.4	25.4	8.5	5.1	28.8	11.9	11.9	8.5	-
	賃貸住宅(集合住宅)	29.6	14.9	18.2	15.4	17.4	8.3	13.4	11.1	1.3
	公営住宅	6.3	22.7	18.2	9.7	11.7	5.2	15.6	14.9	1.9
	社宅・寮	1.9	46.7	15.6	15.6	8.9	-	6.7	6.7	-
	その他	0.9	19.0	19.0	9.5	9.5	9.5	9.5	23.8	-
	無回答	2.6	14.3	11.1	12.7	14.3	7.9	17.5	9.5	12.7
日 中 の 活 動 地 域 別	東区	15.3	87.9	2.2	2.2	2.2	0.8	2.2	2.2	0.5
	博多区	17.3	11.2	52.3	8.1	11.4	4.0	6.7	5.0	1.4
	中央区	17.3	7.9	6.9	43.4	10.7	11.7	11.0	7.4	1.0
	南区	10.8	2.3	3.1	1.9	84.7	3.8	2.3	0.8	1.1
	城南区	5.6	1.5	-	5.1	7.3	78.1	5.8	1.5	0.7
	早良区	11.0	2.6	1.5	3.4	1.5	4.5	77.5	7.1	1.9
	西区	9.8	0.4	1.3	2.1	-	1.7	6.8	86.9	0.8
	市外	7.7	25.3	12.4	9.1	25.3	8.1	8.6	8.6	2.7
	無回答	5.2	16.5	12.6	12.6	18.1	7.1	12.6	13.4	7.1

5. 調査結果利用上の注意

- (1) 単数回答の集計については、設問ごとに無回答の項目を設けて、これを含めた全体の基数（標本数）を 100%としている。なお、回答率は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、数表、図表に示す回答率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。
- (2) 複数の回答を選べる（複数選択）質問の集計については、項目別に、基数（標本数）に対するその項目を選んだ回答者の割合としている。従って、その回答比率の合計は 100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示す N, n は、回答率算出上の基数（標本数）である。
N = 標本全数
n = 該当数（その質問を回答しなくてよい人を除いた数）
- (4) 数表、図表に示す選択肢はスペースの関係で文言を短縮して表記している場合があるので、詳細は巻末の調査票を参照のこと。
- (5) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち、2 つ以上のものを合計して表す場合は『 』としている。
- (6) 2 つ以上の選択肢を合計して表している比率については、各選択肢の割合を合計している。
- (7) 属性別の分析等において、基数（標本数）が少ないものについては、分析コメントを割愛する場合がある。
- (8) 各属性別の集計結果の最高値には網掛けを行っている。

6. 適合度の検定

本調査の標本は無作為抽出法により抽出されているため、調査結果は調査対象集団（母集団）の縮図になっているはずである。しかしながら、調査の過程で標本の一部には回答を得られなかったものもあり、場合によっては調査対象集団（母集団）の縮図にならないこともあり得る。そこで、得られた対象集団が調査対象集団（母集団）の縮図とみなすことができるかどうかの検討（適合度の検定）を行うため、行政区別、性別、年代別について χ^2 （カイ2乗）検定を行った。

カイ2乗検定では、以下に示す数式で求めた値と、表の自由度(F)と許せる危険率(有意水準と呼ぶこともある)に対応する χ^2 の値を比較し、統計学的な有意性があるかどうかを判定する。

$$\chi^2_0 \text{ (理論と実際の食い違いの測定)} = \frac{(\text{期待値} - \text{実現値})^2}{\text{期待値}} \text{ の総和}$$

■ χ^2 の分布表（一部）

P \ F	.99	.98	.95	.90	.80	.50	.20	.10	.05	.02	.01
1	0.000157	0.000628	0.00393	0.0158	0.0642	0.455	1.642	2.706	3.841	5.412	6.635
2	0.0201	0.0404	0.103	0.211	0.446	1.386	3.219	4.605	5.991	7.824	9.210
3	0.115	0.185	0.352	0.584	1.005	2.366	4.642	6.251	7.815	9.837	11.345
4	0.297	0.429	0.711	1.064	1.649	3.357	5.989	7.779	9.488	11.668	13.277
5	0.554	0.752	1.145	1.610	2.343	4.351	7.289	9.236	11.070	13.388	15.086
6	0.872	1.134	1.635	2.204	3.070	5.348	8.558	10.645	12.592	15.033	16.812
7	1.239	1.564	2.167	2.833	3.822	6.346	9.803	12.017	14.067	16.622	18.475
8	1.646	2.032	2.733	3.490	4.594	7.344	11.030	13.362	15.507	18.168	20.090
9	2.088	2.532	3.325	4.168	5.380	8.343	12.242	14.684	16.919	19.679	21.666
10	2.558	3.059	3.940	4.865	6.179	9.342	13.442	15.987	18.307	21.161	23.209

(以下省略)

※P=危険率

F=自由度(カテゴリ数-1)

世論調査では危険率を1%(0.01)、あるいは5%(0.05)とするのが一般的であるが、ここでは危険率を1%に設定し、計算された χ^2_0 の値がP:0.01に対応する χ^2 の値以下になれば、統計的にみて「危険率1%で有意差がない」とする。

■標本の期待値，実現値

	実現値(回答数)		期待値	住民基本台帳人口 (平成28年7月末日現在)		χ^2_0	
	実数	比率		実数	比率		
行政区別	東区	491	20.5	473	244,089	19.8	0.685
	博多区	311	13.0	366	188,511	15.3	8.265
	中央区	283	11.8	304	156,014	12.7	1.451
	南区	406	17.0	406	209,142	17.0	0.000
	城南区	226	9.5	196	100,624	8.2	4.592
	早良区	351	14.7	335	172,632	14.0	0.764
	西区	322	13.5	313	161,879	13.1	0.259
	計	2,390	100.0	2,393	1,232,891	100.0	16.016
性別	男性	1,018	42.7	1,111	574,607	46.6	7.785
	女性	1,366	57.3	1,273	658,284	53.4	6.794
	計	2,384	100.0	2,384	1,232,891	100.0	14.579
年代別	20代	195	8.3	370	193,014	15.7	82.770
	30代	385	16.3	438	228,891	18.6	6.413
	40代	438	18.6	452	236,783	19.2	0.434
	50代	367	15.6	337	175,979	14.3	2.671
	60代	487	20.7	363	189,287	15.4	42.358
	70歳以上	484	20.5	398	208,937	16.9	18.583
	計	2,356	100.0	2,358	1,232,891	100.0	153.229

検定の結果，行政区別（ $F = 6$ ）の場合， χ^2_0 値は 16.016 で， $\chi^2_0 < \chi^2_{0.01} (=16.812)$ となり，母集団と本調査の標本は行政区別の構成比と差がないと判断される。また，性別（ $F = 1$ ）の χ^2_0 の値は，14.579 であることから， $\chi^2_0 > \chi^2_{0.01} (=6.635)$ となり，母集団と本調査の標本は性別の構成比と差があると判断される。これは期待値に比べて男性の回答者が少なく，逆に女性の回答者が多いためである。また，年代別（ $F = 5$ ）においても χ^2_0 の値が 153.229 で $\chi^2_0 > \chi^2_{0.01} (=15.086)$ となり，母集団と本調査の標本は年代別の構成比と差があると判断される。これは期待値に比べて 20 代を中心に若い年代層のサンプルが少なく，50 代以上のサンプルが多いためである。

以上の検定の結果から，本調査における標本の特性は性別，年代別の構成比について調査対象母集団の構成比と差があることになる。今回の調査結果については，この検定内容を踏まえた上での考察であることを予め注意する必要がある。

II. 調查結果

Ⅱ. 調査結果

1. 「住みやすさ」に関する調査結果の総括

福岡市は、市民100人のうち、

97人が「福岡市のことが好き」で

96人が「福岡市は住みやすい」と感じ

92人が「福岡市にずっと住み続けたい」と願い

81人が「福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたい」と思っている。

福岡市民は、福岡市に暮らす人たちのことが好き。
だから、私たちが暮らしている福岡市のことも大好き。
そして、福岡市を訪れてくれた方々を、大切にもてなしたい。

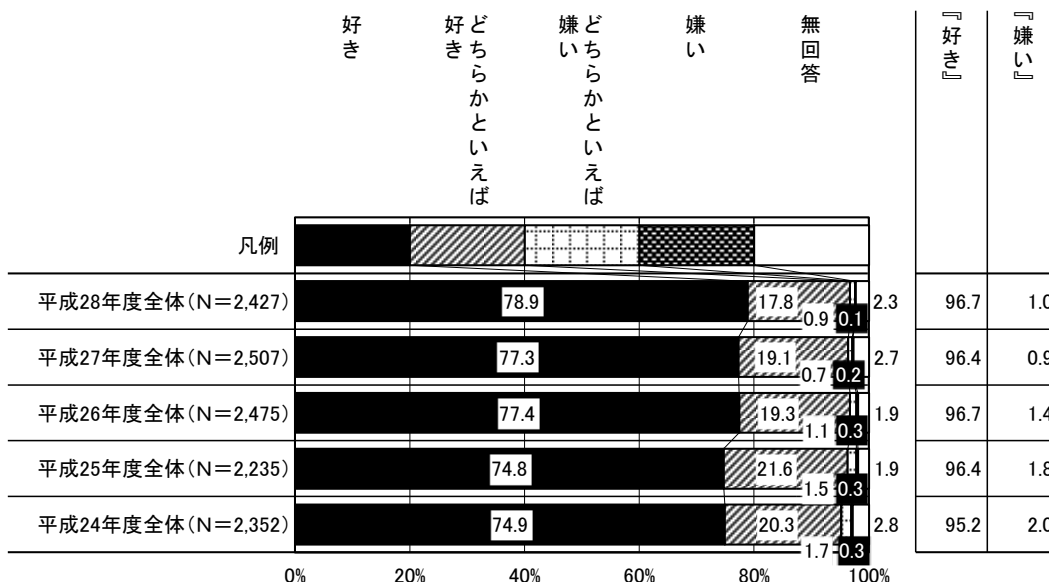
福岡市は「市民の愛着と誇りに満ちた住みよい都市」です。

(1) 福岡市の暮らしに関する「4指標」の推移（問1～問4）

本意識調査では、「福岡市が好きか」「福岡市が住みやすいか」「福岡市に住み続けたいか」「福岡市民や訪問者のために（昨年度までは、「福岡市のために」）何か役に立ちたいか」という4つの質問を毎年行い、その回答状況及び経年推移を観察、分析している。その4つの結果指標（以下4指標）の推移と特徴について、まずは述べる。

「福岡市が好きか」の質問は、平成23年度の調査から開始したものだが、6回目の今年度も、96.7%が『福岡市のことが好き（「どちらかといえば好き」を含む）』と回答し、過去最高を記録した（図表1）。

図表1 福岡市が好きかどうか【過去の調査との比較】

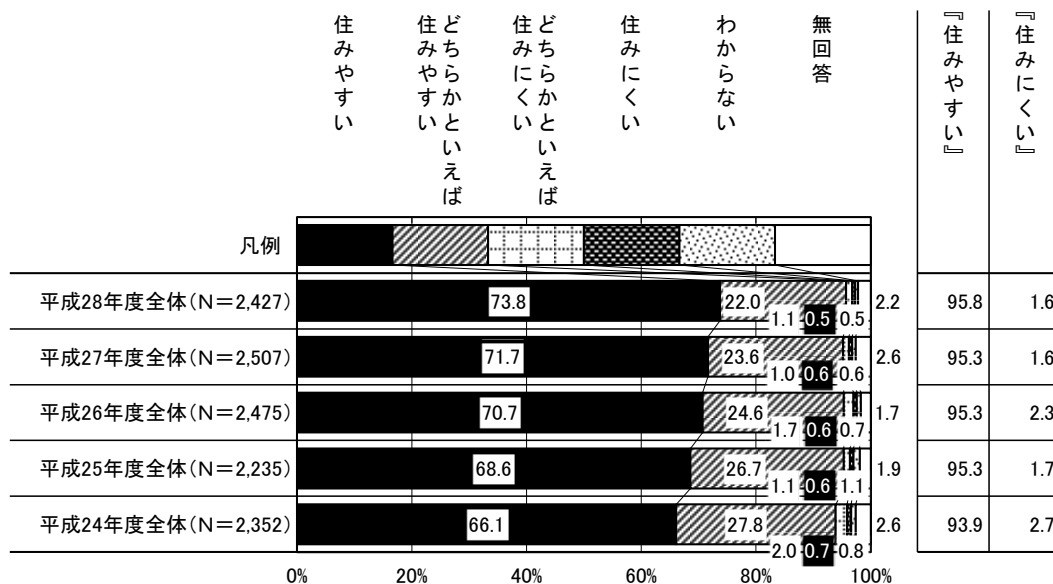


福岡市民は、「福岡市のことがとても好き」である。福岡市は市民の大多数が、住んでいるまちに「好き」という感情を抱く、「市民から愛され親しまれている」都市と言える。

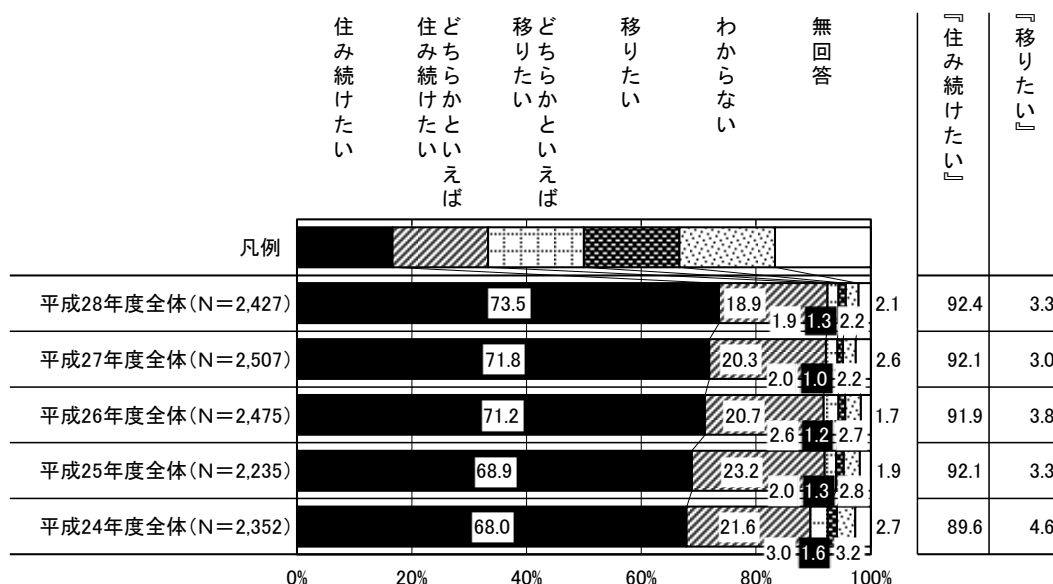
また、福岡市は、「福岡市のことを住みやすい」「福岡市に住み続けたい」と思っている人が多い都市でもある。『福岡市が住みやすい（「どちらかといえば住みやすい」を含む）』と回答した人は、95.8%、『福岡市に住み続けたい（「どちらかといえば住み続けたい」を含む）』と回答した人は、92.4%であり、これら2項目も過去最高を記録した（図表2，3）。

過去の調査と比較すると、「住みやすい」「住み続けたい」という積極的な回答を行っている人は毎年少しずつ増加し続け、この5年間で5ポイント以上の増加をみている。このような積極的な評価割合を、今後も維持し続けていきたいものである。

図表2 総合的な福岡市の住みやすさ【過去の調査との比較】



図表3 福岡市にずっと住み続けたいと思うか【過去の調査との比較】



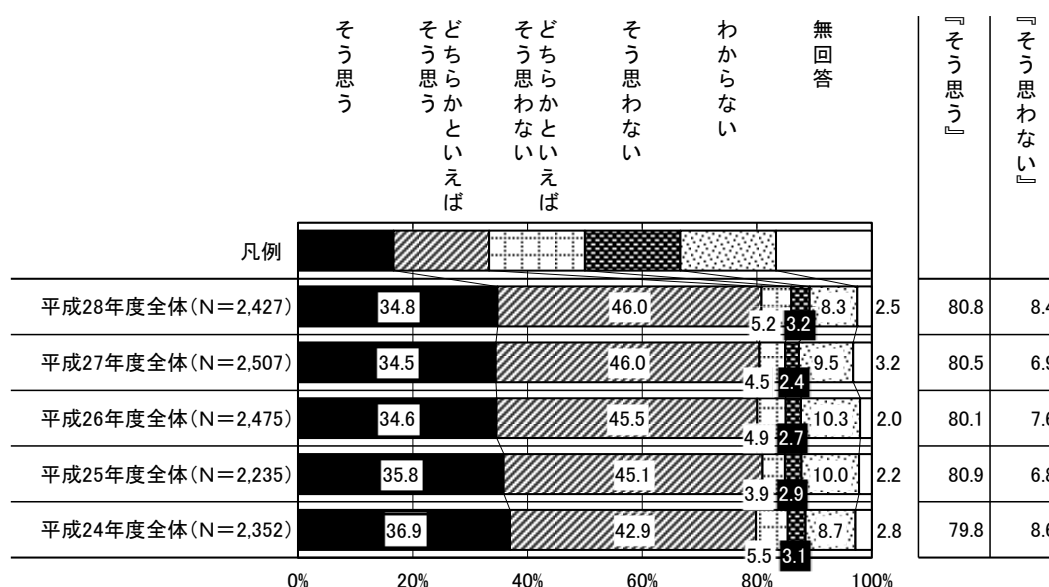
「福岡市のために何か役に立ちたいか」という質問は、今年で6回目を迎えたことを機に文言表現を若干変更し、「福岡市のために何か役に立ちたいか」を「福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいか」として実施した。

変更理由は次の2点である。1つは「福岡市のために」という表現が、福岡市（役所）のためにと聞こえてしまい、いわゆる「上からの表現」として受け取られてしまっている可能性があるのではないかという疑問を検証するため。そして、もう1つは前年度調査において、「福岡市が好き」と都市環境等の満足度の項目「人の親切や人情味」に緩やかな相関が認められ、「人の親切や人情味」への満足度が、「福岡市が好き」という感情に結びついていることが明らかになったことを受け、「福岡市のために」が「福岡市民や訪問者のために」と、「人」を対象とした表現になった場合、変化が生じるか否かを確認するためである。

結果から言うと、過去とほぼ同様の内容となった（図表4）。この質問に変わっても8割以上の高率で『福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたい（「どちらかといえばそう思う」を含む）』との回答を得た。このことにより、福岡市民が「福岡市」のために、と考えるときは、おのずと「福岡市民や訪問者」など「人」を一体的に含む対象として捉えている可能性が確認できた。

変更を維持したまま複数年調査を続け、過去との比較をしてみないと、確かなことは言えないが、今回の結果を踏まえ、今後の文言表現をどのようにしていくかについて、検討すべきと考える。

図表4 福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいと思うか【過去の調査との比較】



※ 平成24年度から27年度の設問は「あなたは、福岡市のために何か役に立ちたいと思いますか。」

さて、「好き」「住みやすい」「住み続けたい」の傾向とは異なり、「何か役に立ちたいか」は、積極的な「そう思う」の回答が「どちらかといえばそう思う」を下回っている。これも、過去同様の傾向である。この理由や「そう思う」と回答する人を増やしていくための方策について、具体的に検討してみることも大切であろう。

今年度は、その具体的取組方向に示唆を与え得る情報が「地域の活動やまちづくり」に関する調

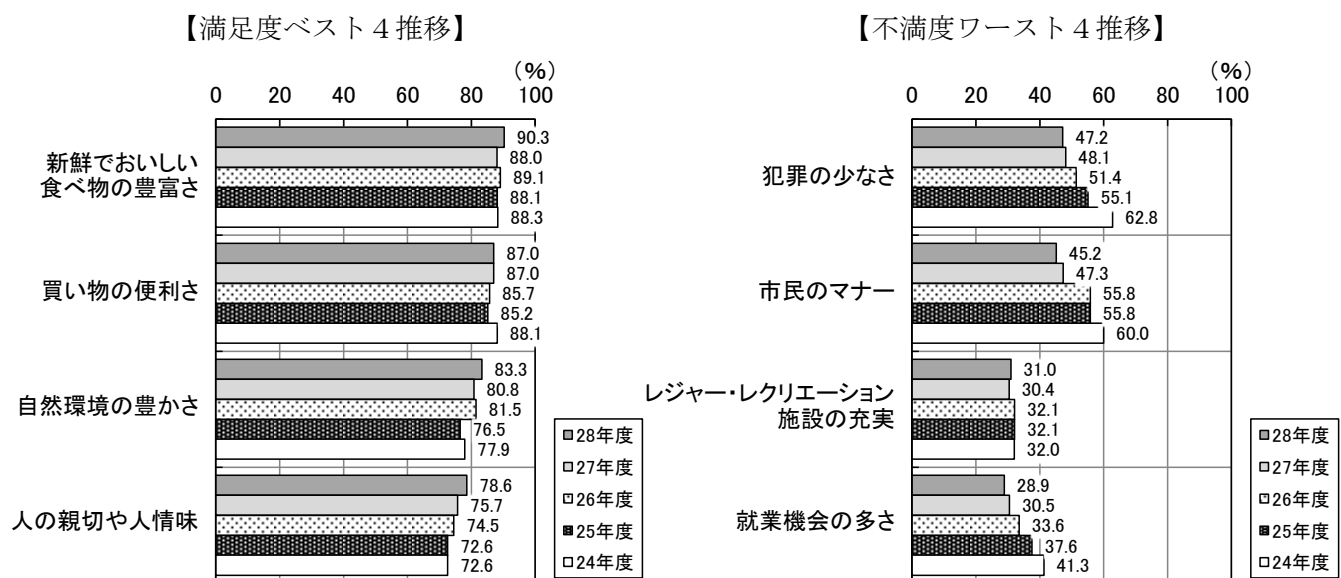
査結果から得られた。「福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいと思うか」の結果は、問7「地域活動を行うことは大切だと思うか」に似ている。両質問とも、『そう思う（「どちらかといえばそう思う」を含む）』で8割を超えている。だが一方で、問6「過去2年間に居住地域で地域活動に参加したか」では、『参加している（「時々参加している」を含む）』は3割にとどまる。一般的、第三者的には、「人の役に立つことや地域活動は大切」だけれども、問6-3「地域活動に参加しなかった理由」を見ると、「仕事で時間がとれない」「時間が合わない」から参加できない。また、いざ自分事としてとらえると「活動の内容や参加方法がわからないから」と、できない理由を探してしまっている人も多い。他人頼みの傾向を少しずつ変えていけるような取り組みが必要である。

問6-3では「仕事で時間がとれない」を理由に挙げる人が最も多く、45.5%と半数近い割合を示した。このことから、企業における長時間勤務の是正、さらに職場における地域活動の啓発推進、或いは地域市民としての企業の地域活動への参加などを、これまで以上に推進していくことが望ましいと考える。地域活動という「福岡市民や訪問者のために役立つ」場を得ることで、自分事として実感し、継続的・積極的な行動意欲を喚起することにつなげていってほしいものである。

（2）福岡市の都市環境等の満足度（問5）

今回も、前年度に引き続き、「福岡市の都市環境等の満足度」と「4指標」の相関分析を行い、「どの項目の満足度が、どの指標と関係性を持っているか」を明らかにする試みを行い、「どの項目の満足度の向上が、どの指標の向上に寄与するのか」また「どの項目の満足度が向上したとしても、指標の向上には影響を与えないのか」についての考察を行った。その相関分析の前に、まずは「福岡市の都市環境等の満足度」の特徴と経年推移について述べる（図表5）。

図表5 都市環境等についての満足度推移



福岡市の都市環境等で満足している点の上位は、「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」「買い物の便利さ」「自然環境の豊かさ」「人の親切や人情味」である。今年度は4月に発生した熊本地震の影響を受けたのが理由と考えられるが、過去5年間ベスト4の一角を占めてきた「自然災害の少

なさ」が「人の親切や人情味」に替わり、上位に変動が見られた。

一方で、不満である点の定番のワースト上位は、「犯罪の少なさ」「市民のマナー」「就業機会の多さ」「レジャー・レクリエーション施設の充実」の4つから構成され、この陣容には変動はない。しかし、「犯罪の少なさ」「市民のマナー」「就業機会の多さ」に不満を持つ人の割合は、昨年度に引き続き減少している。満足度ベスト4に「人の親切や人情味」が入ってきているように、さまざまな事業において、協働や共助を推進する「啓発」や市民活動の「支援」の成果が出てきていると考えられる。

(3) 「都市環境等の満足度」と「福岡市が好き」「福岡市は住みやすい」との相関分析

前年度に初めて行った相関分析では、「福岡市が好き」において、「人の親切や人情味」のみに相関係数*0.3以上の緩やかな正の相関がみられた。

だが2回目となる今回は、加えて「自然環境の豊かさ」「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」にも緩やかな正の相関がみられた（図表6）。

※相関係数：2つのデータがどれだけ関連性があるのかを示す係数で、-1～+1の間の数値となる。
関連性が強ければ1に近づき、低ければ0に近づく。逆に、正反対の動きであれば-1に近づく。

図表6 『好き』と「都市環境等の満足度」の相関係数と都市環境等の満足度【前年度比較】

項目	平成28年度		平成27年度	
	相関係数 (問1と問5)	満足度(%) (問5)	相関係数 (問1と問5)	満足度(%) (問5)
人の親切や人情味	0.329	78.6	0.329	75.7
自然環境の豊かさ	0.319	83.3	0.235	80.8
新鮮でおいしい食べ物の豊富さ	0.319	90.3	0.237	88.0
子育てのしやすさ	0.247	50.9	0.221	48.5
教育環境	0.241	59.1	0.233	55.3
地域住民の連帯感の強さ	0.235	53.1	0.234	51.1
住宅事情	0.231	73.6	0.248	73.5
市民のマナー	0.220	44.5	0.201	41.2
芸術・文化水準	0.212	64.7	0.208	62.6
物価の安さ	0.204	68.1	0.226	64.3
福祉の充実	0.198	46.3	0.171	43.4
買い物の便利さ	0.189	87.0	0.238	87.0
交通の便	0.186	76.1	0.221	74.9
医療機関の充実	0.183	77.8	0.191	75.8
就業機会の多さ	0.155	43.7	0.232	40.8
犯罪の少なさ	0.147	37.2	0.140	34.4
レジャー・レクリエーション施設の充実	0.144	51.5	0.187	52.3
自然災害の少なさ	0.123	75.9	0.104	82.2

「人の親切や人情味」が2年連続で正の相関を示したことによって、「人の親切や人情味」項目の満足度が上がると、「福岡市が好き」指標の向上が期待できるという可能性が高まった。今後継続した数年間、同様の分析をすることによって、このことは確証的になっていくものと期待される。

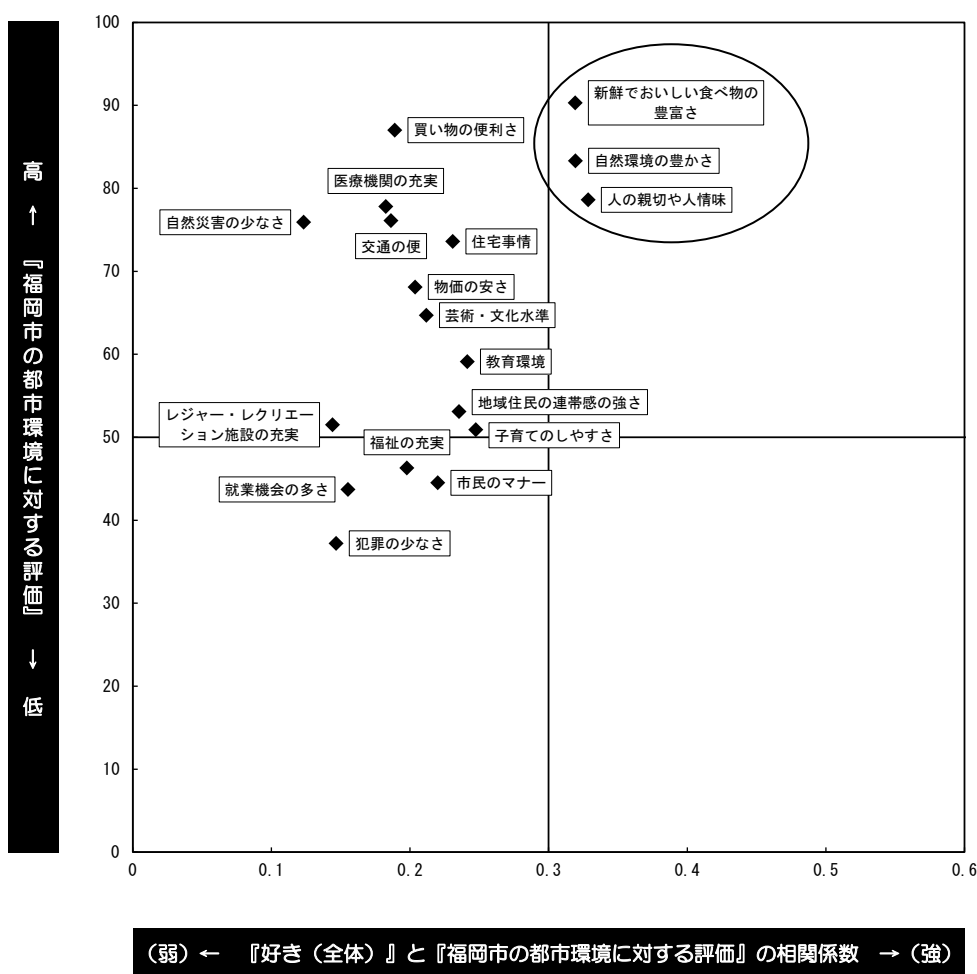
今回は、「自然環境の豊かさ」と「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」項目の満足度が上がると「福岡市が好き」指標の向上も期待できるとの傾向も得られた。

福岡市政としては、これまで以上に自然環境保全や、自然環境をより身近に楽しめるような事

業の充実のほか、自然保護や環境維持に関する「地域活動」への参加啓発や支援促進の際に、「福岡市のことを、ずっと好きでい続けられる私たちのために、一緒に活動しませんか」といった、個々の「好きという気持ち」を動かすことのできるようなメッセージを添えてみるのも考えの一つだろう。

図表7は、18項目全ての「満足度」の満足度と「福岡市が好き」との相関係数の関係をプロットしたものである。今回は熊本地震の影響もあり「自然災害の少なさ」の満足度が落ちた。しかし、「好き」との相関は前年度と変わっておらず、災害が起ころうとも「福岡市が好き」な気持ちは変わらないと言えそうである。

図表7 『好き』と「都市環境等の満足度」の相関係数と都市環境等の満足度との散布図



「福岡市は住みやすい」においては、前年度は、「人の親切や人情味」のみに相関係数0.3以上の緩やかな正の相関がみられた。しかし、今回は0.3以上を示した項目は1つもなかった（図表8）。

しかし、「福岡市が好き」の結果とは異なり、今回は、上位8項目が、やや関連性があるのではないかと見える0.25以上の係数を示した。

平成27年度の0.25以上の項目と比べてみると、結構大きな変動が見られる。今回1位の「新鮮

でおいしい食べ物の豊富さ」は 0.244 から 0.293 に伸びた。一方、「買い物の便利さ」は今回 0.25 未満に落ちた。今回が 2 回目の試みなので、この変動に大きな意味があるとはまだ言い難い。

しばらく継続して普遍的な傾向か、個々の回答者に左右されやすい傾向なのかを見極める必要がある。

図表 8 『住みやすい』と「都市環境等の満足度」の相関係数と都市環境等の満足度
【前年度比較】

項目	平成28年度		平成27年度	
	相関係数 (問2と問5)	満足度(%) (問5)	相関係数 (問2と問5)	満足度(%) (問5)
新鮮でおいしい食べ物の豊富さ	0.293	90.3	0.244	88.0
子育てのしやすさ	0.289	50.9	0.270	48.5
人の親切や人情味	0.288	78.6	0.332	75.7
自然環境の豊かさ	0.281	83.3	0.235	80.8
住宅事情	0.280	73.6	0.296	73.5
教育環境	0.265	59.1	0.257	55.3
市民のマナー	0.260	44.5	0.222	41.2
交通の便	0.252	76.1	0.296	74.9
地域住民の連帯感の強さ	0.248	53.1	0.251	51.1
福祉の充実	0.245	46.3	0.200	43.4
買い物の便利さ	0.244	87.0	0.287	87.0
物価の安さ	0.230	68.1	0.246	64.3
芸術・文化水準	0.190	64.7	0.202	62.6
就業機会の多さ	0.189	43.7	0.237	40.8
医療機関の充実	0.179	77.8	0.226	75.8
犯罪の少なさ	0.179	37.2	0.180	34.4
自然災害の少なさ	0.163	75.9	0.112	82.2
レジャー・レクリエーション施設の充実	0.138	51.5	0.221	52.3

ただ、今回 2 回連続して 0.25 以上の相関を示した「子育てのしやすさ」「人の親切や人情味」「住宅事情」「教育環境」「交通の便」は、都市生活を支える機能の基盤項目である。この中で、満足度が 60% に満たない「教育環境」「子育てのしやすさ」は、次世代を見据えた福岡市の住みやすさを考えると、大きな重点項目と考える。

本調査は 20 歳以上が対象なので子どもたちの声は反映されていない。未来を形成する子どもたちが、のびのびと安全に育ち、充実した勉学機会に恵まれる環境づくりなどの取り組みが、子どもたちにも理解できる形で推進されていくことも大切ではないかと考える。

図表 9 は、18 項目全ての「満足度」の満足度と「福岡市は住みやすい」との相関係数の関係をプロットしたものである。中央付近に位置する「子育てのしやすさ」「教育環境」「地域住民の連帯感の強さ」は、施策の影響を受けやすい満足度項目である。先述した「子育てのしやすさ」「教育環境」に加え、「地域住民の連帯感の強さ」がこの位置に存在する。この 3 つの満足度を連動してともに上げていけるような取り組みを検討してみてはどうかと考える

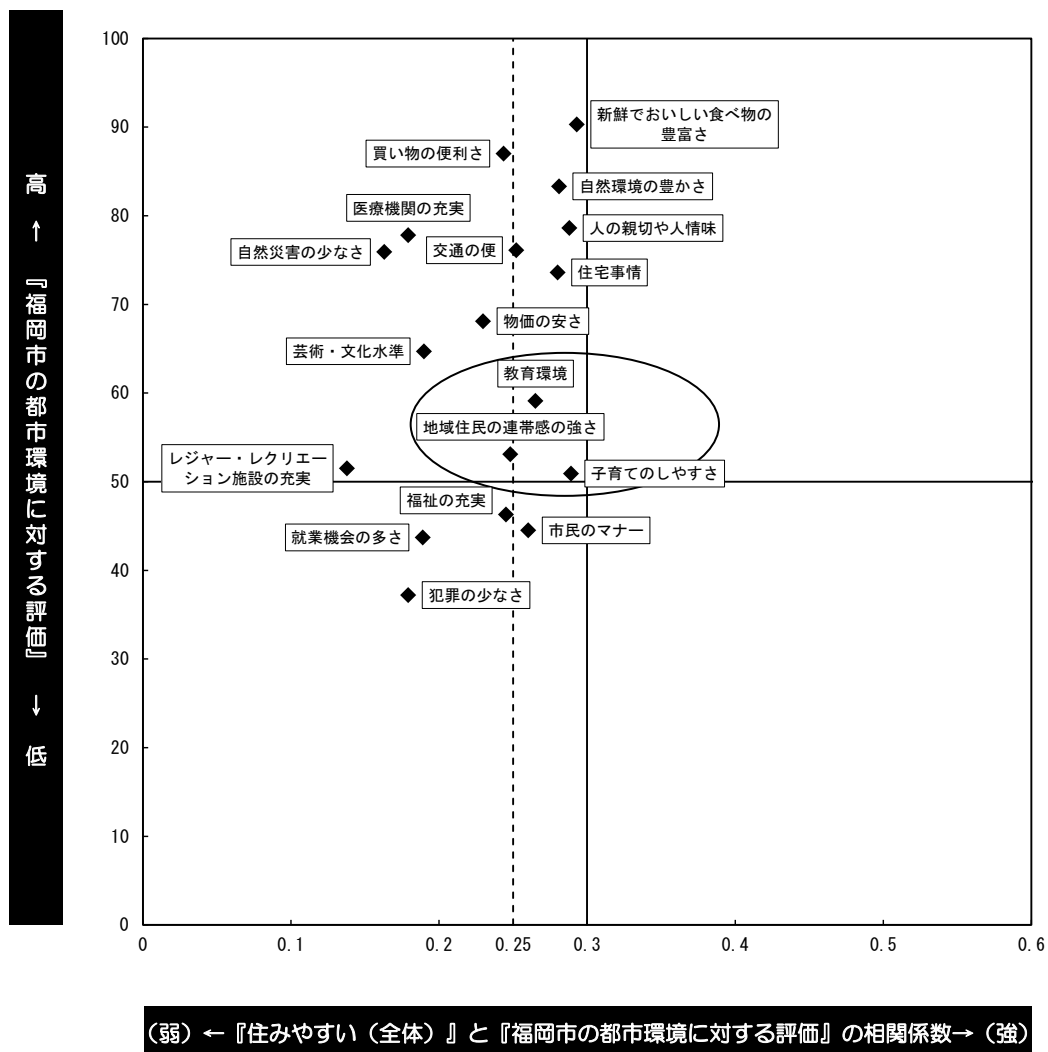
その 1 つの取組方向として考えられるのが「地域活動」だろう。問 8 「地域で行われるとよいと思う活動の内容」において「防犯パトロール」「通学路の見守り」といった子どもの安全を守るような活動が上位を占めた。これらの活動に、子どもを持たず P T A や自治会の子ども会活動と全く接点のない人たちでも参加できるような取り組みやプログラムは考えられないだろうか。福岡

市は単身者が多く、子どもがいる世帯は多いとは言えない。ただ、子どもを持たない人も子どもたちの健やかな成長や安全を望んでいる。そういった気持ちを具現化できるような参加しやすい機会があれば参加する人は増える可能性はある。

例えば、福岡市の都心部では、小中高生の方が社会人の通勤よりも早い時間帯に通学している。福岡市はコンパクトで、職住近接実践者が多いため、一般的に朝が遅いと言われている。一方で、早朝からランニングを楽しんでいる人たちは多い。こういったランナーたちに、「走ることで見守り地域活動に参加できる」と感じられるようなプログラムを提供できないだろうか。

「子育てのしやすさ」「教育環境」「地域住民の連帯感の強さ」それぞれ個々の取り組みも重要だが、「スポーツ振興」や「健康増進維持」などとのコラボレーション事業を「地域活動」の一環として進めていく。そのような新たな挑戦, FUKUOKA NEXTによって、さらなる「好きで住みやすい」福岡市を目指していくことが期待される。

図表9 『住みやすい』と「都市環境等の満足度」の相関係数と都市環境等の満足度との散布図



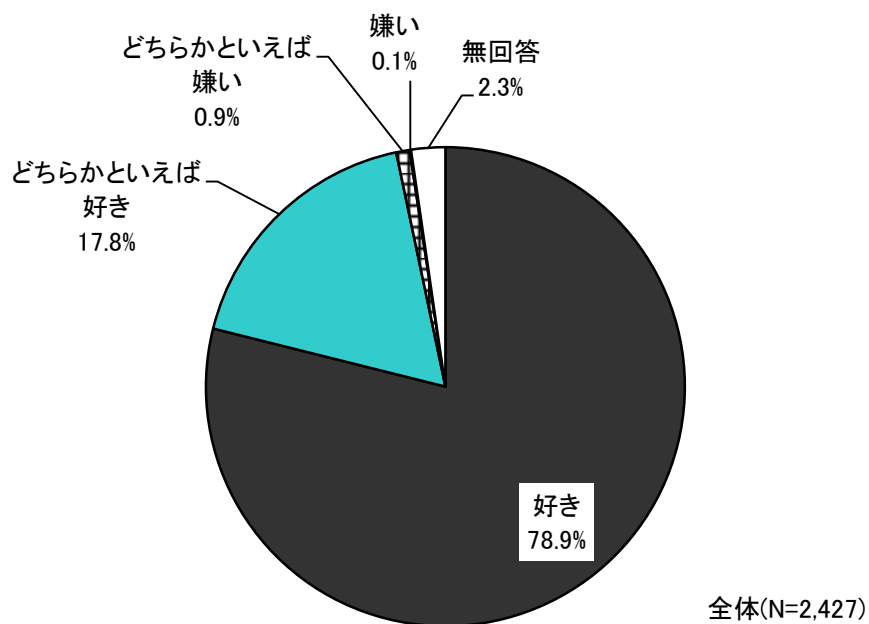
2. 「住みやすさ」に関する調査結果

(1) 福岡市が好きかどうか

問1 あなたは、福岡市が好きですか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

福岡市が好きか聞いたところ、「好き」と回答した人が 78.9%と最も多く、次いで「どちらかといえば好き」(17.8%)となっており、「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた『好き』は 96.7%で9割台後半と大変高くなっている。一方、「嫌い」(0.1%)と「どちらかといえば嫌い」(0.9%)を合わせた『嫌い』は1.0%となっている。

図表 福岡市が好きかどうか【全体】

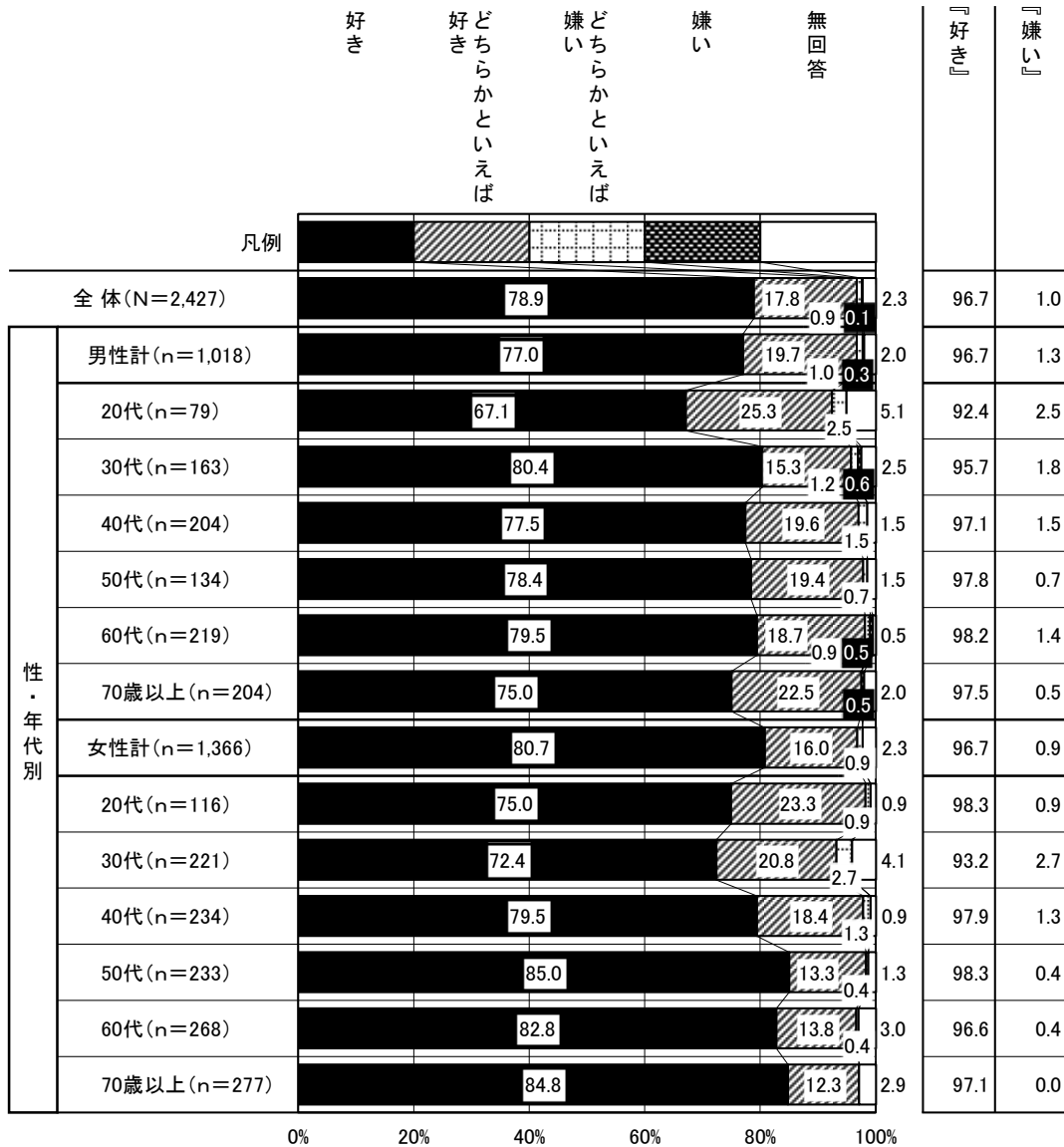


『好き』	96.7%
『嫌い』	1.0%

性別にみると、男女ともに『好き』の割合が9割台後半と高くなっている。

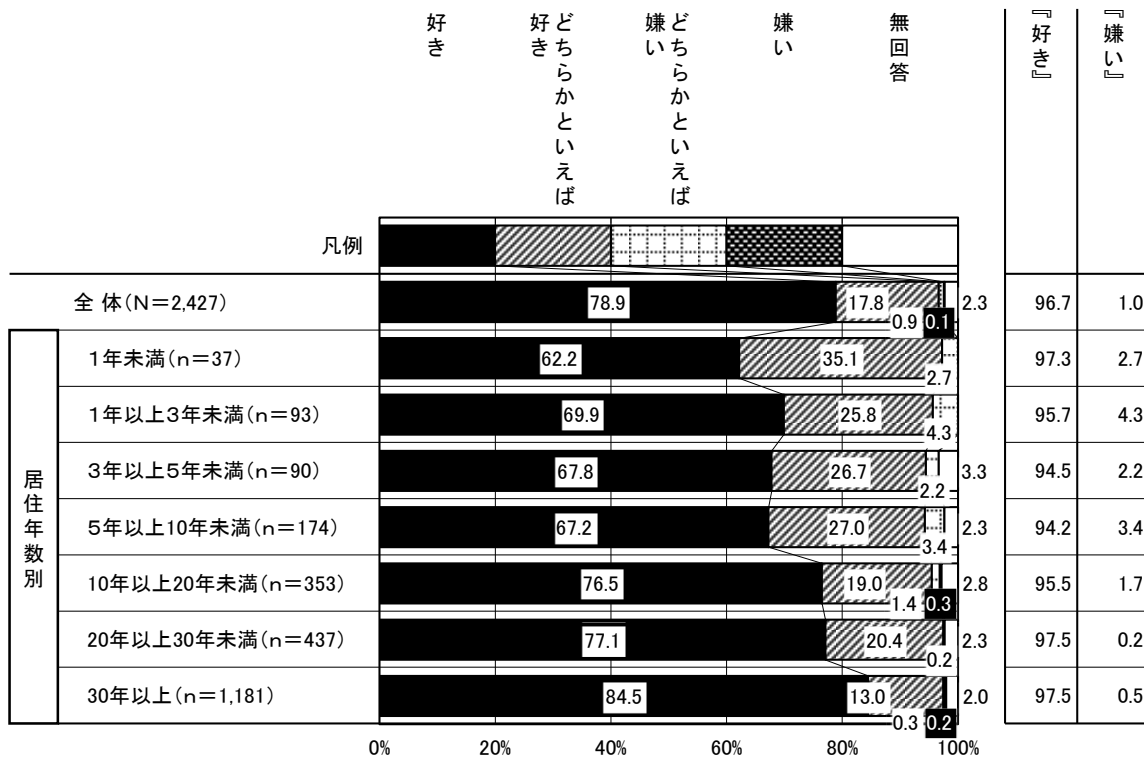
性・年代別にみると、男女ともにいずれの年代でも『好き』の割合が9割を超えており、その内訳をみると、男性30代、女性50代以上では「好き」が8割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 福岡市が好きかどうか【性・年代別】



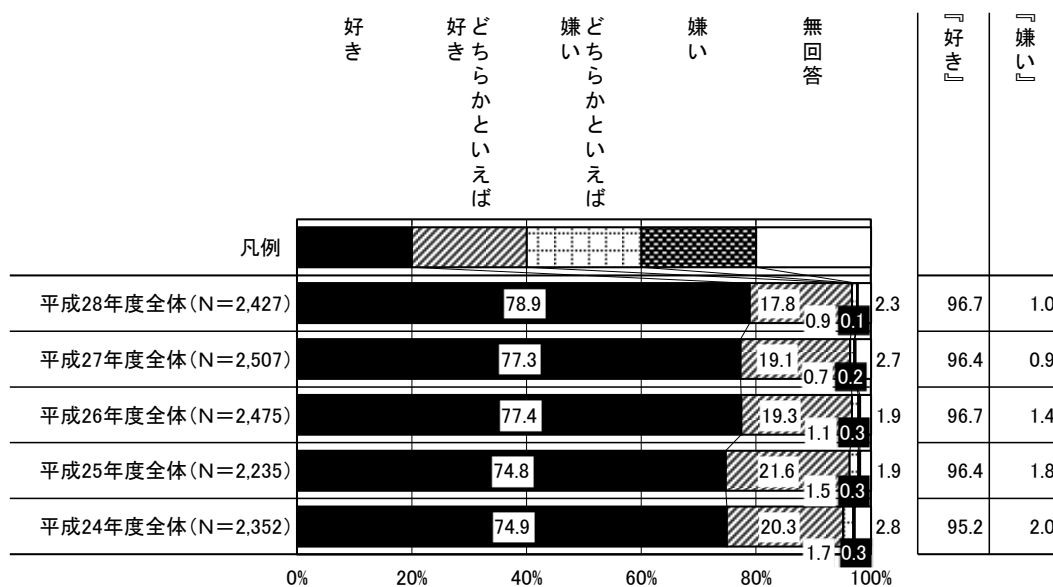
居住年数別にみると、いずれの居住年数においても、『好き』の割合が9割を超えている。居住年数が長いほど「好き」の割合が高くなる傾向があり、30年以上では「好き」の割合が8割台半ばとなっている。

図表 福岡市が好きかどうか【居住年数別】



過去の調査結果をみると、いずれも9割台後半の人が、福岡市を『好き』と回答している。

図表 福岡市が好きかどうか【過去の調査との比較】

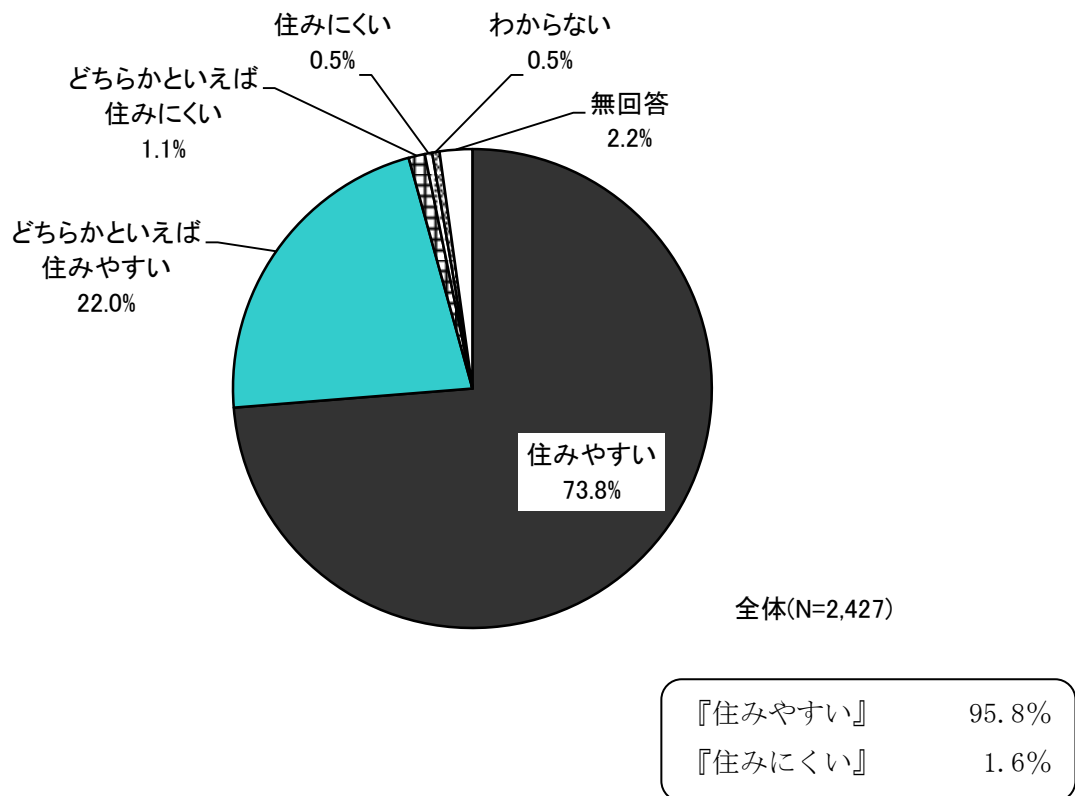


(2) 総合的な福岡市の住みやすさ

問2 総合的にみて、福岡市は住みやすいと思いますか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

総合的な福岡市の住みやすさを聞いたところ、「住みやすい」と回答した人が、73.8%と最も多く、次いで「どちらかといえば住みやすい」(22.0%)となっており、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい』の割合は95.8%で9割台半ばとなっている。一方、「住みにくい」(0.5%)と「どちらかといえば住みにくい」(1.1%)を合わせた『住みにくい』の割合は1.6%となっている。

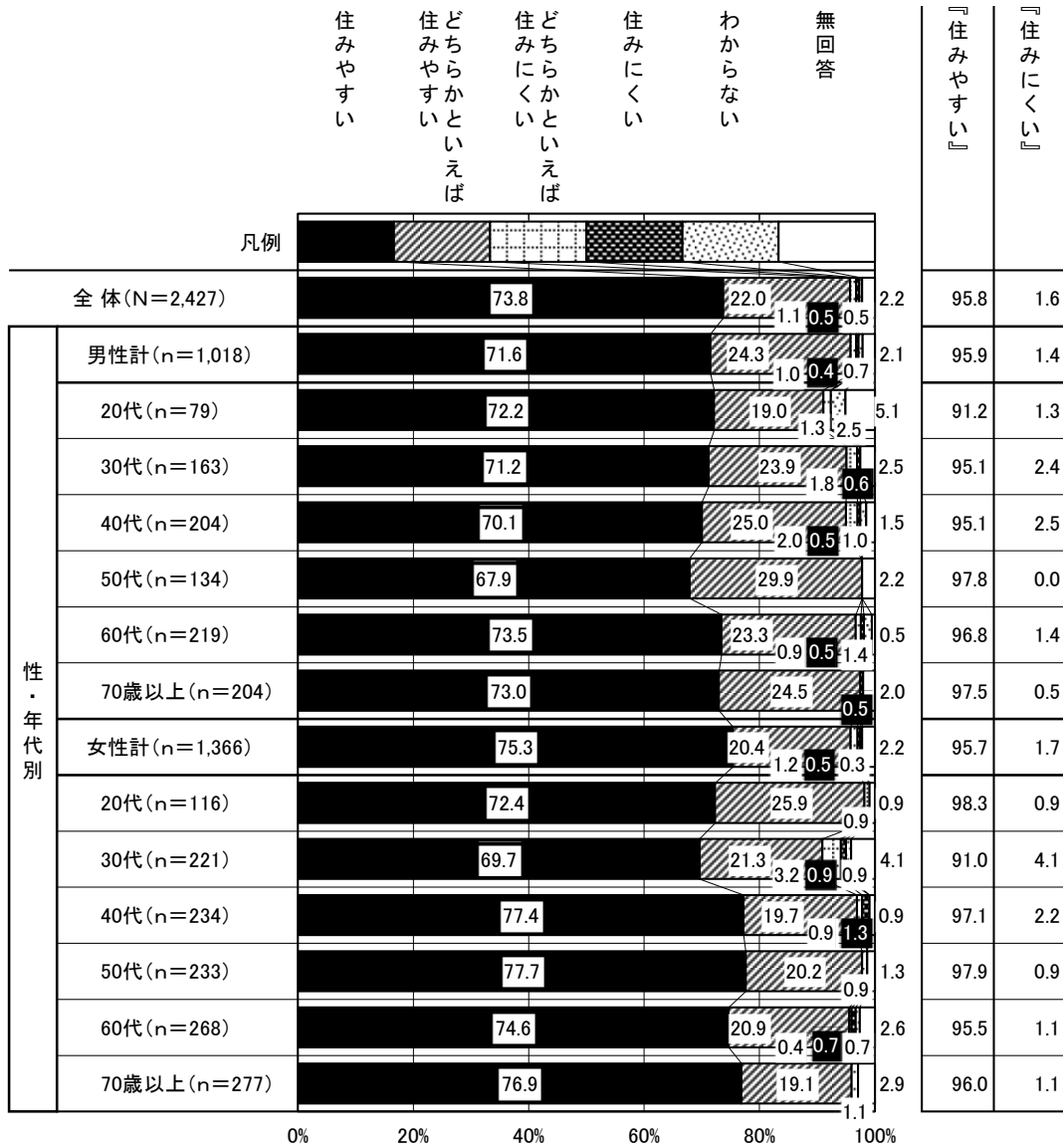
図表 総合的な福岡市の住みやすさ【全体】



性別にみると、男女ともに『住みやすい』の割合が9割台半ばと高くなっている。

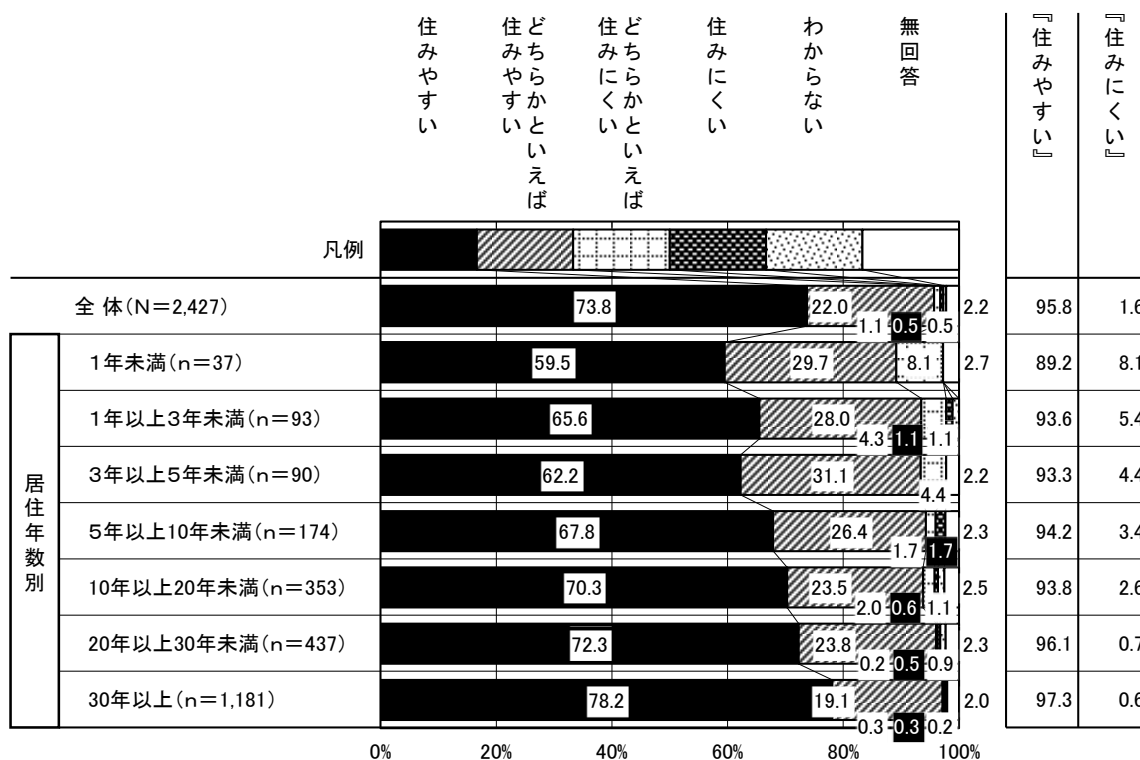
性・年代別にみると、男女ともにいずれの年代でも『住みやすい』の割合が9割を超えて高くなっている。

図表 総合的な福岡市の住みやすさ【性・年代別】



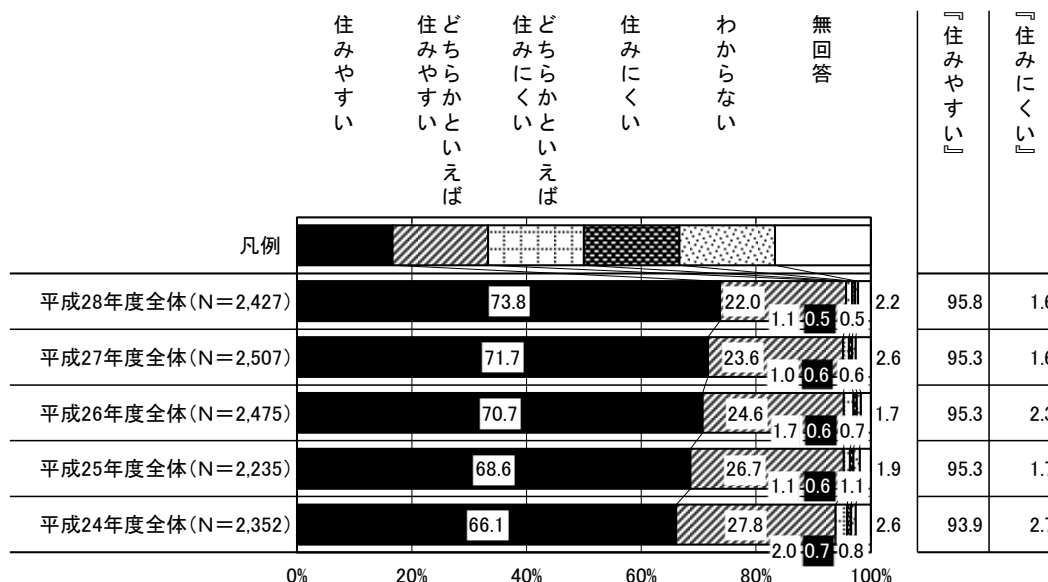
居住年数別にみると、1年未満を除くすべての居住年数において、『住みやすい』の割合が9割を超えている。概ね居住年数が長いほど「住みやすい」の割合が高くなっており、30年以上では「住みやすい」の割合が約8割となっている。

図表 総合的な福岡市の住みやすさ【居住年数別】



過去の調査結果をみると、「住みやすい」の割合は年々高くなっている。

図表 総合的な福岡市の住みやすさ【過去の調査との比較】

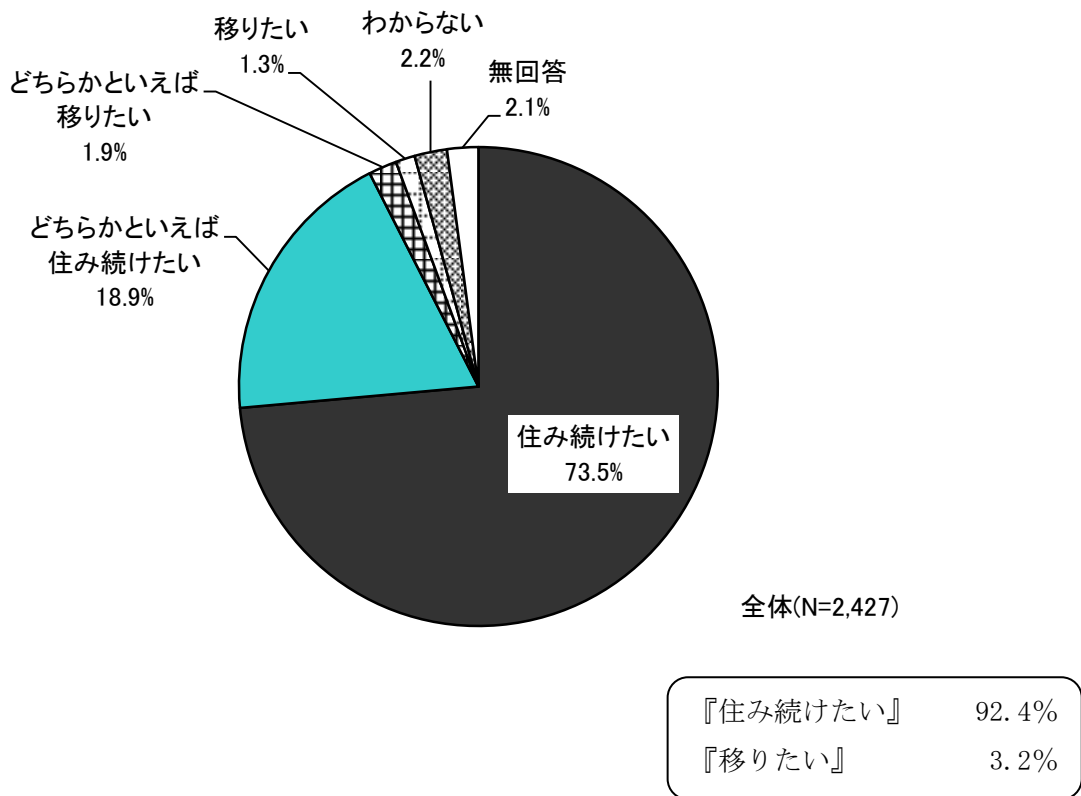


(3) 福岡市にずっと住み続けたいと思うか

問3 あなたは、事情が許せば福岡市にずっと住み続けたいと思いますか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

事情が許せば福岡市にずっと住み続けたいと思うか聞いたところ、「住み続けたい」と回答した人が73.5%と最も多く、次いで「どちらかといえば住み続けたい」(18.9%)となっており、「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『住み続けたい』の割合は92.4%となっている。一方、「移りたい」(1.3%)と「どちらかといえば移りたい」(1.9%)を合わせた『移りたい』の割合は3.2%となっている。

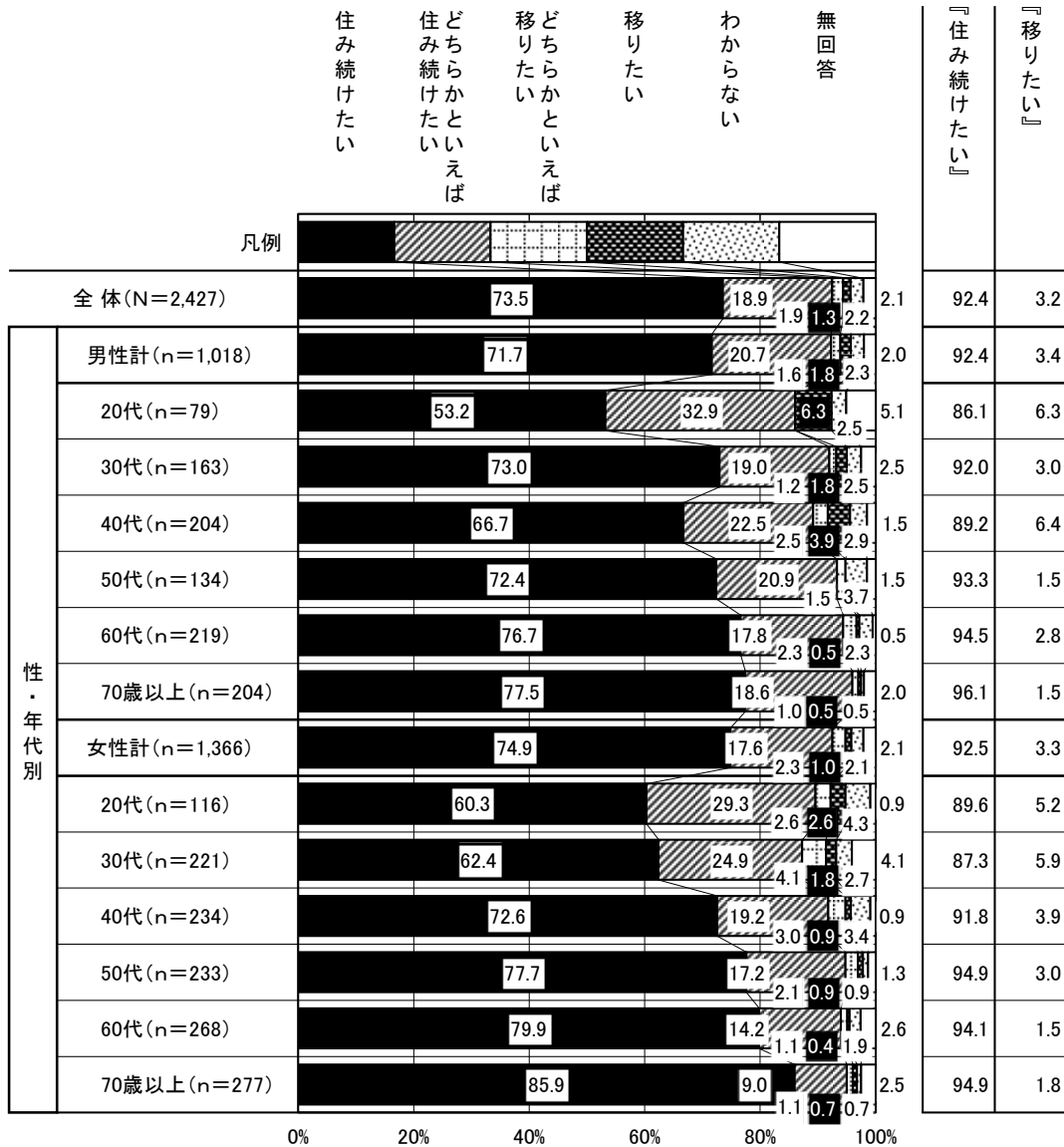
図表 福岡市にずっと住み続けたいと思うか【全体】



性別にみると、男女ともに『住み続けたい』の割合が9割を超えて高くなっている。

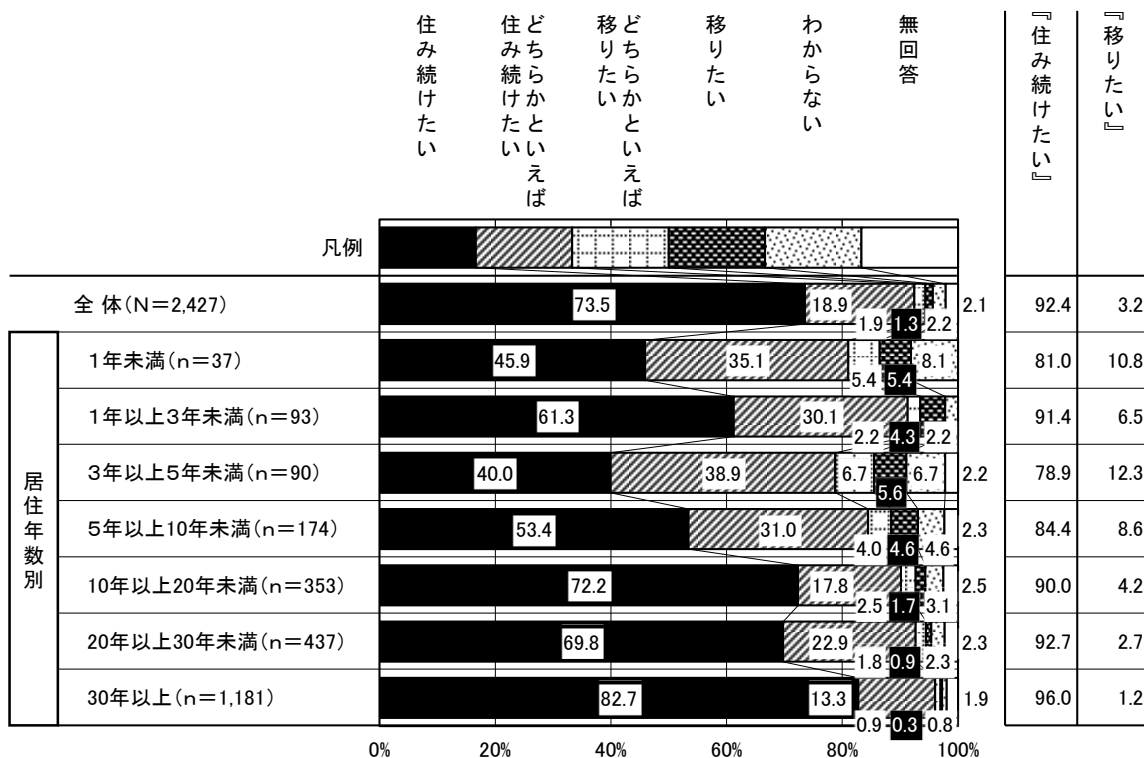
性・年代別にみると、いずれの年代でも『住み続けたい』の割合が8割を超えて高くなっており、その内訳をみると、女性70歳以上では「住み続けたい」の割合が8割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 福岡市にずっと住み続けたいと思うか【性・年代別】



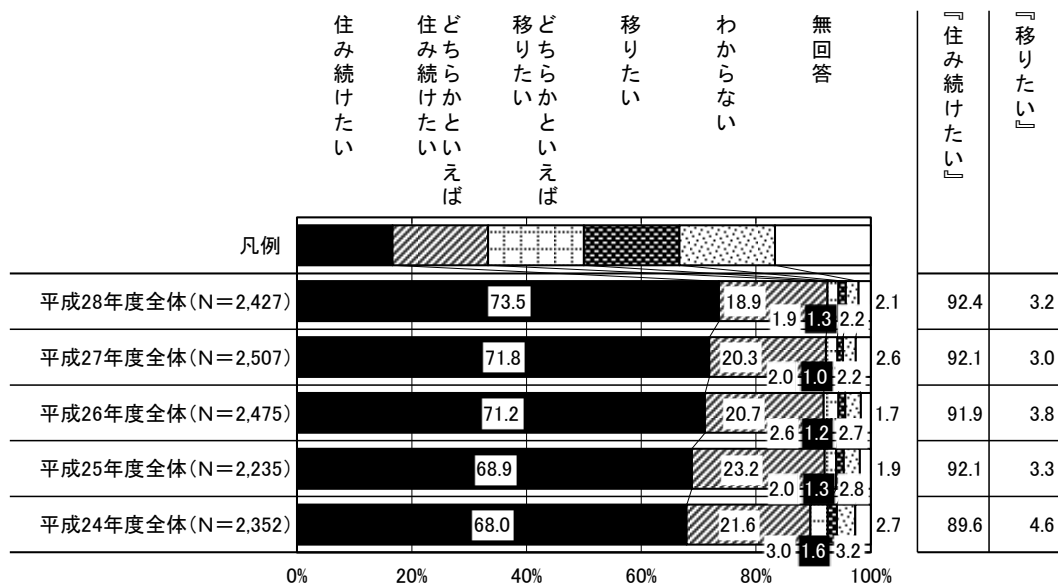
居住年数別にみると、30年以上では「住み続けたい」の割合が8割を超えており、他の居住年数に比べて高くなっている。

図表 福岡市にずっと住み続けたいと思うか【居住年数別】



過去の調査結果をみると、「住み続けたい」の割合は年々高くなっている。

図表 福岡市にずっと住み続けたいと思うか【過去の調査との比較】

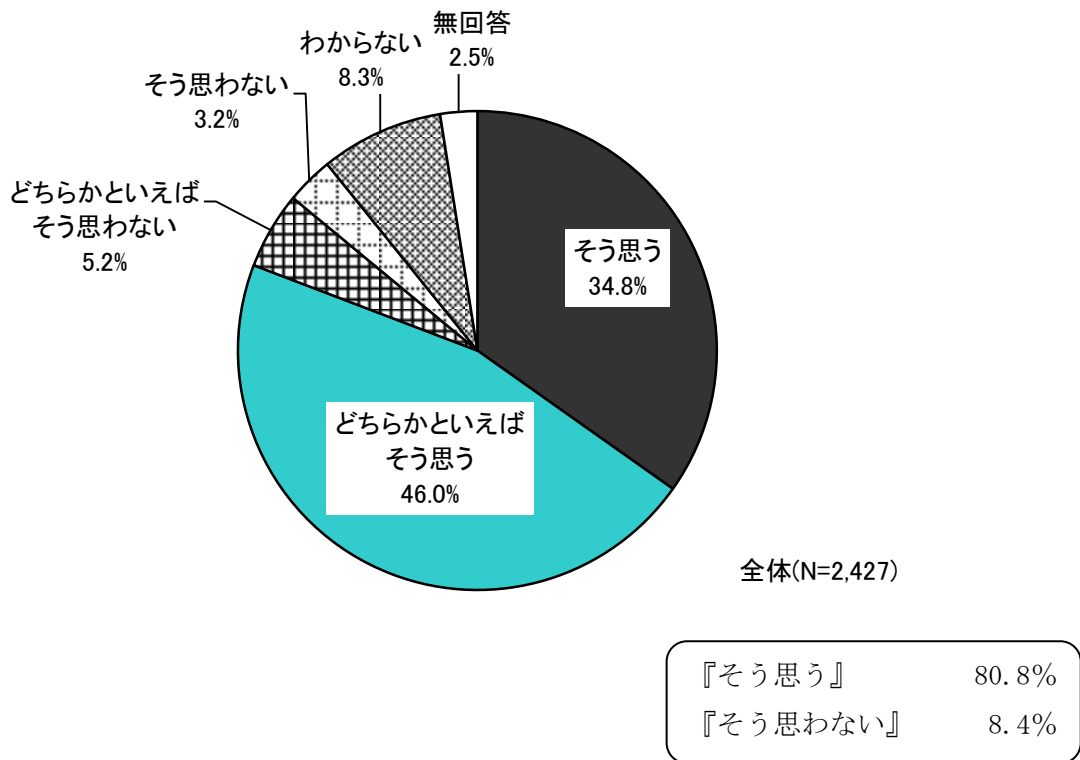


(4) 福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいと思うか

問4 あなたは、福岡市で暮らす人や福岡市を訪れる人のために、何か役に立ちたいと思いますか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいと思うかについて聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」と回答した人が46.0%と最も多く、次いで「そう思う」(34.8%)となっており、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は80.8%と8割を超えている。一方、「そう思わない」(3.2%)と「どちらかといえばそう思わない」(5.2%)を合わせた『そう思わない』の割合は8.4%となっている。

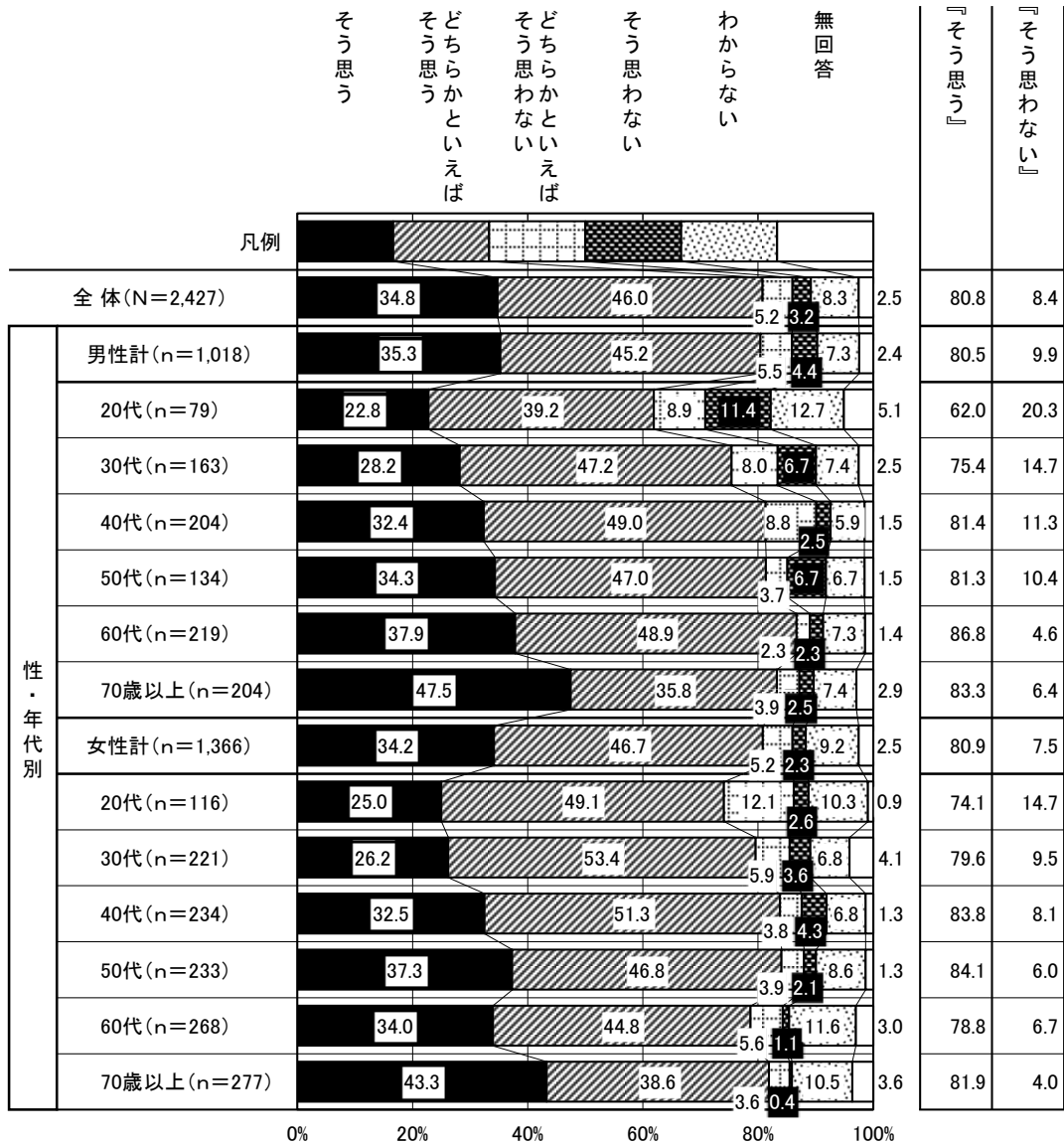
図表 福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいと思うか【全体】



性別にみると、男女ともに『そう思う』の割合は8割を超えている。

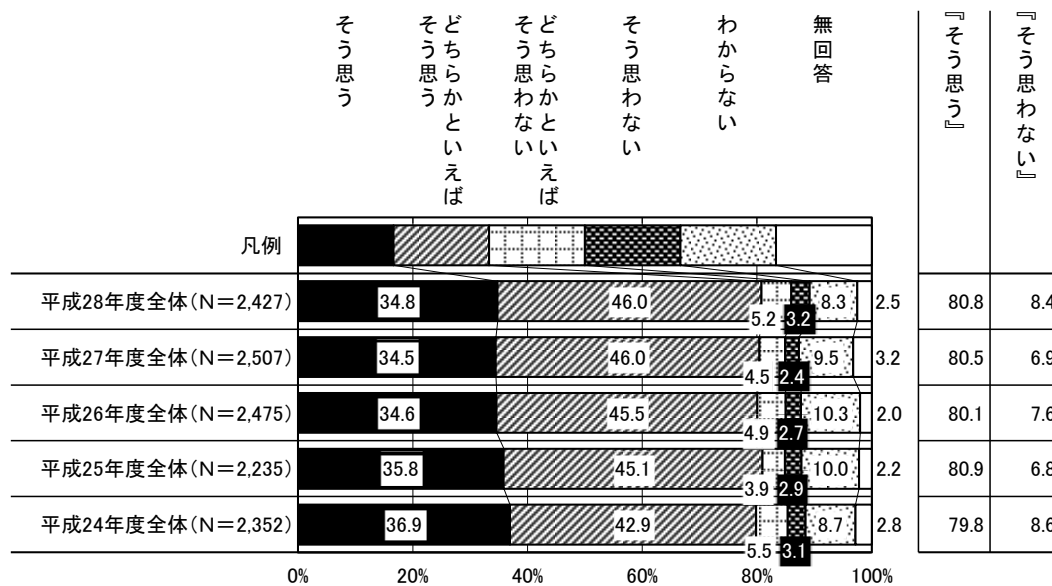
性・年代別にみると、男性20代では『そう思う』の割合が6割台となっており、他の性・年代に比べて低くなっている。男女ともに70歳以上では「そう思う」の割合が4割台となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいと思うか【性・年代別】



過去の調査結果をみると、いずれも約8割の人が、『そう思う』と回答している。

図表 福岡市民や訪問者のために何か役に立ちたいと思うか【過去の調査との比較】



※平成24年度から27年度の設問は「あなたは、福岡市のために何か役に立ちたいと思いますか。」

(5) 福岡市の都市環境等に関する満足度

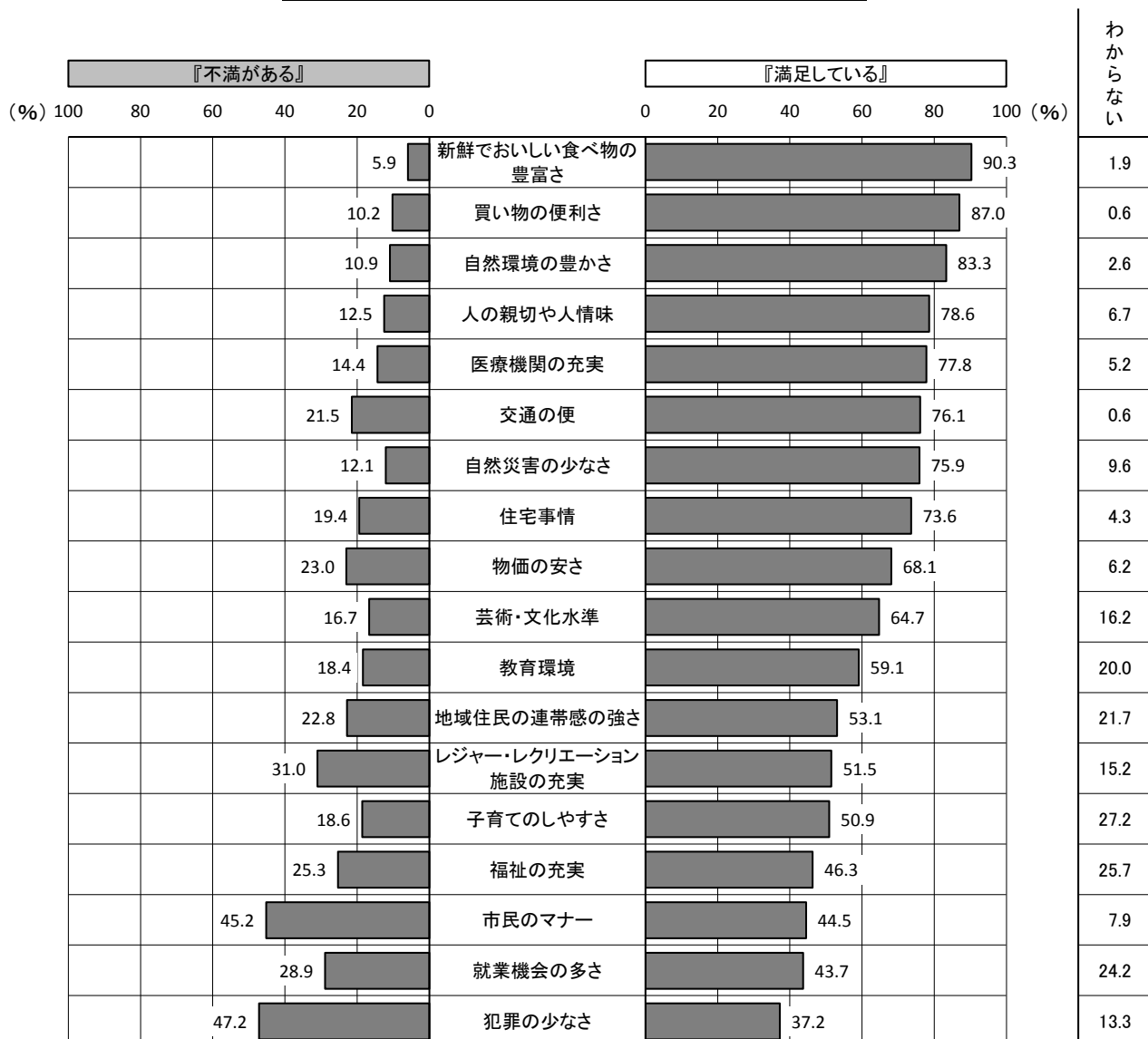
問5 以下の福岡市の都市環境等についてどの程度満足していますか。もしくは不満がありますか。(1)～(18)のそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選び、番号に○をつけてください。

福岡市の都市環境等で、『満足している』(=「満足している」+「どちらかといえば満足している」)と回答した人は、「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」が90.3%と最も多く、次いで「買い物の便利さ」(87.0%)、「自然環境の豊かさ」(83.3%)となっている。

一方、『不満がある』(=「不満がある」+「どちらかといえば不満がある」)と回答した人は、「犯罪の少なさ」が47.2%と最も多く、次いで「市民のマナー」(45.2%)、「レジャー・レクリエーション施設の充実」(31.0%)となっている。

また、「わからない」と回答した人は、「子育てのしやすさ」が27.2%と最も多く、次いで「福祉の充実」(25.7%)、「就業機会の多さ」(24.2%)となっている。

図表 福岡市の都市環境等に関する満足度【全体】



福岡市の都市環境等で『満足している』点について、性別にみると男女ともに「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」（男性：90.4％、女性：90.4％）の満足度が最も高くなっている。

性・年代別にみると、女性20代を除くすべての性・年代では「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」、女性20代では「買い物の便利さ」の満足度が最も高くなっている。男女ともに70歳以上では「福祉の充実」の割合が約6割となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 福岡市の都市環境等で『満足している』点【性・年代別】

単位：％

	調査数	自然環境の豊かさ	住宅事情	交通の便	買い物の便利さ	物価の安さ	新鮮でおいしい食べ物の豊富さ	芸術・文化水準	教育環境	子育てのしやすさ
全体	2,427	83.3 (3位)	73.6	76.1	87.0 (2位)	68.1	90.3 (1位)	64.7	59.1	50.9
男性計	1,018	82.4 (3位)	73.4	73.4	87.4 (2位)	65.7	90.4 (1位)	61.9	57.4	49.6
20代	79	68.3	76.0 (4位)	78.5 (3位)	86.1 (2位)	56.9	88.6 (1位)	50.6	39.2	25.3
30代	163	78.5 (4位)	64.4	71.2 (5位)	86.5 (2位)	64.4	89.6 (1位)	52.2	46.7	39.2
40代	204	81.4 (3位)	72.0 (5位)	68.2	87.8 (2位)	68.6	88.7 (1位)	60.8	52.4	49.0
50代	134	87.3 (3位)	78.4 (5位)	70.9	91.1 (2位)	72.3	95.5 (1位)	66.4	61.1	56.7
60代	219	85.0 (3位)	73.9	73.6	88.1 (2位)	63.0	91.7 (1位)	64.8	59.8	51.1
70歳以上	204	86.8 (3位)	77.9	79.9	85.8 (5位)	65.7	89.2 (1位)	69.1	72.5	61.3
女性計	1,366	83.9 (3位)	73.9	78.0 (5位)	86.7 (2位)	69.8	90.4 (1位)	66.9	60.1	51.8
20代	116	71.6	77.6 (4位)	86.2 (2位)	95.7 (1位)	66.4	86.2 (2位)	60.3	54.3	25.9
30代	221	76.4	66.5	76.9 (4位)	85.5 (2位)	64.7	88.7 (1位)	63.4	49.8	48.0
40代	234	84.6 (3位)	73.9	78.6 (5位)	89.3 (2位)	74.3	93.6 (1位)	67.1	56.8	55.6
50代	233	88.0 (3位)	74.3	75.5	88.4 (2位)	72.6	94.0 (1位)	64.4	64.8	57.0
60代	268	88.0 (2位)	74.3	77.2	86.2 (3位)	69.7	89.5 (1位)	68.2	64.2	57.5
70歳以上	277	87.4 (2位)	78.0	77.6	80.1	68.6	88.8 (1位)	71.4	65.0	50.9

	就業機会の多さ	医療機関の充実	福祉の充実	人の親切や人情味	地域住民の連帯感の強さ	自然災害の少なさ	犯罪の少なさ	市民のマナー	レジャー施設・レクリエーションの充実	
43.7	77.8 (5位)	46.3	78.6 (4位)	53.1	75.9	37.2	44.5	51.5	全体	
44.8	78.3 (4位)	46.4	77.1 (5位)	51.0	75.7	39.4	43.2	51.4	男性計	
43.0	74.7 (5位)	38.0	72.2	30.4	67.1	22.8	39.2	48.1	20代	
40.5	80.4 (3位)	38.1	70.6	44.2	70.6	27.6	36.2	48.5	30代	
46.6	70.5	43.7	77.9 (4位)	52.9	66.7	27.5	39.7	48.6	40代	
44.8	79.1 (4位)	42.5	76.9	47.0	75.4	37.3	38.8	52.2	50代	
45.7	77.2	48.4	81.7 (4位)	55.7	79.0 (5位)	47.5	45.2	53.0	60代	
45.6	86.8 (4位)	59.3	78.9	59.8	88.7 (2位)	59.8	53.5	56.8	70歳以上	
42.9	77.4	46.1	80.0 (4位)	54.7	76.0	35.6	45.4	51.8	女性計	
43.1	74.1	37.9	75.9 (5位)	37.9	62.0	16.4	35.3	51.7	20代	
43.4	77.4 (3位)	37.1	76.5 (5位)	49.8	68.3	25.3	40.8	51.5	30代	
51.3	77.8	40.6	81.6 (4位)	58.5	72.2	27.3	41.9	50.8	40代	
42.1	73.4	42.1	78.1 (4位)	51.1	78.1 (4位)	33.0	41.2	51.5	50代	
42.9	76.5	47.3	79.5 (5位)	57.8	80.2 (4位)	45.6	49.6	52.2	60代	
34.6	82.3 (5位)	62.5	84.4 (4位)	61.0	84.5 (3位)	50.5	54.9	52.0	70歳以上	

福岡市の都市環境等で『満足している』点について、行政区別にみると、博多区では「買い物
の便利さ」、それ以外の行政区では「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」の満足度が最も高くなっ
ている。

図表 福岡市の都市環境等で『満足している』点【行政区別】

単位：％

	調査数	自然環境の豊かさ	住宅事情	交通の便	買い物の便利さ	物価の安さ	新鮮でおいしい食べ物の豊富さ	芸術・文化水準	教育環境	子育てのしやすさ
全体	2427	83.3	73.6	76.1	87.0	68.1	90.3	64.7	59.1	50.9
東区	491	83.0	74.0	78.3	85.3	65.4	89.4	63.5	57.8	53.8
博多区	311	75.9	69.2	82.6	90.7	69.8	85.5	60.1	53.7	42.1
中央区	283	79.9	66.0	79.9	89.4	66.8	91.8	66.8	58.3	46.3
南区	406	83.2	78.3	71.5	86.5	68.0	88.0	67.0	59.6	49.0
城南区	226	86.3	71.7	69.9	88.5	67.7	93.3	62.0	58.8	48.3
早良区	351	86.3	76.7	75.8	86.4	70.3	92.6	67.8	62.7	55.6
西区	322	87.9	76.7	73.3	84.2	68.9	93.8	64.9	61.5	58.1

就業機会の多さ	医療機関の充実	福祉の充実	人の親切や人情味	地域住民の連帯感の強さ	自然災害の少なさ	犯罪の少なさ	市民のマナー	レジャー施設・レクリエー	
43.7	77.8	46.3	78.6	53.1	75.9	37.2	44.5	51.5	全体
41.9	77.0	45.8	77.8	51.6	73.9	34.4	43.2	52.0	東区
48.9	79.1	45.3	72.0	52.7	71.4	33.7	40.8	51.8	博多区
43.4	76.3	39.2	80.5	45.2	72.7	38.2	44.8	50.5	中央区
43.6	76.6	47.0	80.3	53.2	79.3	38.2	48.3	48.8	南区
40.2	81.4	47.3	81.4	57.0	82.3	37.1	46.9	54.0	城南区
43.8	79.0	49.9	79.5	56.4	74.9	38.2	43.6	49.8	早良区
44.1	77.4	47.8	79.8	57.1	78.0	41.9	44.1	55.6	西区

福岡市の都市環境等で『不満がある』点について、性別にみると、男女ともに「犯罪の少なさ」（男性：49.3％、女性：45.6％）の不満度が最も高くなっている。男性では「地域住民の連帯感の強さ」（26.8％）の割合が女性と比べて6.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、すべての性・年代において「犯罪の少なさ」「市民のマナー」の不満度が他の項目に比べて高くなっている。

図表 福岡市の都市環境等で『不満がある』点【性・年代別】

単位：％

	調査数	自然環境の豊かさ	住宅事情	交通の便	買い物の便利さ	物価の安さ	新鮮でおいしい食べ物	芸術・文化水準	教育環境	子育てのしやすさ
全体	2,427	10.9	19.4	21.5	10.2	23.0	5.9	16.7	18.4	18.6
男性計	1,018	11.6	19.7	23.5	9.5	24.0	4.8	18.1	21.3	20.0
20代	79	19.0	15.2	17.7	10.1	25.3	3.8	12.6	27.8	14.0
30代	163	14.7	27.6 (5位)	25.8	10.4	21.5	6.1	15.4	24.6	24.0
40代	204	14.2	23.5	29.0	8.4	24.0	6.4	20.6	26.4	26.5
50代	134	8.2	17.9	26.1	6.7	21.6	2.2	22.4	21.6	19.4
60代	219	10.0	17.8	23.7	8.7	26.0	4.1	17.4	19.2	18.8
70歳以上	204	6.9	14.2	16.7	11.3	23.6	4.4	16.6	12.8	14.2
女性計	1,366	10.4	19.4	20.1	10.8	22.5	6.6	15.8	16.4	17.7
20代	116	20.7	16.4	13.8	3.4	25.8 (5位)	11.2	17.2	16.4	23.3
30代	221	17.2	28.1 (5位)	22.2	12.2	28.1 (5位)	8.6	15.4	24.4	27.1
40代	234	12.8	21.3	19.7	9.4	20.5	4.7	19.7	21.8	18.8
50代	233	6.9	18.8	22.8	9.5	20.6	4.3	21.9	18.1	18.5
60代	268	7.1	19.8	20.5	11.2	24.3	6.7	16.8	12.3	16.0
70歳以上	277	4.7	11.6	18.8 (4位)	15.2	19.1 (3位)	6.5	7.2	8.3	8.7

就業機会の多さ	医療機関の充実	福祉の充実	人の親切や人情味	地域住民の連帯感の強さ	自然災害の少なさ	犯罪の少なさ	市民のマナー	レジャー施設・レクリエーションの充実	
28.9 (4位)	14.4	25.3 (5位)	12.5	22.8	12.1	47.2 (1位)	45.2 (2位)	31.0 (3位)	全体
30.1 (4位)	14.3	27.3 (5位)	14.4	26.8	14.9	49.3 (1位)	47.6 (2位)	33.0 (3位)	男性計
29.1 (4位)	15.2	12.7	15.2	30.4 (3位)	16.4	58.2 (1位)	46.8 (2位)	27.9 (5位)	20代
35.0 (3位)	8.6	21.4	18.4	24.5	17.8	58.9 (1位)	53.4 (2位)	31.9 (4位)	30代
29.9 (4位)	21.1	29.4 (5位)	15.7	24.5	23.1	62.2 (1位)	51.9 (2位)	38.7 (3位)	40代
35.1 (4位)	12.6	32.8 (5位)	12.6	30.6	14.2	56.8 (1位)	53.0 (2位)	35.9 (3位)	50代
29.2 (5位)	16.4	32.8 (3位)	11.9	28.3	12.4	41.1 (2位)	47.0 (1位)	31.5 (4位)	60代
24.5	9.8	25.5 (4位)	13.2	25.0 (5位)	6.4	29.0 (2位)	36.3 (1位)	28.4 (3位)	70歳以上
28.4 (4位)	14.9	24.0 (5位)	11.0	19.9	10.2	45.6 (1位)	43.9 (2位)	29.7 (3位)	女性計
29.3 (4位)	9.5	15.5	15.5	20.7	20.6	65.6 (1位)	56.1 (2位)	32.8 (3位)	20代
30.3 (4位)	16.8	24.0	15.4	21.8	17.2	61.1 (1位)	47.9 (2位)	35.3 (3位)	30代
30.4 (4位)	16.3	23.9 (5位)	11.9	17.0	11.9	57.7 (1位)	50.4 (2位)	35.9 (3位)	40代
34.4 (3位)	20.6	28.8 (5位)	11.2	24.9	9.4	49.3 (2位)	49.8 (1位)	32.7 (4位)	50代
32.1 (3位)	16.4	30.9 (4位)	11.2	19.1	7.4	36.2 (2位)	39.9 (1位)	27.6 (5位)	60代
16.3	8.6	17.7	4.7	17.3	2.6	21.3 (2位)	30.3 (1位)	18.7 (5位)	70歳以上

福岡市の都市環境等で『不満がある』点について、行政区別にみると、東区、博多区、中央区、南区、城南区では「犯罪の少なさ」、早良区、西区では「市民のマナー」の不満度が最も高くなっている。

図表 福岡市の都市環境等で『不満がある』点【行政区別】

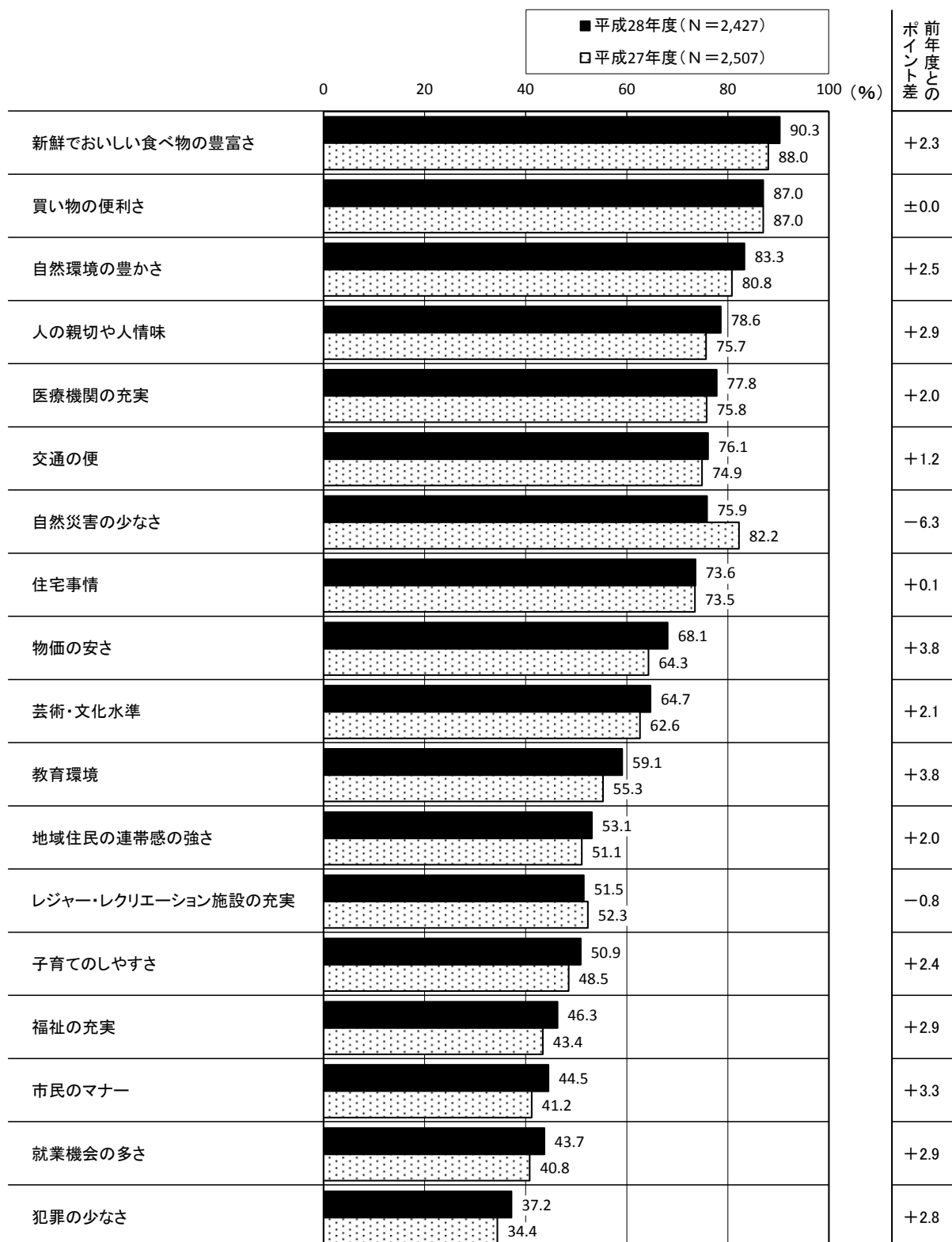
単位：%

	調査数	自然環境の豊かさ	住宅事情	交通の便	買い物の便利さ	物価の安さ	食・新鮮でおいしい物の豊富さ	芸術・文化水準	教育環境	子育てのしやすさ
全体	2427	10.9	19.4	21.5	10.2	23.0	5.9	16.7	18.4	18.6
東区	491	10.6	18.7	18.9	12.1	25.7	6.9	14.6	19.0	19.8
博多区	311	16.4	21.9	15.5	6.7	22.2	9.7	15.1	14.8	17.4
中央区	283	14.1	28.9	18.1	8.2	26.5	5.0	22.3	15.2	17.0
南区	406	10.8	16.0	25.6	10.1	21.9	7.7	16.0	19.7	20.4
城南区	226	10.6	21.6	28.3	8.9	23.4	4.4	19.9	23.0	22.1
早良区	351	9.7	16.9	22.5	11.9	22.3	4.3	16.5	19.4	17.0
西区	322	5.2	15.8	23.6	12.1	19.8	1.9	16.1	18.6	16.8

就業機会の多さ	医療機関の充実	福祉の充実	人の親切や人情味	地域住民の連帯感の強さ	自然災害の少なさ	犯罪の少なさ	市民のマナー	レジャー施設・レクリエー	
28.9	14.4	25.3	12.5	22.8	12.1	47.2	45.2	31.0	全体
29.5	15.0	26.3	12.3	23.0	12.8	48.9	45.1	30.7	東区
25.4	13.2	22.1	17.7	21.5	14.4	49.2	47.9	29.9	博多区
27.3	14.2	26.5	13.1	25.8	13.8	49.8	46.6	32.9	中央区
29.8	14.5	27.5	11.6	24.7	10.6	45.3	42.3	33.7	南区
31.4	15.0	25.7	10.1	21.7	10.2	46.1	42.5	29.7	城南区
31.3	14.8	24.8	11.7	23.1	14.5	47.6	48.5	31.7	早良区
28.2	14.9	24.2	11.5	19.2	8.7	43.2	45.4	28.2	西区

過去の調査結果と比較すると、平成 28 年度は平成 27 年度に比べて満足度が高くなった項目が 15 項目、低くなった項目が 2 項目となっている。平成 27 年度と比べて特にポイント差が大きいものについてみると、「自然災害の少なさ」が-6.3 ポイント、「物価の安さ」「教育環境」が+3.8 ポイントとなっている。

図表 福岡市の都市環境等に関する満足度【過去の調査との比較】



不満度について、過去の調査結果と比較すると、平成28年度は平成27年度に比べて、不満度が低くなった項目が14項目、高くなった項目が4項目となっている。平成27年度と比べて特にポイントの差が大きいものについてみると、「自然災害の少なさ」が+4.5ポイント、「教育環境」が-2.8ポイントとなっている。

図表 福岡市の都市環境等に関する不満度【過去の調査との比較】

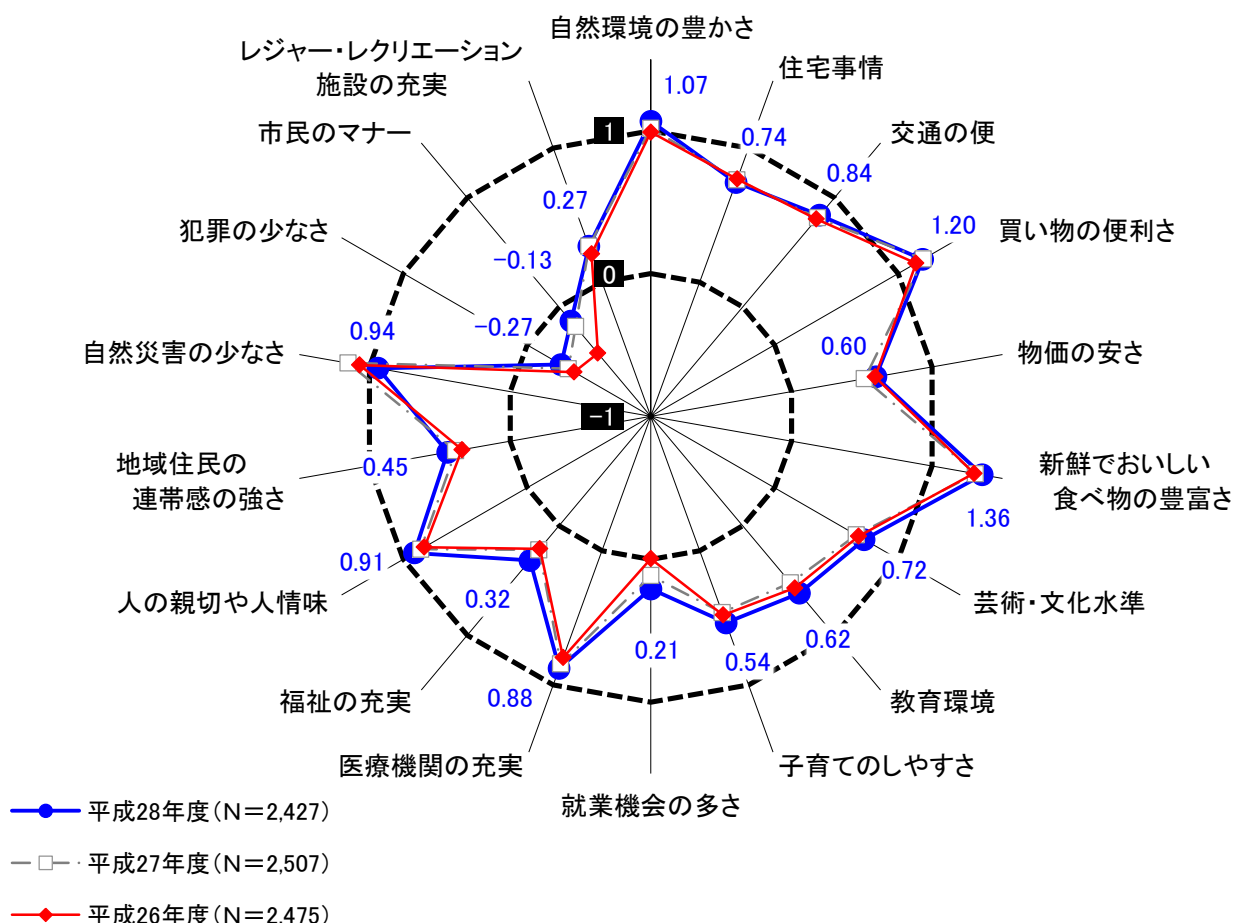


福岡市の都市環境等の満足度について、平均評定値*を過去の調査結果と比較すると、平成 28 年度は平成 27 年度と比べて、「住宅事情」「買い物の便利さ」「自然災害の少なさ」「レジャー・レクリエーション施設の充実」以外の項目で平均評定値が 0.03 ポイント～0.10 ポイント高くなっている。また、「自然環境の豊かさ」「交通の便」「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」「就業機会の多さ」「医療機関の充実」「福祉の充実」「人の親切や人情味」「地域住民の連帯感の強さ」「犯罪の少なさ」「市民のマナー」については、平成 26 年度から年々ポイントが上がってきている。

さらに、「買い物の便利さ」「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」は、平成 26 年度～平成 28 年度のすべての年で平均評定値が 1.00 を超えている。「自然災害の少なさ」については、平成 27 年度までは平均評定値が 1.00 を超えていたが、平成 28 年度では平均評定値が 1.00 を下回っている。

一方、「犯罪の少なさ」「市民のマナー」は、平成 26 年度～平成 28 年度のすべての年で平均評定値がマイナスとなっているが、いずれも平成 26 年度から年々ポイントが上がり、不満度が低くなっている。

図表 福岡市の都市環境等に関する満足度（平均評定値）【過去の調査との比較】



※平均評定値について
 イメージ等、通常は数値的に評価することができないものを定量的に評価するため、「満足している」：+2点、「どちらかといえば満足」：+1点、「どちらかといえば不満」：-1点、「不満がある」：-2点と回答を得点化し、この平均を求めたもの。したがって、+2点に近いほど「肯定（好意的）」、逆に-2点に近いほど「否定（非好意的）」であることを示す。

図表 福岡市の都市環境等に関する満足度（平均評定値）【過去の調査との比較】

単位：点

	調査数	自然環境の豊かさ	住宅事情	交通の便	買い物の便利さ	物価の安さ	新鮮でおいしい食べ物 の豊かさ	芸術・文化水準	教育環境	子育てのしやすさ
平成28年度	2,427	1.07	0.74	0.84	1.20	0.60	1.36	0.72	0.62	0.54
平成27年度	2,507	1.02	0.76	0.81	1.20	0.52	1.31	0.66	0.52	0.46
平成26年度	2,475	0.99	0.77	0.80	1.14	0.59	1.30	0.68	0.57	0.48

就業機会の多さ	医療機関の充実	福祉の充実	人の親切や人情味	地域住民の連帯感の強さ	自然災害の少なさ	犯罪の少なさ	市民のマナー	レジャー・レクリエーション施設の充実	
0.21	0.88	0.32	0.91	0.45	0.94	-0.27	-0.13	0.27	平成28年度
0.12	0.84	0.22	0.86	0.39	1.15	-0.33	-0.18	0.27	平成27年度
0.00	0.80	0.21	0.83	0.34	1.07	-0.38	-0.42	0.21	平成26年度

※網掛けは「0.00」から最も遠い数値に行っている。

3. 「地域の活動やまちづくり」に関する調査結果の総括

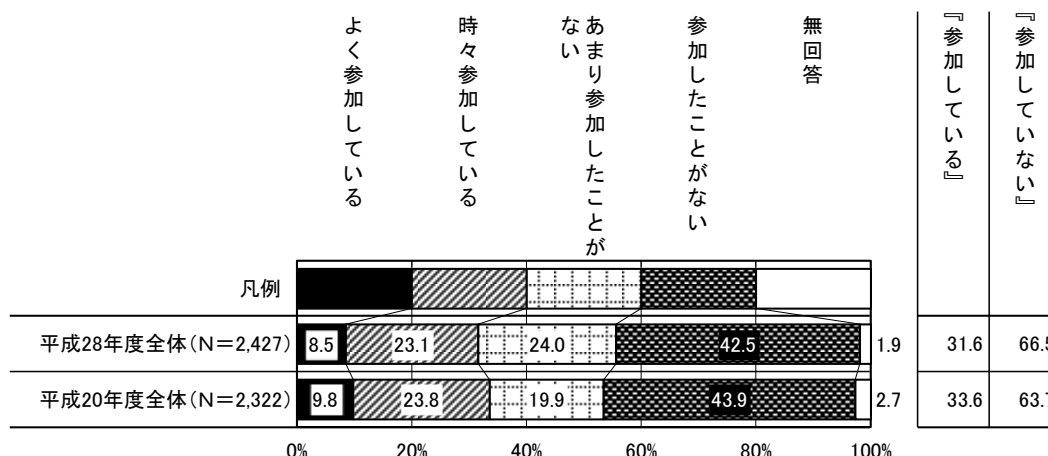
(1) 地域活動（問6～問8）

福岡市民が「地域」という言葉から思い浮かべる範囲は、さまざまであると思われる。人々にとっての地域という感覚は、一定の地理的な範囲に対して、なにがしかの愛着が寄せられることによってつくられていく。このため、より広域の福岡市全体を地域とする捉え方もあるだろうし、区単位、校区単位、あるいはさらに小さな町内単位として捉えられる場合もあるだろう。本来は多様であるはずの地域を本調査では、「町内から小学校区程度の範囲」とし、また、地域活動を「お住まいの地域で、住民が行っている活動」としたうえで、「対人支援活動」（子育て支援、青少年の健全育成、高齢者・障がい者福祉、健康づくり）、「啓発活動」（人権、男女共同参画、地域に関する学習）、「スポーツ・レクリエーション活動」、「環境活動」（ごみ減量・リサイクル、環境美化）、「安全安心活動」（防災、防犯、交通安全）、「交流活動」（住民同士の交流、外国人との交流）といった対象、領域によって分類し、参加実態等を確認した。

- ◇過去2年間の地域活動への参加経験を持つ回答者は3割程度にとどまるが、地域活動の必要性は9割近い回答者が認めている
- ◇地域活動の活動内容は環境活動、交流活動、スポーツ・レクリエーション活動などが中心であるが、大切だと思う活動は、安全安心活動や対人支援活動であった
- ◇地域活動参加を難しくしている要因は、主に時間不足であった

まず、過去2年間の地域活動へ参加を尋ねたところ（問6）、『参加している』人（「よく参加している」8.5%）と「時々参加している」(23.1%)の合計が31.6%であり、約3分の1程度の回答者が地域活動との継続的な接点を持っていた。『平成20年度市政に関する意識調査』（以下、平成20年度調査）では、この割合は33.6%（「よく参加している」(9.8%)と「時々参加している」(23.8%)の合計）であり、ほとんど変化は認められなかった。一方で、「参加したことがない」は42.5%、「あまり参加したことがない」は24.0%となった（図表1）。

図表1 過去2年間に居住地域で地域活動に参加したか【過去の調査との比較】



これを、性別、年代別でみると、全体としては性別による大きな違いは認められなかったが、年齢が上がるにつれて、『参加している』男性の割合は高くなっている。年代によって、地域活動への参加度は異なっている。なかでも20歳代では、性別に関わりなく地域活動に『参加していない』人（「参加したことがない」と「あまり参加したことがない」の合計）が9割に迫り、青年層と地域活動との間には距離がある。

それでは、地域活動へ『参加している』人は、実際にどのような活動に参加しているのだろうか（問6-1）。環境活動である「環境美化」（43.7%）、「ごみ減量・リサイクル」（36.2%）、交流活動である「住民同士の交流」（41.5%）、「スポーツ・レクリエーション」（36.6%）などが支持を集めているが、これ以外の活動はほぼ1～2割程度の参加となっている。

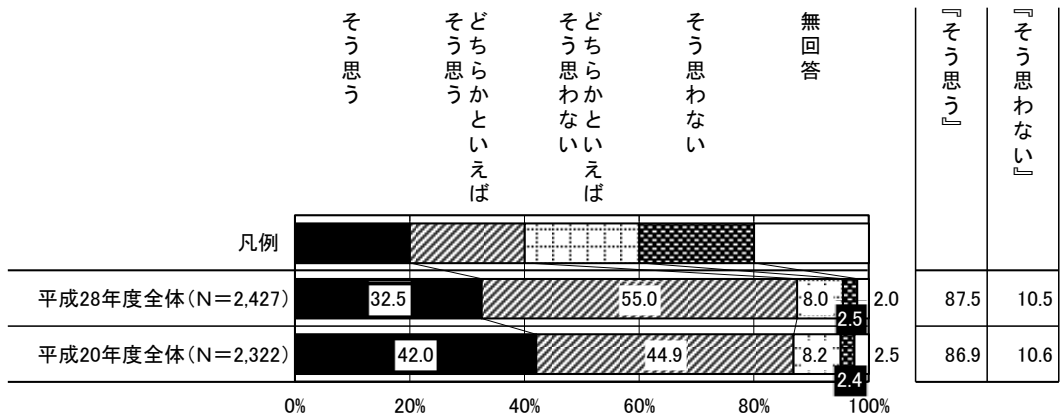
地域活動への参加のきっかけ（問6-2）は、「自治会・町内会の総会などの集まりで聞いた」（35.1%）、「地域の役員になった」（33.4%）、「友人・近所の人に誘われた」（28.6%）などと続き、人間関係のネットワークの働きかけがきっかけとなって、参加につながっている。一方で、情報伝達的手段として広まっている「インターネット、SNSを見た」（1.2%）は、ごくわずかな割合にとどまり、そう大きなきっかけとはなっていなかった。むしろ、従来からある「広報紙やチラシ・ポスターを見た」（21.0%）の方が存在感を持っていた。

地域活動に参加しなかった理由（問6-3）は、「仕事で時間がとれないから」（45.5%）、「活動の内容や参加方法がわからないから」（30.0%）、「参加できる時間と活動が行われている時間が合わないから」（27.6%）となった。性別でみると、男性では「仕事で時間が取れないから」（53.4%）の割合が女性よりも14.1ポイント高く、女性は「家事・育児・介護で時間がとれないから」の割合が男性よりも10.2ポイント高くなったが、いずれにせよ全体として、時間不足が理由とされている。言い尽くされた感はあるが、あらためて企業等には従業員が地域活動に参加することをためらわずに済むような労働時間の管理が求められており、家事・育児・介護によって地域活動への参加が抑えられないような社会基盤の整備が必要であるといえよう。性別、年代別では、他の年齢層と比較して、20歳代・30歳代では「活動の内容や参加方法がわからないから」の割合が高くなっている。

先に見たように、20歳代は地域活動への参加が低調であった。活動参加のきっかけは、人間関係のネットワークが効果を持っていたが、20歳代はこうした関係に乏しく、また、広報紙などにも触れる機会が少ないことが推測される。全体としてみれば、インターネットやSNSを使った情報伝達は効果をあげていないようにもみえるが、20歳代の青年層に働きかける方法論として、インターネットやSNSの活用方法を考える必要があるのではないか。

地域活動を行うことが大切かどうかを尋ねると（問7）、支持層（「そう思う」（32.5%）と「どちらかといえばそう思う」（55.0%）の合計）は9割（87.5%）に迫る。総論としては、地域活動は大切であると捉えられている。平成20年度調査でも支持層の割合は、86.9%であったが、「そう思う」人の割合が42.0%であったことと比較すると、強く地域活動を大切に思う人の割合はやや少なくなっている（図表2）。さらに、支持層に対して、特に大切だと考える活動分野を挙げてもらったところ（問7-1）、「防犯」（39.2%）、「高齢者・障がい者福祉」（37.4%）、「子育て支援」（36.7%）、「環境美化」（29.4%）といった順に支持が集まった。

図表2 地域活動を行うことは大切だと思うか【過去の調査との比較】



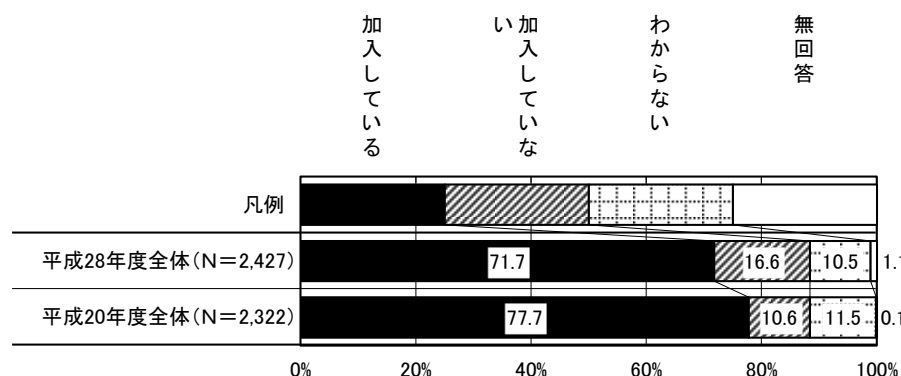
また、地域で行われるとよいと考える活動（問8）は「防犯パトロール」（48.5%）、「通学路の見守り」（41.0%）、「高齢者の見守り」（41.0%）、「清掃活動」（40.9%）であった。実際に参加したことのある地域活動（問6-1）は、「環境活動」「交流活動」「スポーツ・レクリエーション活動」などが支持を集めていたが、特に大切だと思う活動では、防犯といった「安全安心活動」や、子育て支援や高齢者・障がい者福祉といった「対人支援活動」が支持を集めている。福岡市の都市環境の満足度（問5）をみると、「犯罪の少なさ」「福祉の充実」「子育てのしやすさ」については、「わからない」として判断を保留する人の割合も少なくないが、満足度は低くなっている。これらのことから、地域活動に対して期待が寄せられていることが示されている。

（2）自治会・町内会（問9～問14）

◇自治会・町内会には回答者の7割程度が加入していたが、低下傾向がうかがえた。一方で、8割近くの回答者が、自治会・町内会の必要性を認めていた
 ◇未加入の理由は、自治会・町内会活動が不要だからというわけではなく、加入を勧められていないことが主なものであった

自治会・町内会への加入状況（問9）を尋ねたところ、「加入している」（71.7%）、「加入していない」（16.6%）、「わからない」（10.5%）となった。平成20年度調査では、「加入している」（77.7%）、「加入していない」（10.6%）、「わからない」（11.5%）であり、加入している人の割合が、やや減少したことが示されている（図表3）。

図表3 自治会・町内会の加入状況【過去の調査との比較】



加入していない理由（問 9-1）は、「加入を勧められたことがないから」（45.8%）、「活動や運営の状況がわからないから」（28.7%）、「連絡先や加入方法がわからないから」（25.5%）などが比較的多くなっている。一方で、「自治会・町内会が必要だと思わないから」（4.0%）、「自分にはあまり関係がないから」（9.9%）といった、その存在を否定するような理由は低い割合に留まった。

自治会・町内会の活動内容の認知度（問 10）をみると、『知っている』人（「知っている」と「ある程度知っている」の合計）の割合は、約6割（58.1%）、『知らない』人（「知らない」と「あまり知らない」の合計）は約4割であった。

『知っている』人に対して、活動を知った媒体（問 10-1）を尋ねたところ、「自治会・町内会から配布される広報紙や文書で見て」（75.7%）、「回覧板を見て」（67.8%）に支持が集まり、「地域の役員から聞いて」（17.1%）、「友人・近所の人から聞いて」（16.5%）、「家族から聞いて」（14.5%）といった人間関係のネットワークは、地域活動への参加のきっかけと異なり、あまり大きな割合にはなっていない。

また、自治会・町内会の運営内容（問 11）についても、「特に知っていることはない」が4割弱と大きな割合となっている。また、自治会・町内会が地域住民に知らせるべき内容（問 12）も、「事業計画・催しの内容」（60.7%）、「自治会・町内会費の使途（予算・決算）」（54.2%）、「自治会・町内会の活動目的」（53.0%）といった一般的な情報開示が求められていた。

自治会・町内会の必要性（問 13）については、必要層（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、8割に迫り（78.5%）、不要層（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）の割合（9.8%）を大きく上回っている。活動内容の認知度（問 10）は6割程度に留まっていたにもかかわらず、その必要性は強く支持されている。さらに、必要層にその理由を尋ねると（問 13-1）、「災害など、いざという時に、地域でのつながりや支え合いが大切だから」（58.8%）、「住民同士が交流し、顔見知りになれるから」（57.5%）、「防犯灯の設置など、地域の安全を守るための活動を行うため」（46.5%）、「清掃など、良好な生活環境を維持できるから」（42.5%）などが支持を集める一方で、「住民が楽しめる催しなどができるから」（13.0%）、「これからの地域のことを考えて行く場だから」（12.9%）、「住民が地域のことを話し合い、決定する場だから」（10.6%）、「住民を代表して、行政など、外部の団体と協議することができる組織だから」（8.9%）などの割合は、それぞれ1割程度に留まった。性別、年代別にみると、女性は

「災害など、いざという時に、地域でのつながりや支え合いが大切だから」が、70歳以上を除く各年代で最も支持されているが、男性は「住民同士が交流し、顔見知りになれるから」という理由が支持される傾向にあった。

自治会・町内会に期待されてきた協議機能や地域代表性という側面よりも、災害時の対応、地域の安全安心、また、住民同士の交流が求められており、これらは安全安心の面から期待されていると思われ、環境美化も含めて、具体的なサービス提供が自治会・町内会に期待されているようである。

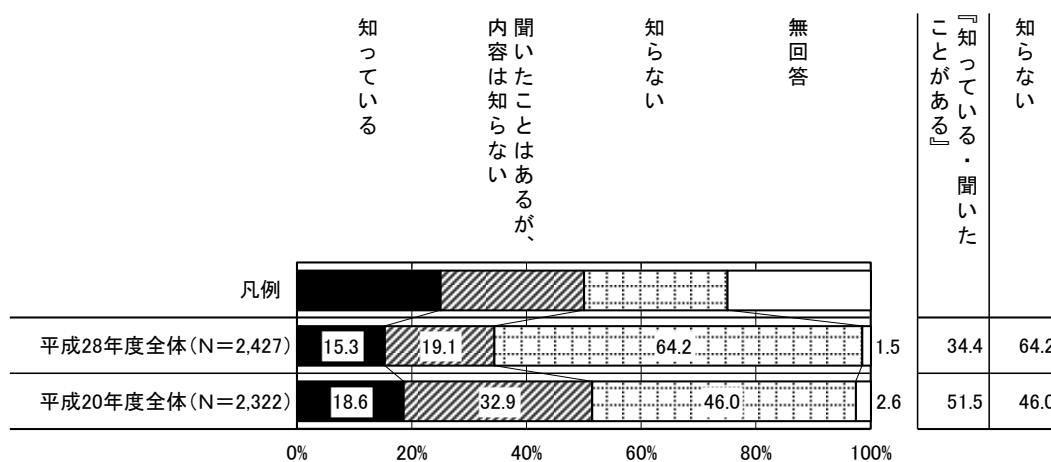
自治会・町内会が多く住民の理解・参加を得るために取り組むこととして（問14）、「活動の内容や参加方法を広く住民に知らせること」（54.2%）がもっとも多く、役員選出過程の透明化や金銭的負担の軽減ではなく、住民のニーズを踏まえ、特定の人に負担を集中させず、性別や年齢にかかわらず住民が楽しんで参加できることが求められていた。

（3）自治協議会（問15～問15-1）

◇自治協議会は、回答者の3割強に認知されるにとどまった

福岡市において平成16年度から設立が進められてきた自治協議会であるが、その認知度は高くない（問15）。「知らない」人が64.2%であり、「知っている」人は15.3%であった。『知っている・聞いたことがある』人（「知っている」（15.3%）と「聞いたことはあるが、内容は知らない」（19.1%）の合計）でも、34.4%にとどまっている。平成20年度調査では、選択肢の表現がやや異なるが、「知っている」は18.6%、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」は32.9%、「まったく知らない」は46.0%となっており、今回の調査では知らない人の割合が大きく増える結果となった（図表4）。

図表4 自治協議会の認知度【過去の調査との比較】



性別、年代別で見ると、70歳以上では男女ともに『知っている・聞いたことがある』人の割合が5割を超えているが、男性では20～40歳代、女性では20・30歳代の「知っている」人の割合

が5%程度に留まっている。数値は省略するが、平成20年度調査と比較すると「知っている」人の割合よりも「聞いたことはあるが、内容は知らない」人の割合が大きく落ち込んでいる。福岡市民にとって、自治協議会が意識のうえで少し距離のある存在となりつつあることを推測させる。また、過去2年間の地域活動への参加経験（問6）との関連をみると、地域活動に「よく参加している」人では、「知っている」とする割合が6割（59.7%）に迫っている。やや強引に言えば、地域活動への参加が拡大していないなかで（問6）、地域活動等に参加し地域との接点強い人は自治協議会も知っているが、そうではない人はその存在すら知らないといった実態が反映された結果であろう。

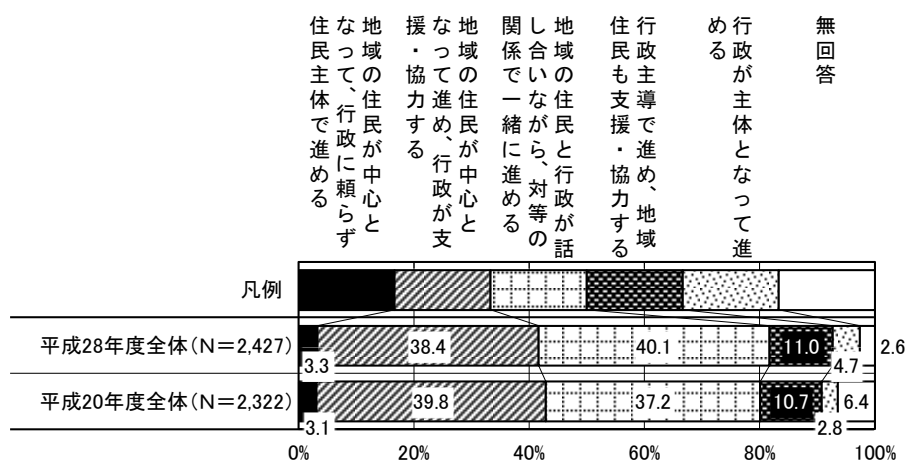
自治協議会を知った媒体（問15-1）は、「公民館だより」（51.3%）、「自治会・町内会の回覧板」（46.0%）、「市の広報紙（市政だよりなど）」（39.7%）、「自治協議会だより」（38.1%）などに支持が集まった。

（4）地域活動の望ましい進め方（問16～問18）

◇地域活動の望ましい進め方は、行政だけや住民だけで進めるのではなく、行政と住民が対等な関係で共に進めること、住民主導で行政が支援することが広く支持されていた

さて、ここまで地域活動、自治会・町内会活動への参加実態、自治協議会の認知度などを確認してきたが、福岡市民は地域活動の望ましい進め方をどのように捉えているのであろうか（問16）。「地域の住民と行政が話し合いながら、対等の関係で一緒に進める」（40.1%）、「地域の住民が中心となって進め、行政が支援・協力する」（38.4%）がほぼ拮抗し、「行政主導で進め、地域住民も支援・協力する」（11.0%）、「行政が主体となって進める」（4.7%）、「地域の住民が中心となって、行政に頼らず住民主体で進める」（3.3%）となった。福岡市民は、「行政と住民が対等な関係で進めること」、「住民主導で行政が支援すること」といった、ふたつの地域活動推進の姿を支持しており、行政依存や住民だけの地域活動の進め方には距離を置いていることがわかる。選択肢の表現がやや異なるが、平成20年度調査と比較しても、この傾向に大きな変化は認められなかった（図表5）。

図表5 地域活動の望ましい進め方【過去の調査との比較】

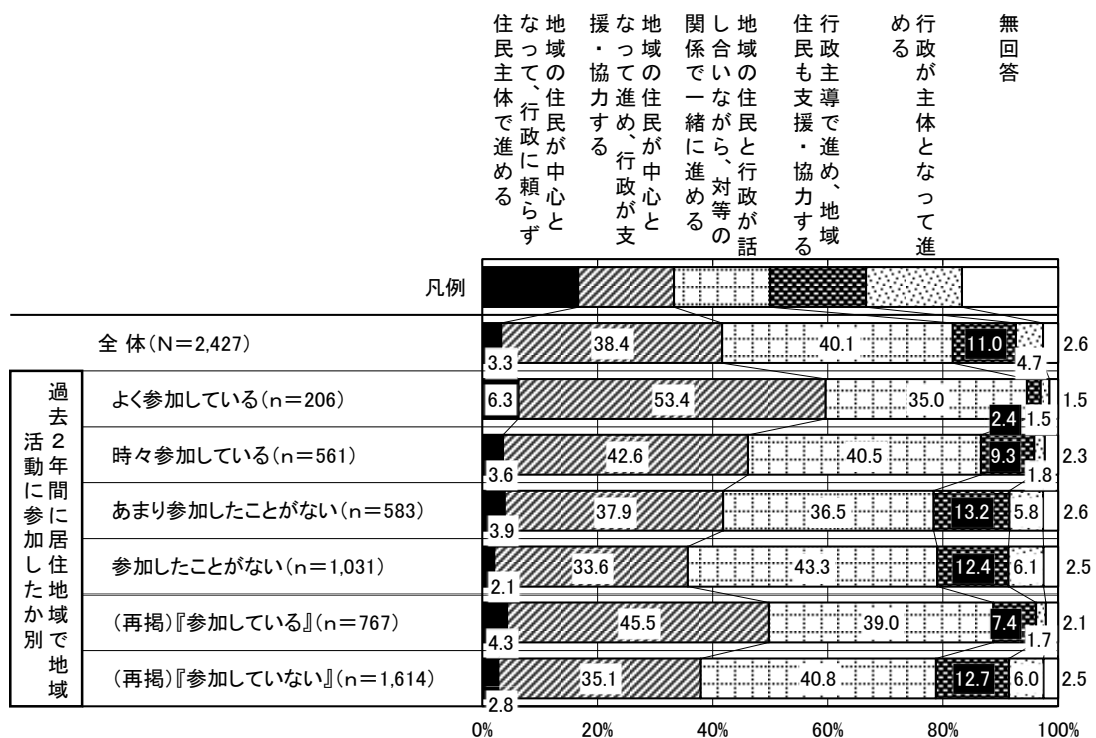


性別、年代別では際だった特徴は見出しにくいですが、男性 20 歳代で「行政主導で進め、地域住民も支援・協力する」(21.5%) の割合が高くなっており、こうした意識は地域活動への参加状況によって異なることもわかった。過去 2 年間に地域活動に参加している人(「よく参加している」と「時々参加している」の合計)は、参加していない人(「参加したことがない」と「あまり参加したことがない」の合計)と比較して、「住民主導で行政が支援すること」をより支持している(図表 6)。地域活動への参加によって、住民主導で活動することへの手応えが感じられたことも背景にあるのかもしれない。

地域活動を進めるために福岡市が取り組むべきこと(問 17)として、「地域での仲間づくりや地域活動への参加に役立つ情報の提供」(36.1%)、「地域の住民がいつでも、気軽に集まれる場所の提供」(35.0%)、「地域単位でのイベント開催など、住民同士の交流のきっかけづくり」(33.1%)、「活動に必要な活動費・事業費などの経済的支援」(32.8%)となった。

さらに、福岡市が自治協議会などの自治組織活動に対して実施している支援策の認知度(問 18)については、「市政だよりでの自治組織の活動の紹介」(61.2%)が最も認知されており、次いで「各小学校区への公民館の設置」(35.5%)となった。

図表 6 地域活動の望ましい進め方【過去 2 年間に居住地域で地域活動に参加したか別】



(5) NPO活動（問19～問21）

◇NPOを知らない人の割合が半数を超えていた

福岡市が、地域のまちづくりについて、自治協議会をはじめ、企業・事業所、NPO、大学などのさまざまな主体と地域の未来を共に創っていく「共創」に取り組んでいることを提示したうえで、NPOの認知度を確認した（問19）。結果は、「知らない」人（53.1%）の割合が、「知っている」人（45.6%）の割合を上回ることとなった。性別、年代別では、男性の20歳代（50.6%）、女性の40歳代（53.0%）、50歳代（54.1%）では「知っている」人の割合が5割を超えており、他の年齢層よりも認知度が高くなっている。

どの程度までNPOについて知っているかを尋ねたところ（問19-1）、「団体名も活動内容も知っているNPOはない」（30.0%）、「団体名も活動内容も知っているNPOがある」（26.3%）、「活動内容を知っているNPOはあるが、団体名は知らない」（23.3%）、「団体名を知っているNPOはあるが、活動内容は知らない」（20.0%）となった。性別、年代別でみると、「団体名も活動内容も知っているNPOはない」とする人の割合は、男女ともに20歳代で4割を超えており、他の年齢層よりも高くなっている。

NPOが地域団体と連携・協力した地域のまちづくり活動を行うことができるか（問20）について尋ねたところ、『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）人の割合は5割（50.2%）に達した。一方で、「わからない」（34.6%）とする人の割合が大きく、否定的な意見を持つ人の割合（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）は少なかった（12.8%）。

また、企業・事業所、NPO、大学などが地域のまちづくり活動にどのように関わっていくべきか（問21）を尋ねたところ、「活動に人材を派遣すること」（43.6%）、「活動への寄付や協賛などの経済的支援」（33.7%）、「活動に必要な機材や場所を提供すること」（32.8%）などが3割を超える支持を集めた。これらに続く内容も、イベント開催、集まる場の提供、担い手支援の研修会開催などが、幅広く求められている。

(6) 公民館活動（問22～問23-2）

◇9割近い回答者が、地域の公民館の場所を知っていたが、月1回以上（過去2年間）の高頻度利用者は1割強であった

地域の公民館の認知度を確認した（問22）。「場所を知っており、何をしているか（ひとつでも）知っている」人が5割（55.3%）を超え、「場所は知っているが、何をしているのか知らない」人（27.0%）と続き、「場所も何をしているのかも知らない」人の割合は1割程度（13.6%）であった。性別では女性の方が公民館の存在を認知している。「場所を知っており、何をしているか（ひとつでも）知っている」女性の割合は6割（63.3%）を超えているが、男性は5割を下回っている（45.3%）。地域の公民館を知ったきっかけ（問22-1）は、「もともと（子どもの頃からなど）知

っていた」(31.0%)がもっとも多く、次いで「公民館だより」(20.6%)、「たまたま通りかかった」(12.8%)などとなった。性別では、女性の方が「公民館だより」の割合が男性よりも高くなっている。育児期間中の世代にとって公民館は子育てサロンなどの交流の場でもあり、公民館だよりで情報を手に入れていることを推測させるが、女性の認知度が高いことは女性中心で育児が支えられている実態を示す例ともいえ、女性の認知度の高さを一概に評価することには慎重でありたい。

過去2年間の公民館の利用状況(問23)は、「利用したことがない」人の割合が5割を超えている(55.2%)。次いで「年に数回程度(1回だけを含む)」(29.7%)となり、月1回以上と頻回に利用している人の割合は15%程度(14.4%)であった。公民館の認知度は高かったが、実際の利用頻度は決して高いわけではない。利用した内容(問23-1)では自治会活動、地域の祭り、サークル活動への参加や選挙投票といった利用が多かった。

公民館利用のきっかけとなることについて尋ねると(問23-2)、「興味のある講座や講習会などがあれば」(38.2%)、「大雨などの災害が起これば避難場所として」(35.3%)、「参加したいサークル活動があれば」(31.1%)などが支持を集めた。講座やサークルといった社会教育の場として、加えて災害時の避難場所として公民館が捉えられている。

(7) 本調査のまとめ

今回の調査では、ほぼ全員とっていい調査回答者が、福岡市が『好き』(96.7%)であり、また、『住みやすい』(95.8%)、『住み続けたい』(92.4%)と回答している。このように福岡市という地域に対して、福岡市民は強い愛着をもっており、都市環境の満足度としては「新鮮でおいしい食べ物の豊富さ」「買い物の便利さ」「自然環境の豊かさ」といった、消費生活や自然環境への満足度が広く共有されていた。一方で生活の安心感や対人支援への満足度は相対的に低い水準にあったが、これらはより身近な生活圏域での評価が反映される場合が少なくない。そのため、福岡市民がこれからも福岡市に愛着を持ちながら暮らしていくためには、より小さな圏域での生活の安定が維持されていくことも必要である。そのための施策を検討するにあたって、地域活動への参加、自治会・町内会の活動、自治協議会、NPO、公民館活動などに対する福岡市民の意識や行動実態を継続して確認する必要がある。

4. 「地域の活動やまちづくり」に関する調査結果

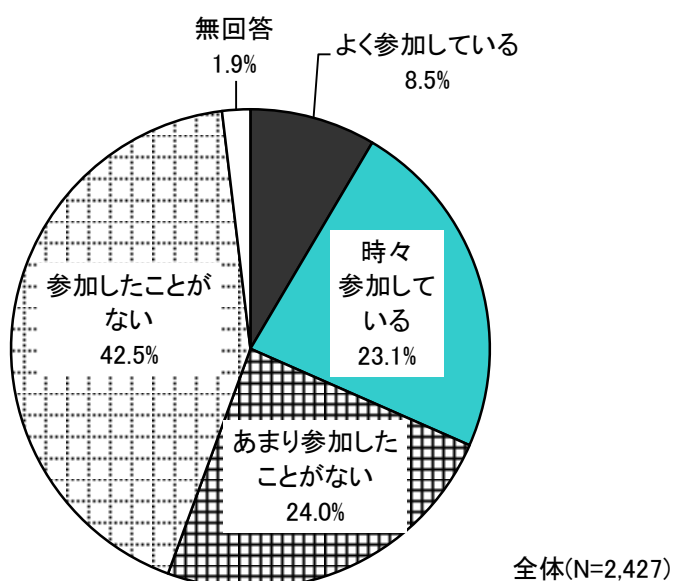
(1) 過去2年間に居住地域で地域活動に参加したか

問6 あなたは過去2年間において、お住まいの地域で、住民が行っている活動（次の問6-1のような地域活動）に参加したことがありますか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

過去2年間に居住地域で地域活動に参加したか聞いたところ、「参加したことがない」と回答した人が42.5%と最も多く、次いで「あまり参加したことがない」（24.0%）となっている。

また、『参加している』（＝「よく参加している」＋「時々参加している」）の割合は31.6%となっている。

図表 過去2年間に居住地域で地域活動に参加したか【全体】

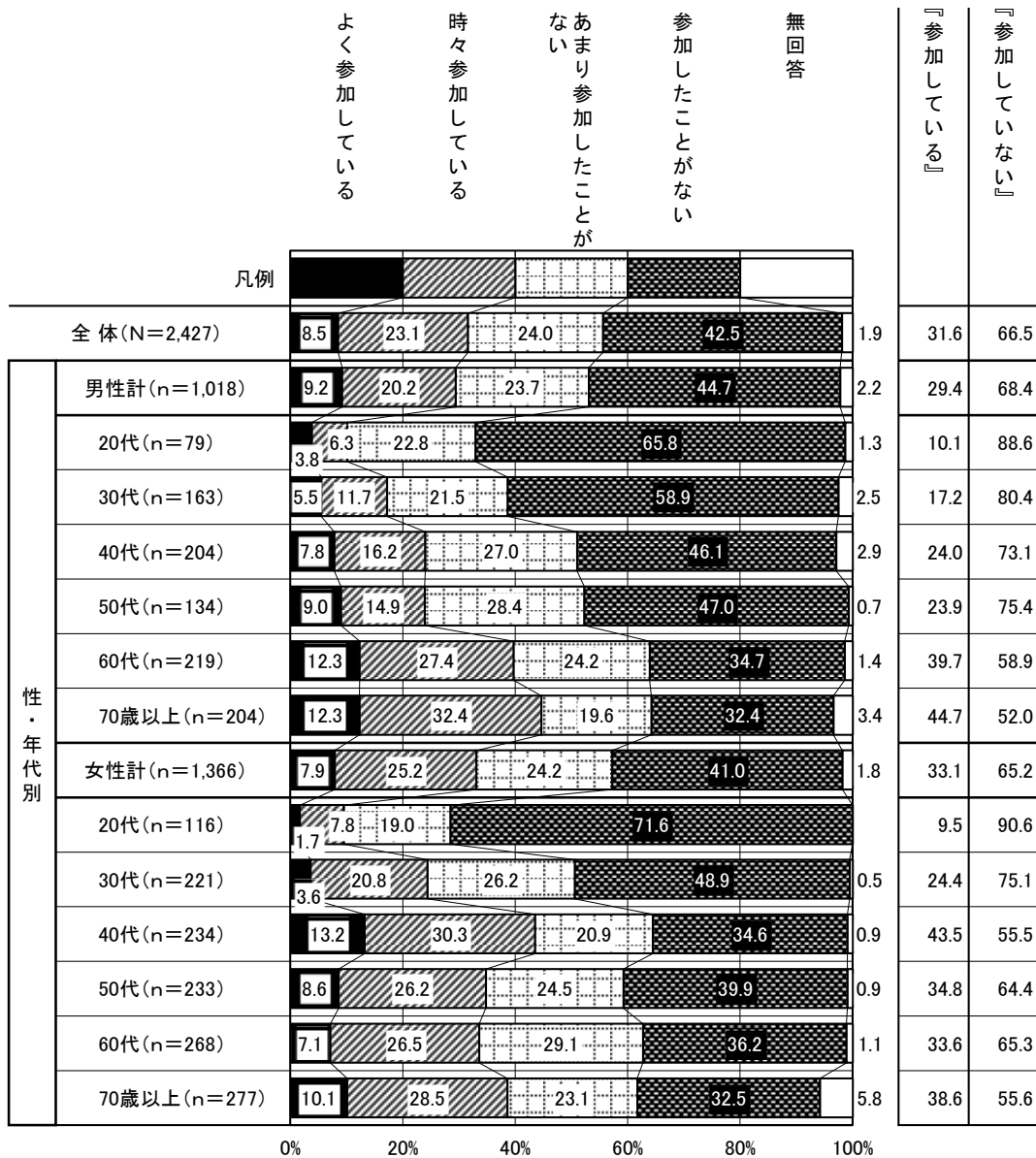


『参加している』	31.6%
『参加していない』	66.5%

性別にみた場合、大きな違いはみられない。

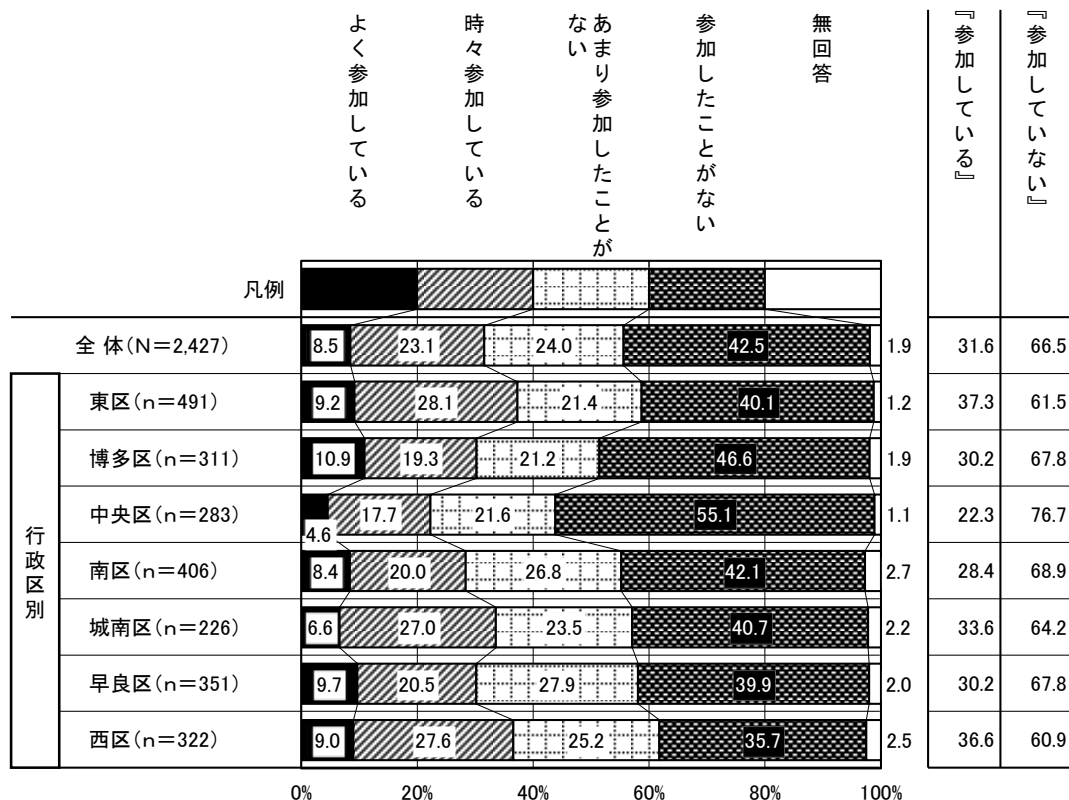
性・年代別にみると、男性では『参加している』の割合は、概ね年代が上がるほど高くなっていく。男女ともに20代では「参加したことがない」の割合が6割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 過去2年間に居住地域で地域活動に参加したか【性・年代別】



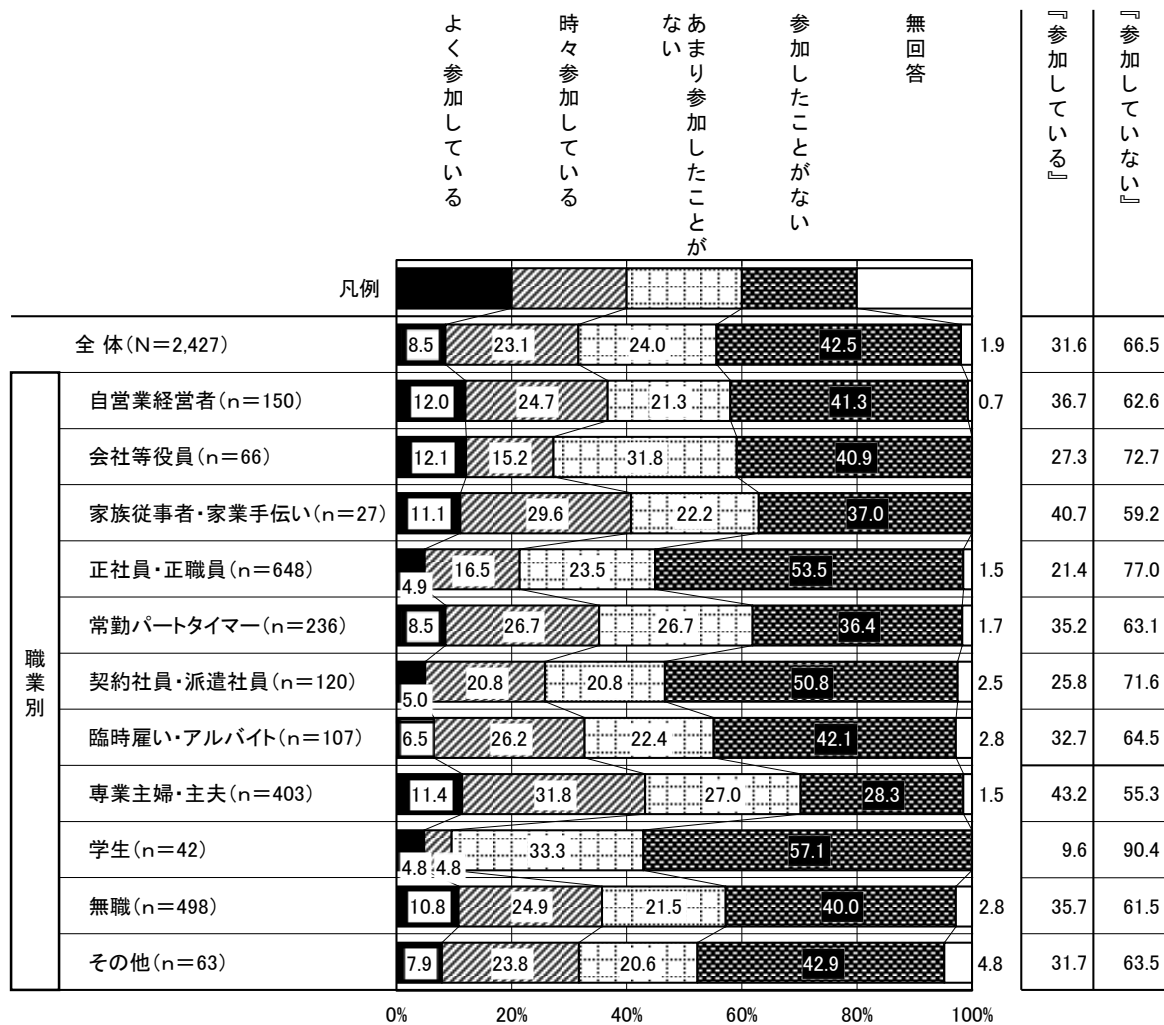
行政区別にみると、『参加している』の割合は東区(37.3%)が最も高く、次いで西区(36.6%)、城南区(33.6%)となっている。中央区では『参加していない』の割合が7割台半ばとなっており、他の行政区に比べて高くなっている。その内訳をみると、「参加したことがない」の割合は5割台半ばとなっており、他の行政区に比べて高くなっている。

図表 過去2年間に居住地域で地域活動に参加したか【行政区別】



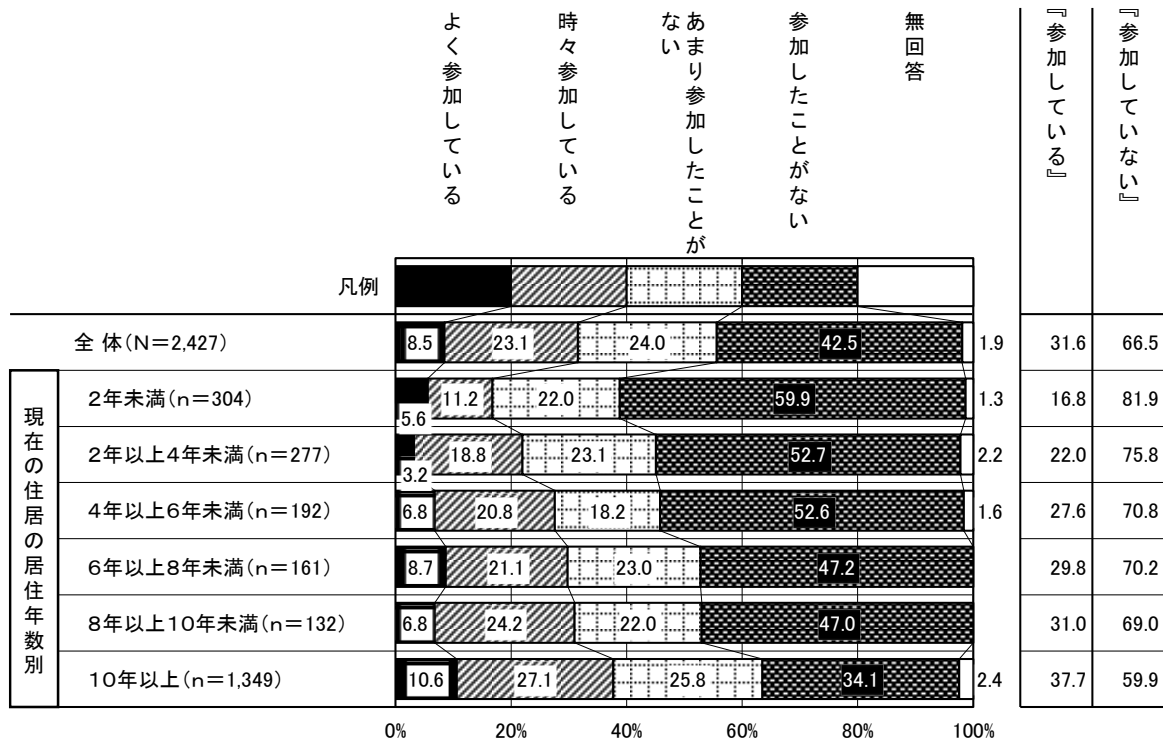
職業別にみると、会社等役員、正社員・正職員、契約社員・派遣社員、学生では『参加していない』の割合が7割を超えており、他の職業に比べて高くなっている。また、家族従事者・家業手伝い、専業主婦・主夫では『参加している』の割合が4割台前半となっており、他の職業に比べて高くなっている。

図表 過去2年間に居住地で地域活動に参加したか【職業別】



「現在の住居の居住年数」（問 24 131 頁参照）別にみると、『参加している』の割合は現在の住居の居住年数が長いほど高くなっている。2年未満、2年以上4年未満では『参加していない』の割合が8割前後となっており、他の現在の住居の居住年数に比べて高くなっている。

図表 過去2年間に居住地域で地域活動に参加したか【現在の住居の居住年数別】



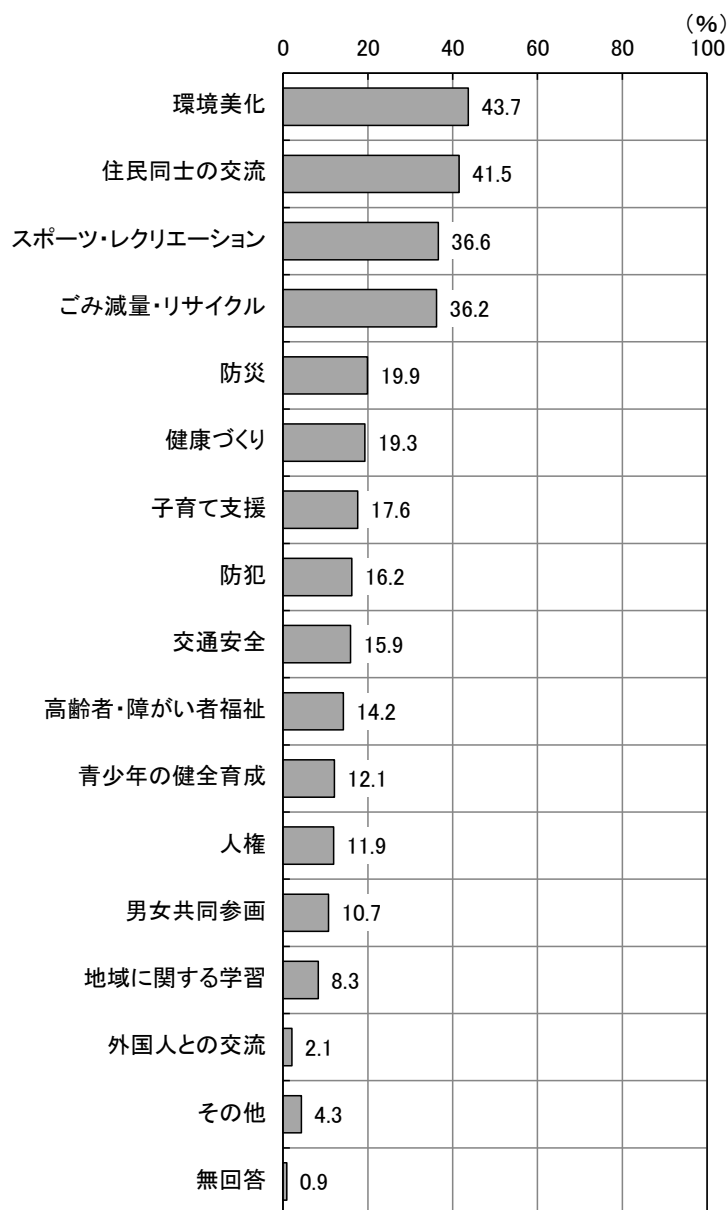
(2) 参加した活動の分野

問6-1 《 問6で「1」「2」と回答した方におたずねします。 》

どのような分野の活動に参加しましたか。あてはまるものを**すべて**選び、番号に○をつけてください。

参加した活動の分野を聞いたところ、「環境美化」と回答した人が 43.7%と最も多く、次いで「住民同士の交流」(41.5%)、「スポーツ・レクリエーション」(36.6%)となっている。

図表 参加した活動の分野【全体】※複数回答



全体(n=767)

性別にみると、男性では「防犯」(22.7%)の割合が女性に比べて10.5ポイント高くなっている。女性では「子育て支援」(21.2%)の割合が男性に比べて8.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男性50代、女性60代では「環境美化」の割合が約6割、男性60代、女性70歳以上では「住民同士の交流」が約6割となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 参加した活動の分野【性・年代別】※複数回答

単位：%

	調査数	環境美化	住民同士の交流	スポーツ・レクリエーション	ごみ減量・リサイクル	防災	健康づくり	子育て支援	防犯
全体	767	43.7	41.5	36.6	36.2	19.9	19.3	17.6	16.2
男性計	300	46.0	44.0	42.0	38.0	22.7	19.7	12.3	22.7
20代	8	25.0	25.0	37.5	25.0	12.5	-	12.5	12.5
30代	28	35.7	28.6	42.9	46.4	21.4	7.1	32.1	14.3
40代	49	34.7	32.7	55.1	20.4	12.2	6.1	22.4	20.4
50代	32	59.4	37.5	43.8	46.9	25.0	9.4	12.5	15.6
60代	87	51.7	59.8	37.9	35.6	25.3	20.7	8.0	31.0
70歳以上	91	46.2	42.9	38.5	46.2	25.3	34.1	5.5	18.7
女性計	452	43.1	40.3	33.8	35.4	18.4	18.8	21.2	12.2
20代	11	27.3	36.4	27.3	18.2	9.1	-	36.4	9.1
30代	54	31.5	20.4	37.0	22.2	7.4	1.9	55.6	3.7
40代	102	37.3	35.3	39.2	28.4	16.7	5.9	30.4	14.7
50代	81	46.9	34.6	32.1	32.1	21.0	8.6	12.3	17.3
60代	90	60.0	41.1	31.1	56.7	20.0	21.1	15.6	11.1
70歳以上	107	37.4	58.9	32.7	35.5	23.4	48.6	5.6	12.1

交通安全	高齢者・障がい者福祉	青少年の健全育成	人権	男女共同参画	地域に関する学習	外国人との交流	その他	無回答	
15.9	14.2	12.1	11.9	10.7	8.3	2.1	4.3	0.9	全体
18.3	15.0	16.3	10.3	7.3	7.7	2.0	4.0	0.3	男性計
12.5	-	12.5	-	-	-	-	-	-	20代
10.7	3.6	10.7	3.6	-	7.1	-	3.6	-	30代
14.3	4.1	26.5	4.1	8.2	-	-	4.1	-	40代
12.5	3.1	12.5	9.4	3.1	3.1	3.1	-	-	50代
21.8	18.4	12.6	16.1	10.3	8.0	3.4	3.4	-	60代
20.9	25.3	16.5	11.0	7.7	14.3	2.2	6.6	1.1	70歳以上
14.6	13.5	9.7	13.1	13.1	8.6	2.2	4.6	1.1	女性計
-	9.1	-	-	-	18.2	9.1	9.1	-	20代
16.7	3.7	9.3	5.6	3.7	1.9	-	-	1.9	30代
23.5	8.8	22.5	18.6	8.8	4.9	1.0	8.8	-	40代
14.8	8.6	8.6	16.0	13.6	3.7	2.5	2.5	1.2	50代
7.8	10.0	5.6	11.1	16.7	14.4	1.1	5.6	-	60代
13.1	30.8	3.7	13.1	20.6	14.0	4.7	3.7	1.9	70歳以上

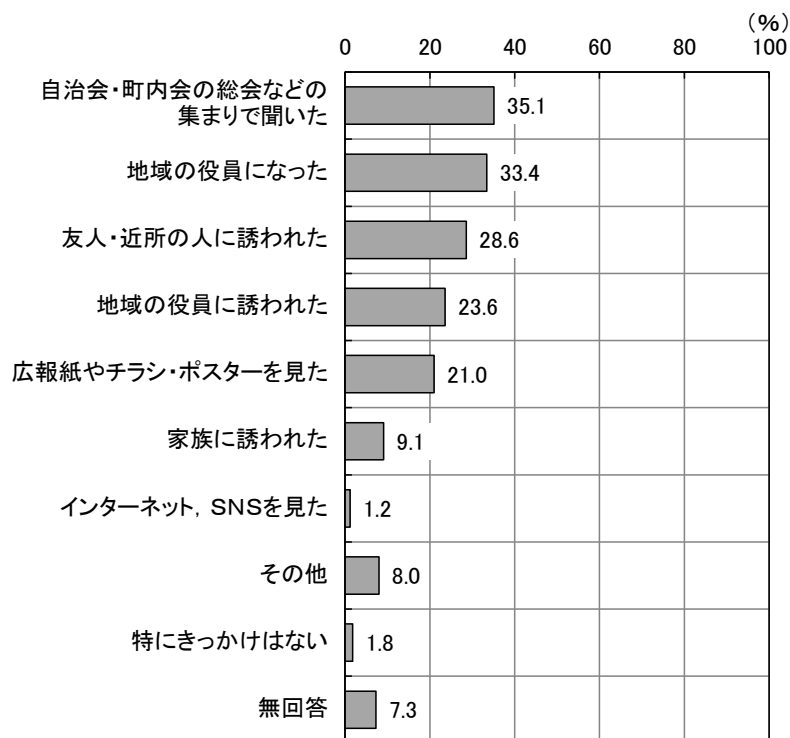
(3) 活動に参加したきっかけ

問6-2 《 問6で「1」「2」と回答した方におたずねします。 》

参加したきっかけは何でしたか。あてはまるものを**すべて**選び、番号に○をつけてください。

活動に参加したきっかけを聞いたところ、「自治会・町内会の総会などの集まりで聞いた」と回答した人が 35.1%と最も多く、次いで「地域の役員になった」(33.4%)、「友人・近所の人に誘われた」(28.6%) となっている。

図表 活動に参加したきっかけ【全体】※複数回答



全体(n=767)

性別にみると、男性では「地域の役員に誘われた」(28.7%)の割合が女性に比べて7.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに30代では「広報紙やチラシ・ポスターを見た」の割合が約4割、女性40代では「地域の役員になった」の割合が約5割となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 活動に参加したきっかけ【性・年代別】※複数回答

単位：%

	調査数	自治会・町内会の集まりで聞いた	地域の役員になった	友人・近所の人に誘われた	地域の役員に誘われた	広報紙やチラシ・ポスターを見た	家族に誘われた	インターネット、SNSを見た	その他	特にきっかけはない	無回答
全体	767	35.1	33.4	28.6	23.6	21.0	9.1	1.2	8.0	1.8	7.3
男性計	300	38.0	34.0	29.7	28.7	19.0	13.7	1.0	6.3	1.3	5.3
20代	8	-	-	25.0	25.0	12.5	37.5	12.5	12.5	12.5	12.5
30代	28	32.1	28.6	32.1	21.4	39.3	17.9	-	3.6	-	3.6
40代	49	16.3	30.6	32.7	30.6	12.2	24.5	-	4.1	-	2.0
50代	32	43.8	40.6	21.9	46.9	9.4	9.4	3.1	6.3	-	3.1
60代	87	37.9	39.1	27.6	26.4	20.7	9.2	1.1	6.9	1.1	4.6
70歳以上	91	52.7	31.9	31.9	25.3	19.8	9.9	-	7.7	1.1	7.7
女性計	452	33.2	33.2	28.3	20.8	22.6	6.2	1.3	9.1	2.2	8.2
20代	11	9.1	-	18.2	27.3	27.3	18.2	18.2	45.5	-	9.1
30代	54	16.7	20.4	31.5	11.1	44.4	5.6	7.4	9.3	1.9	9.3
40代	102	21.6	48.0	24.5	16.7	18.6	5.9	-	12.7	3.9	5.9
50代	81	38.3	35.8	17.3	21.0	14.8	4.9	-	11.1	2.5	7.4
60代	90	40.0	33.3	24.4	26.7	16.7	12.2	-	5.6	2.2	10.0
70歳以上	107	44.9	28.0	43.0	25.2	24.3	1.9	-	3.7	0.9	8.4

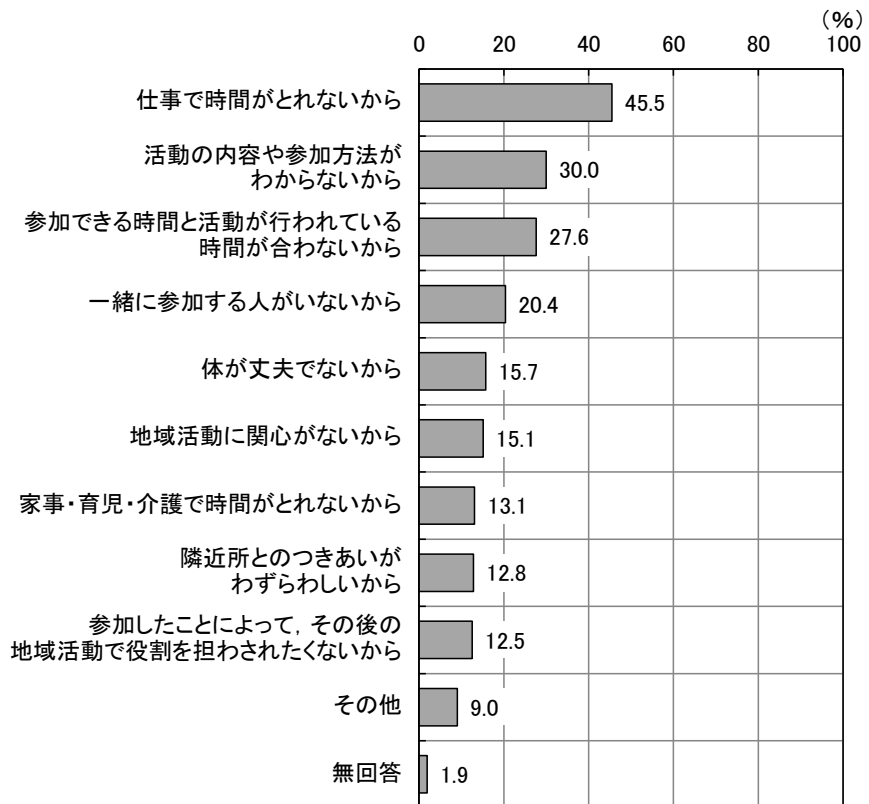
(4) 地域活動に参加しなかった理由

問6-3 《 問6で「3」「4」と回答した方におたずねします。 》

地域活動に参加しなかった（または参加できなかった）理由は何ですか。あてはまるものを**すべて**選び、番号に○をつけてください。

地域活動に参加しなかった理由を聞いたところ、「仕事で時間がとれないから」と回答した人が45.5%と最も多く、次いで「活動内容や参加方法がわからないから」(30.0%)、「参加できる時間と活動が行われている時間が合わないから」(27.6%)となっている。

図表 地域活動に参加しなかった理由【全体】※複数回答



全体(n=1,614)

性別にみると、男性では「仕事で時間が取れないから」(53.4%)の割合が女性に比べて14.1ポイント高くなっている。女性では「家事・育児・介護で時間がとれないから」(17.8%)の割合が男性に比べて10.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男性30代・40代では「仕事で時間がとれないから」の割合が6割台後半となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。男女ともに20代・30代では「活動の内容や参加方法がわからないから」の割合が概ね4割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 地域活動に参加しなかった理由【性・年代別】※複数回答

単位：%

	調査数	仕事で時間がとれないから	活動の内容や参加方法がわからないから	参加できる時間と活動が合わないから	一緒に参加する人がいないから	体が丈夫でないから	地域活動に関心がないから	家事・育児・介護で時間がとれないから	隣近所とのつきあいがわずから	わされたくない活動で役割を担	参加したことによって、そ	その他	無回答
全体	1,614	45.5	30.0	27.6	20.4	15.7	15.1	13.1	12.8	12.5	9.0	1.9	
男性計	696	53.4	33.0	28.4	19.5	13.5	15.4	7.6	12.8	12.6	7.6	1.0	
20代	70	55.7	41.4	34.3	28.6	1.4	21.4	8.6	11.4	7.1	5.7	-	
30代	131	66.4	45.8	26.7	29.8	3.8	22.1	15.3	16.0	14.5	6.1	-	
40代	149	69.1	31.5	31.5	14.1	3.4	15.4	8.7	12.8	18.1	5.4	-	
50代	101	56.4	31.7	37.6	19.8	9.9	11.9	5.9	11.9	10.9	6.9	2.0	
60代	129	52.7	28.7	23.3	12.4	17.8	12.4	4.7	16.3	14.0	7.8	1.6	
70歳以上	106	13.2	20.8	19.8	16.0	46.2	9.4	0.9	7.5	6.6	14.2	2.8	
女性計	890	39.3	27.8	27.2	21.2	17.3	15.1	17.8	13.0	12.5	9.9	2.1	
20代	105	54.3	40.0	24.8	28.6	1.0	21.0	16.2	7.6	7.6	12.4	1.0	
30代	166	48.2	39.8	26.5	18.7	2.4	14.5	31.9	11.4	9.6	12.0	1.2	
40代	130	46.9	26.9	30.8	21.5	6.9	18.5	21.5	16.9	18.5	14.6	0.8	
50代	150	48.7	25.3	33.3	25.3	17.3	14.7	16.7	14.7	14.7	4.7	0.7	
60代	175	35.4	27.4	34.9	21.7	26.3	12.6	13.7	18.3	12.0	5.1	0.6	
70歳以上	154	8.4	10.4	12.3	15.6	42.9	11.7	5.8	8.4	12.3	13.0	7.8	

職業別にみると、正社員・正職員では「仕事で時間がとれないから」の割合が7割を超えており、他の職業に比べて高くなっている。

図表 地域活動に参加しなかった理由【職業別】※複数回答

単位：%

	調査数	仕事で時間がとれないから	活動の内容や参加方法がわからないから	参加できる時間と活動が合わないから	一緒に参加する人がいないから	体が丈夫でないから	地域活動に関心がないから	家事・育児・介護で時間がとれないから	隣近所とのつきあいがわずらわしいから	のたのしみがないから	参加した地域活動によって、役割を担	その他	無回答
全体	1,614	45.5	30.0	27.6	20.4	15.7	15.1	13.1	12.8	12.5	9.0	1.9	
自営業経営者	94	62.8	29.8	29.8	11.7	10.6	19.1	9.6	14.9	21.3	7.4	1.1	
会社等役員	48	62.5	22.9	37.5	20.8	4.2	4.2	6.3	10.4	4.2	6.3	-	
家族従事者・家業手伝い	16	68.8	12.5	37.5	12.5	6.3	12.5	25.0	-	-	6.3	6.3	
正社員・正職員	499	71.3	38.1	31.9	20.6	2.0	17.2	11.4	13.2	14.4	5.2	0.8	
常勤パートタイマー	149	63.1	18.1	34.2	23.5	7.4	15.4	23.5	16.8	13.4	10.1	-	
契約社員・派遣社員	86	66.3	24.4	34.9	23.3	12.8	14.0	8.1	16.3	12.8	10.5	2.3	
臨時雇い・アルバイト	69	53.6	31.9	37.7	24.6	11.6	14.5	10.1	7.2	11.6	13.0	-	
専業主婦・主夫	223	8.5	29.6	22.0	25.1	19.7	12.1	27.8	13.5	14.8	10.8	2.7	
学生	38	23.7	52.6	50.0	26.3	-	10.5	-	2.6	2.6	10.5	-	
無職	306	9.2	24.8	12.7	16.7	42.8	16.3	5.9	13.7	9.2	12.4	3.9	
その他	40	47.5	17.5	25.0	10.0	25.0	10.0	10.0	2.5	7.5	10.0	5.0	

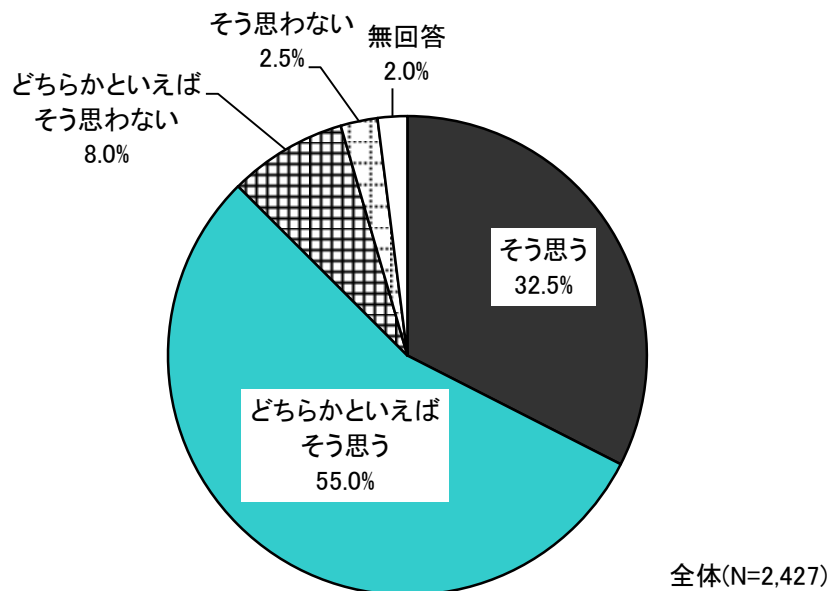
(5) 地域活動を行うことは大切だと思うか

問7 お住まいの地域をより住みよくするため、あなたは、地域活動を行うことは大切だと思いますか。あてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

地域活動を行うことは大切だと思うか聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」と回答した人が55.0%と最も多く、次いで「そう思う」(32.5%)となっている。

また、『そう思う』(=「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)の割合は87.5%、『そう思わない』(=「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は10.5%となっている。

図表 地域活動を行うことは大切だと思うか【全体】

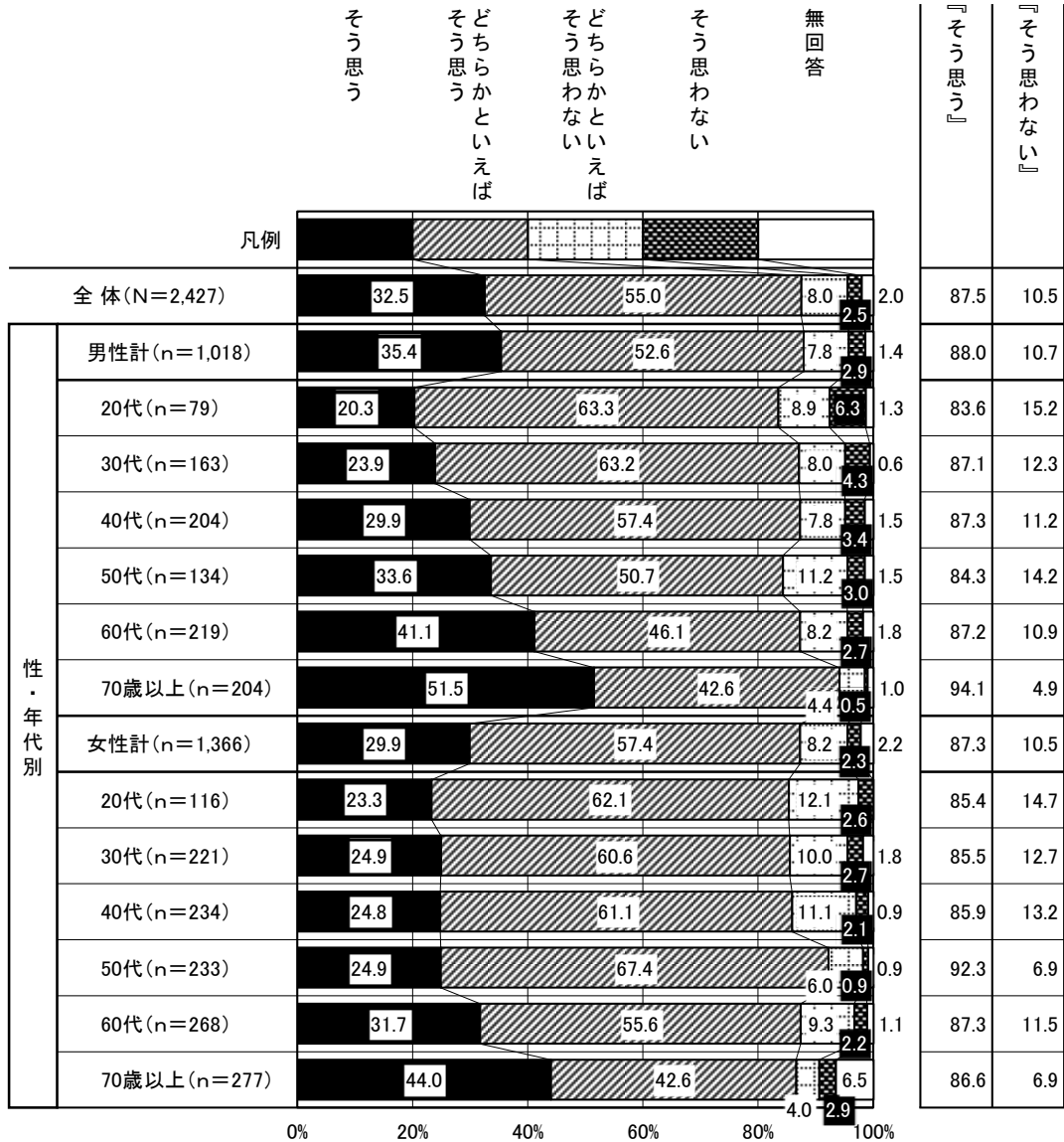


『そう思う』	87.5%
『そう思わない』	10.5%

性別にみた場合、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、男性 70 歳以上、女性 50 代では『そう思う』の割合が 9 割前半となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。男女ともに「そう思う」の割合は、概ね年代が上がるほど高くなっており、男性 60 代以上、女性 70 歳以上では 4 割を超えている。

図表 地域活動を行うことは大切だと思うか【性・年代別】



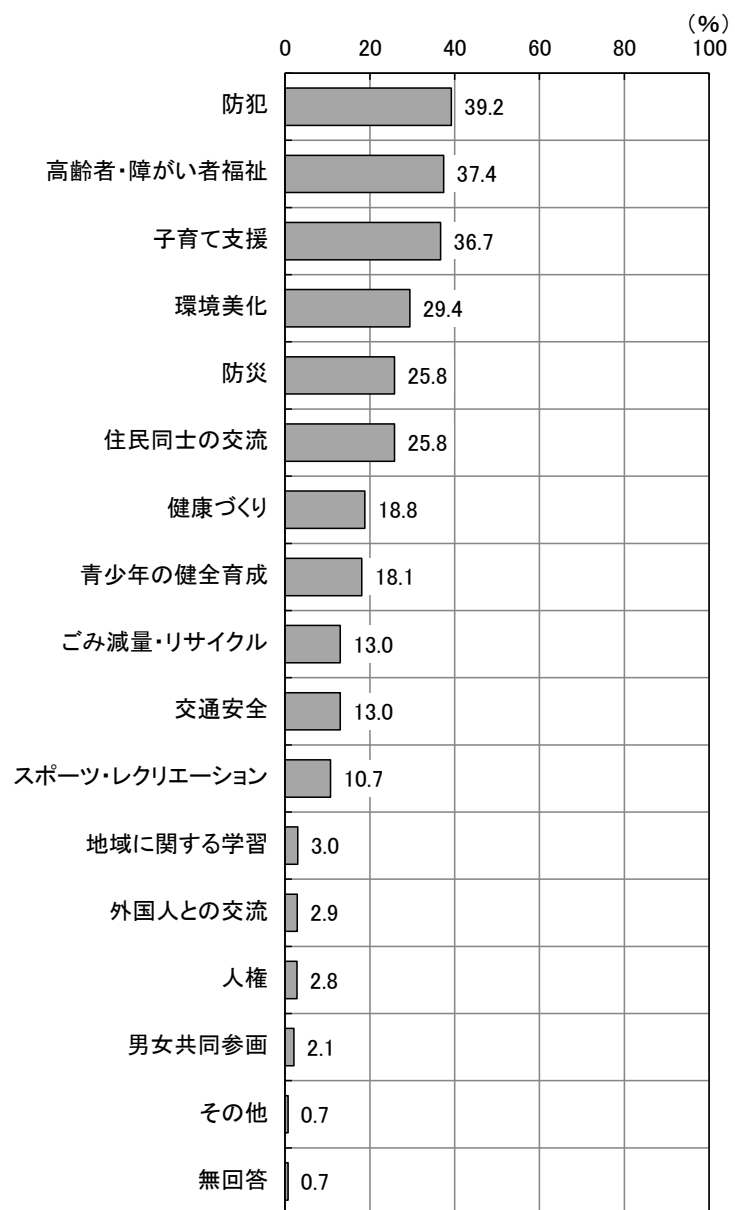
(6) 地域活動で特に大切だと思う活動の分野

問7-1 《 問7で「1」「2」と回答した方におたずねします。 》

特にどのような分野の活動が大切だと思いますか。あてはまるものを**3つまで**選び、番号に○をつけてください。

地域活動で特に大切だと思う活動の分野を聞いたところ、「防犯」と回答した人が 39.2%と最も多く、次いで「高齢者・障がい者福祉」(37.4%)、「子育て支援」(36.7%)となっている。

図表 地域活動で特に大切だと思う活動の分野【全体】※複数回答（3つまで）



全体(n=2,123)

性別にみると、女性では「子育て支援」(40.0%)の割合が男性に比べて7.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男性30代、女性20代・30代では「子育て支援」の割合が6割前後となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、女性50代・70歳以上では「高齢者・障がい者福祉」の割合が5割を超えて、男女ともに60代以上では「健康づくり」の割合が約3割となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 地域活動で特に大切だと思う活動の分野【性・年代別】※複数回答(3つまで)

単位：%

	調査数	防犯	高齢者・障がい者福祉	子育て支援	環境美化	防災	住民同士の交流	健康づくり	青少年の健全育成
全体	2,123	39.2	37.4	36.7	29.4	25.8	25.8	18.8	18.1
男性計	895	39.4	33.9	32.3	27.9	27.2	24.4	19.1	20.4
20代	66	43.9	24.2	39.4	28.8	22.7	27.3	12.1	7.6
30代	142	48.6	23.2	59.2	26.8	28.2	19.7	7.0	14.1
40代	178	45.5	27.0	46.6	24.7	27.0	19.7	8.4	23.0
50代	113	40.7	37.2	31.0	37.2	31.0	17.7	16.8	23.9
60代	191	41.4	38.2	18.3	26.2	27.7	27.7	26.2	24.6
70歳以上	192	24.5	44.3	10.4	28.6	25.0	30.7	35.4	20.8
女性計	1,193	39.0	39.8	40.0	30.7	25.0	27.1	18.7	15.9
20代	99	37.4	23.2	61.6	29.3	30.3	26.3	15.2	6.1
30代	189	42.9	25.9	68.8	31.2	20.6	19.6	8.5	17.5
40代	201	52.2	27.9	47.3	33.8	32.8	23.9	8.0	18.4
50代	215	38.6	51.2	37.2	27.4	24.2	27.9	15.8	20.0
60代	234	35.0	42.3	28.2	34.2	24.4	28.2	27.4	15.8
70歳以上	240	28.8	55.8	15.4	25.8	21.3	35.0	31.3	13.8

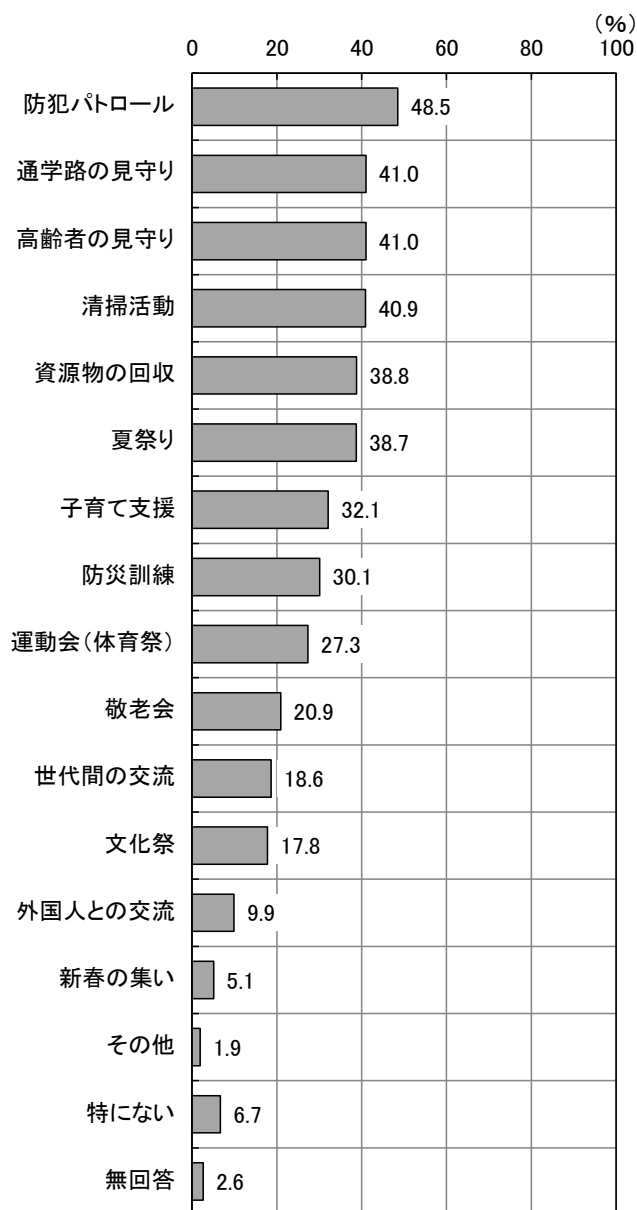
ごみ減量・リサイクル	交通安全	スポーツ・レクリエーション	地域に関する学習	外国人との交流	人権	男女共同参画	その他	無回答	
13.0	13.0	10.7	3.0	2.9	2.8	2.1	0.7	0.7	全体
10.6	14.4	14.9	4.0	4.1	2.9	1.8	1.0	0.6	男性計
19.7	24.2	15.2	6.1	4.5	3.0	4.5	1.5	-	20代
9.2	18.3	15.5	0.7	9.2	0.7	2.1	0.7	-	30代
7.3	16.9	16.9	2.8	6.2	1.1	0.6	1.1	0.6	40代
15.0	10.6	12.4	1.8	3.5	3.5	1.8	-	-	50代
8.4	8.9	14.1	5.8	2.6	5.8	0.5	0.5	0.5	60代
11.5	14.1	14.6	6.3	0.5	3.1	3.1	2.1	1.6	70歳以上
14.8	12.1	7.8	2.3	2.1	2.8	2.4	0.5	0.7	女性計
12.1	13.1	15.2	-	6.1	2.0	-	-	-	20代
14.3	16.4	7.9	-	2.6	3.2	2.6	-	-	30代
10.9	15.9	5.5	1.0	2.0	2.5	0.5	1.0	-	40代
14.0	5.6	7.9	4.7	3.3	2.3	2.3	1.4	0.5	50代
16.2	9.0	9.8	4.3	0.9	3.4	3.4	-	0.9	60代
18.8	14.2	4.6	2.5	0.4	2.5	4.2	0.4	2.1	70歳以上

(7) 地域で行われるとよいと思う活動の内容

問8 お住まいの地域で、どのような活動が行われるとよいと思いますか。あてはまるもの（すでに行われているものも含みます）を**すべて**選び、番号に○をつけてください。

地域で行われるとよいと思う活動の内容を聞いたところ、「防犯パトロール」と回答した人が48.5%と最も多く、次いで「通学路の見守り」「高齢者の見守り」（41.0%）となっている。

図表 地域で行われるとよいと思う活動の内容【全体】※複数回答



全体(N=2,427)

性別にみると、女性では「高齢者の見守り」(45.5%)、「子育て支援」(35.6%)、「資源物の回収」(42.2%)の割合が男性に比べて、それぞれ10.1ポイント、7.6ポイント、7.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男性30代、女性20代～40代では「子育て支援」の割合が4割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。男女ともに「高齢者の見守り」は概ね年代が上がるほど高くなっており、女性50代以上では5割を超えている。

図表 地域で行われるとよいと思う活動の内容【性・年代別】※複数回答

単位：％

	調査数	防犯パトロール	通学路の見守り	高齢者の見守り	清掃活動	資源物の回収	夏祭り	子育て支援	防災訓練
全体	2,427	48.5	41.0	41.0	40.9	38.8	38.7	32.1	30.1
男性計	1,018	45.3	37.3	35.4	42.7	34.7	38.8	28.0	29.7
20代	79	41.8	31.6	17.7	40.5	30.4	46.8	31.6	21.5
30代	163	46.6	42.9	25.8	39.9	33.7	41.7	47.9	30.7
40代	204	39.7	37.7	30.9	38.2	30.9	41.2	33.8	19.6
50代	134	43.3	34.3	33.6	39.6	34.3	32.8	26.1	25.4
60代	219	49.8	37.0	43.4	47.5	34.2	36.1	20.1	39.3
70歳以上	204	46.6	36.3	47.1	46.6	41.7	37.7	13.7	32.8
女性計	1,366	50.7	44.1	45.5	39.9	42.2	38.9	35.6	30.5
20代	116	44.0	41.4	26.7	39.7	27.6	45.7	42.2	19.8
30代	221	52.9	47.5	32.6	38.9	38.9	44.8	52.0	24.4
40代	234	55.1	52.1	41.0	37.6	44.9	40.2	45.3	34.6
50代	233	55.4	44.6	57.5	36.9	46.4	32.2	35.2	35.2
60代	268	45.9	36.9	51.5	42.2	44.4	35.1	25.0	30.6
70歳以上	277	49.8	41.2	51.6	42.2	43.7	38.3	21.3	32.1

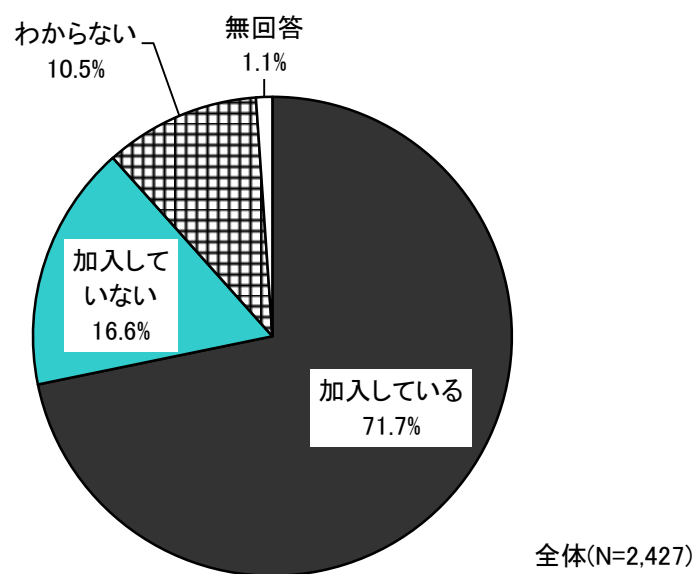
	運動会（体育祭）	敬老会	世代間の交流	文化祭	外国人との交流	新春の集い	その他	特にない	無回答	
全体	27.3	20.9	18.6	17.8	9.9	5.1	1.9	6.7	2.6	全体
男性計	28.0	16.6	18.6	16.8	10.7	4.9	2.1	7.5	2.3	男性計
20代	31.6	6.3	11.4	12.7	11.4	-	1.3	7.6	2.5	20代
30代	23.3	9.8	17.8	15.3	16.0	5.5	3.1	6.7	0.6	30代
40代	25.5	10.8	17.6	11.8	13.7	2.9	2.9	9.8	2.5	40代
50代	20.9	9.0	16.4	10.4	9.7	1.5	-	8.2	3.7	50代
60代	27.9	17.4	24.7	17.8	9.6	5.0	1.8	5.9	2.7	60代
70歳以上	37.7	36.3	18.1	27.5	4.9	10.3	2.0	6.4	2.0	70歳以上
女性計	27.2	23.7	18.5	18.7	9.3	5.2	1.8	6.1	2.6	女性計
20代	17.2	6.9	19.0	8.6	15.5	2.6	1.7	6.9	0.9	20代
30代	18.1	10.9	16.3	10.4	14.5	2.7	1.8	4.1	2.3	30代
40代	26.1	20.9	21.4	17.5	11.5	5.6	1.7	7.7	2.1	40代
50代	26.6	27.5	22.3	16.7	9.4	4.3	2.6	6.4	2.6	50代
60代	30.6	22.4	17.5	22.8	6.0	3.0	2.2	6.7	1.9	60代
70歳以上	36.1	41.5	16.2	28.2	4.0	11.2	0.7	5.1	4.7	70歳以上

(8) 自治会・町内会の加入状況

問9 あなた（またはあなたの世帯）は、お住まいの地域の自治会・町内会に加入していますか。あてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

自治会・町内会の加入状況を聞いたところ、「加入している」と回答した人が 71.7%と最も多く、次いで「加入していない」(16.6%)、「わからない」(10.5%) となっている。

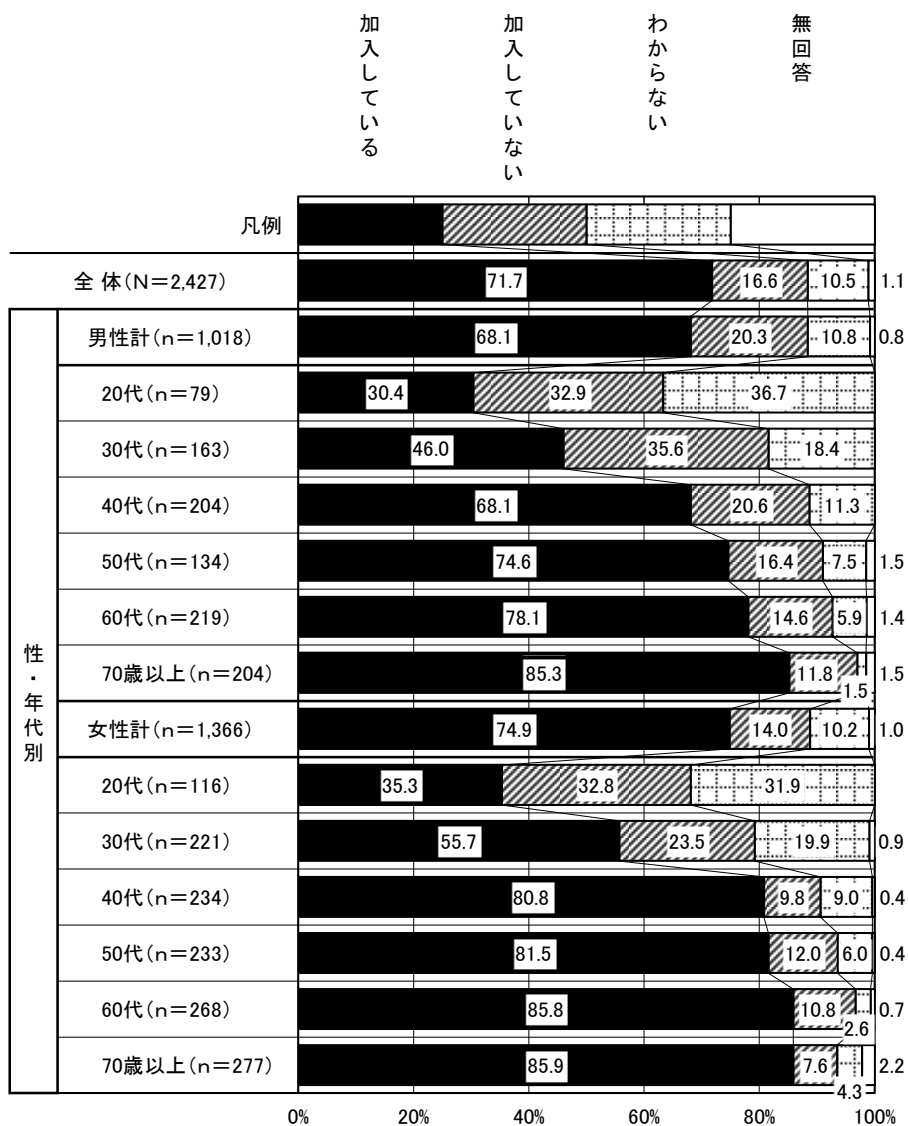
図表 自治会・町内会の加入状況【全体】



性別にみると、女性では「加入している」の割合が男性より6.8ポイント高くなっている。

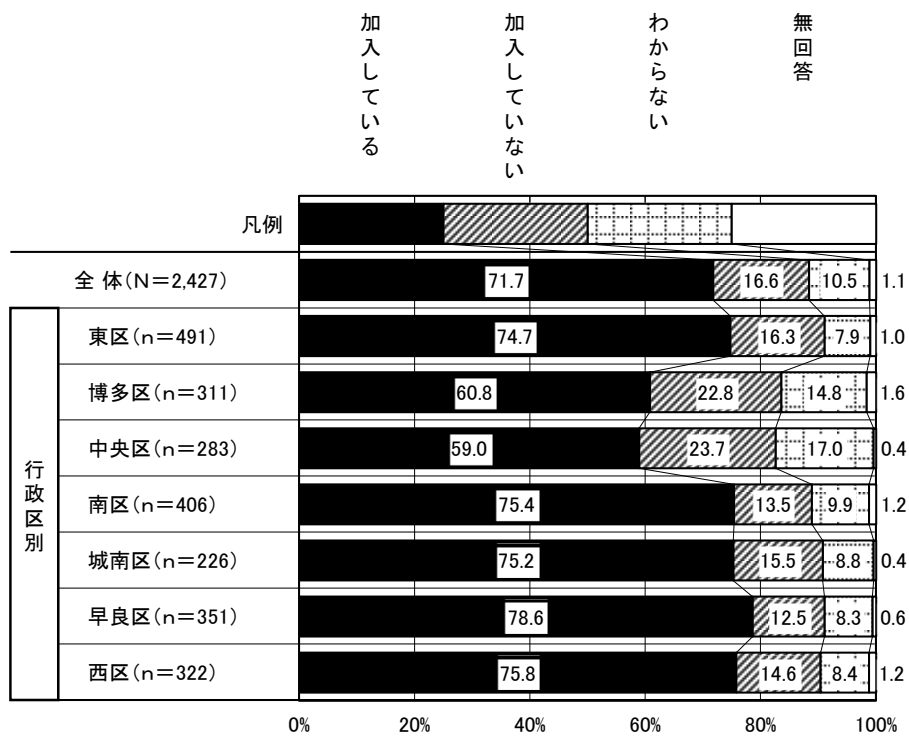
性・年代別にみると、男性70歳以上、女性40代以上では「加入している」の割合が8割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、男性20代・30代、女性20代では「加入していない」の割合が3割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 自治会・町内会の加入状況【性・年代別】



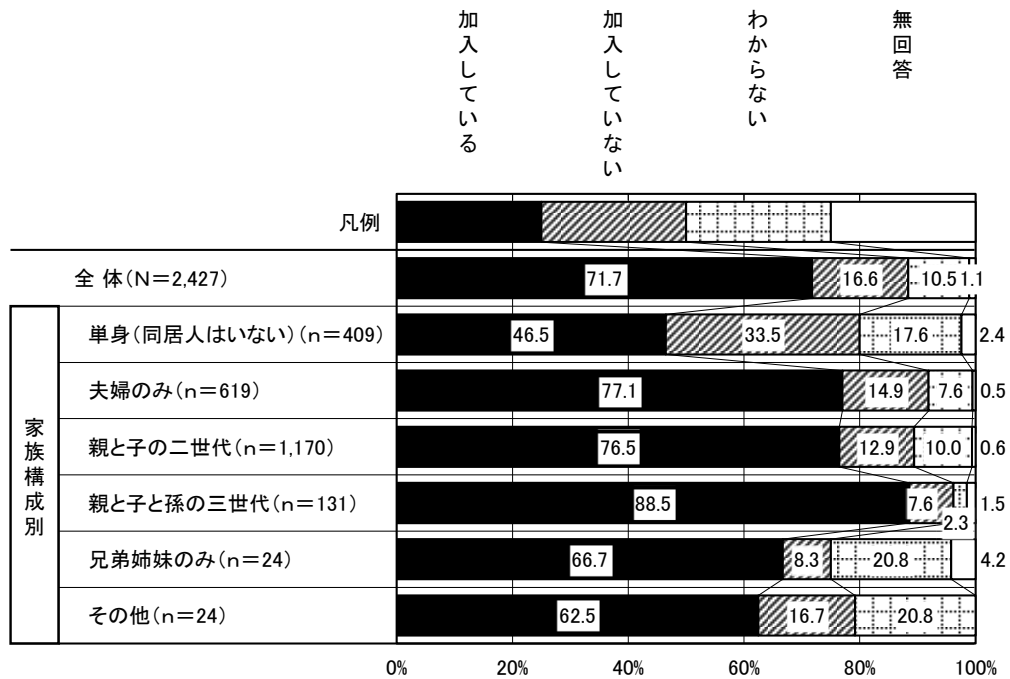
行政区別にみると、博多区、中央区では「加入していない」の割合が2割台前半となっており、他の行政区に比べて高くなっている。

図表 自治会・町内会の加入状況【行政区別】



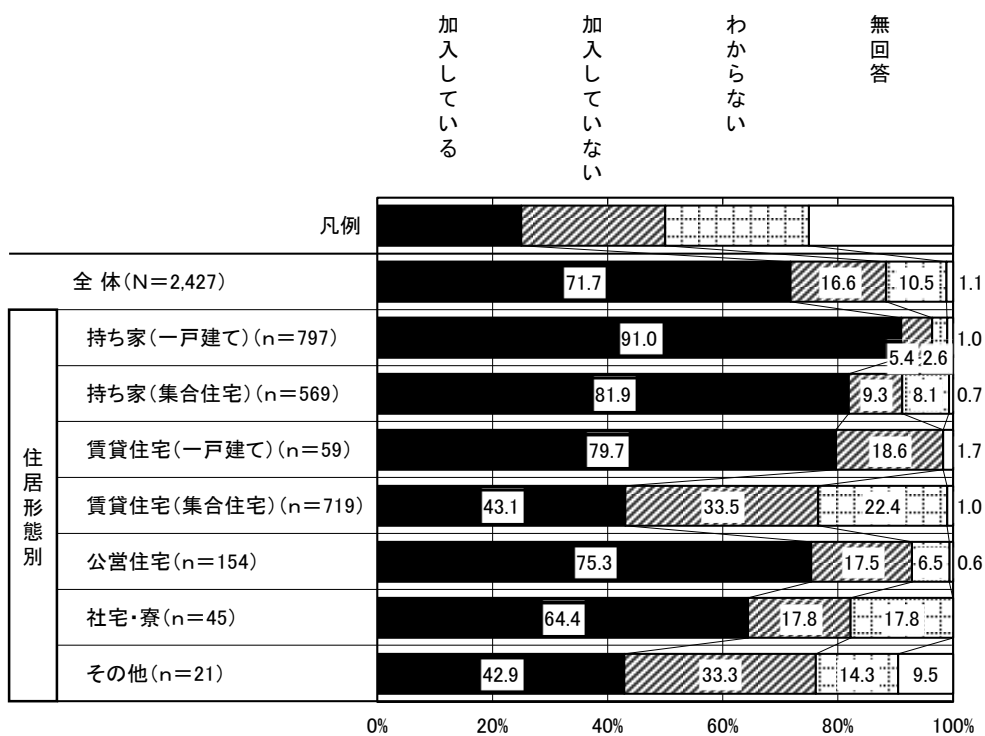
家族構成別にみると、単身（同居人がいない）では「加入していない」の割合が3割台前半となっており、他の家族構成に比べて高くなっている。

図表 自治会・町内会の加入状況【家族構成別】



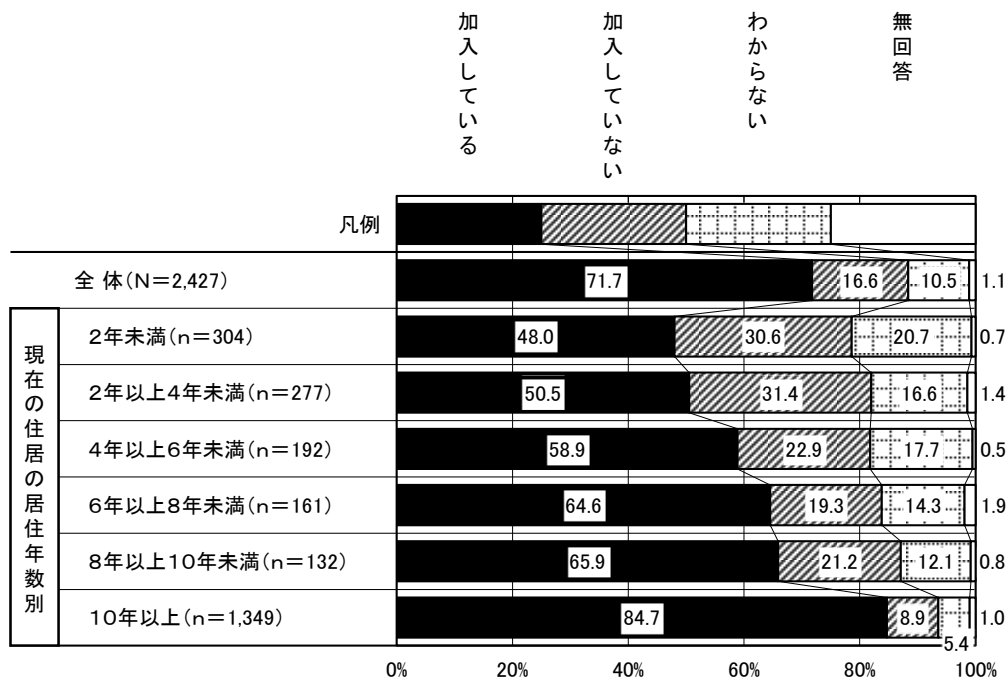
住居形態別にみると、持ち家（一戸建て）では「加入している」の割合が9割を超えており、他の住居形態に比べて高くなっている。また、賃貸住宅（集合住宅）では「加入している」の割合が4割台半ばとなっており、他の住居形態に比べて低くなっている。

図表 自治会・町内会の加入状況【住居形態別】



「現在の住居の居住年数」（問 24 131 頁参照）別にみると、2 年未満、2 年以上 4 年未満では「加入していない」の割合が約 3 割となっており、他の現在の住居の居住年数に比べて高くなっている。

図表 自治会・町内会の加入状況【現在の住居の居住年数別】



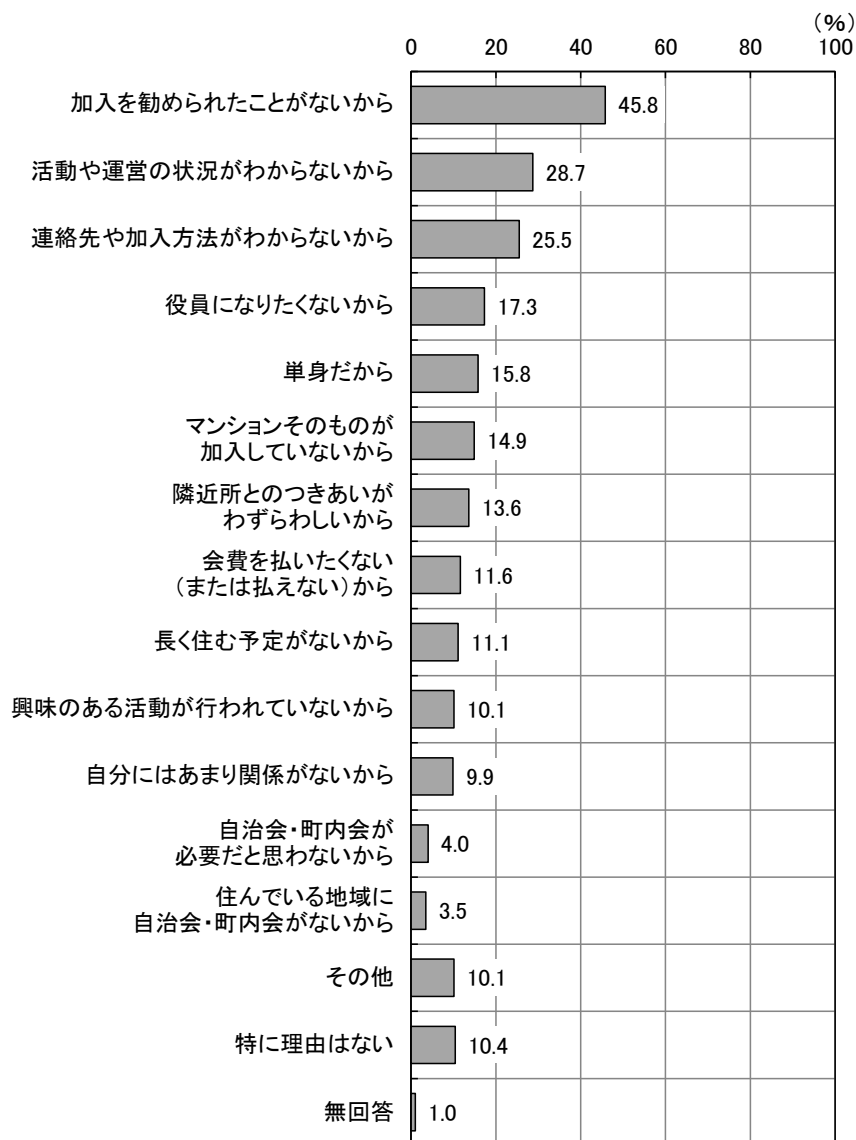
(9) 自治会・町内会に加入していない理由

問9-1 《 問9で「2」と回答した方におたずねします。 》

自治会・町内会に加入していない理由は何ですか。あてはまるものを**すべて**選び、番号に○をつけてください。

自治会・町内会に加入していない理由を聞いたところ、「加入を勧められたことがないから」と回答した人が 45.8%と最も多く、次いで「活動や運営の状況がわからないから」(28.7%)、「連絡先や加入方法がわからないから」(25.5%)となっている。

図表 自治会・町内会に加入していない理由【全体】※複数回答



全体(n=404)

性別にみた場合、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、男性20代～40代、女性20代・30代では「加入を勧められたことがないから」の割合が5割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 自治会・町内会に加入していない理由【性・年代別】※複数回答

単位：％

調査数	加入を勧められたことがないから	活動や運営の状況がわからないから	連絡先や加入方法がわからないから	役員になりたくないから	単身だから	マンションそのものが加入していないから	隣近所とのつきあいがわずらわしいから	会費を払いたくない（または払えない）から
全体	404	45.8	28.7	25.5	17.3	15.8	14.9	13.6
男性計	207	44.4	30.4	24.2	17.4	15.5	11.1	12.6
20代	26	50.0	30.8	23.1	7.7	7.7	3.8	11.5
30代	58	55.2	37.9	25.9	10.3	24.1	13.8	12.1
40代	42	52.4	38.1	40.5	31.0	14.3	2.4	7.1
50代	22	36.4	18.2	9.1	22.7	22.7	18.2	22.7
60代	32	31.3	34.4	25.0	25.0	6.3	21.9	15.6
70歳以上	24	20.8	4.2	4.2	8.3	8.3	8.3	12.5
女性計	191	46.6	27.2	26.2	17.3	16.2	19.4	15.2
20代	38	63.2	23.7	23.7	5.3	42.1	15.8	5.3
30代	52	57.7	34.6	28.8	17.3	19.2	25.0	13.5
40代	23	43.5	26.1	34.8	43.5	-	17.4	21.7
50代	28	39.3	28.6	28.6	28.6	10.7	21.4	28.6
60代	29	34.5	31.0	20.7	10.3	3.4	13.8	13.8
70歳以上	21	19.0	9.5	19.0	4.8	4.8	19.0	14.3

長く住む予定がないから	興味のある活動が行われていないから	自分にはあまり関係がないから	自治会・町内会が必要だと思わないから	町内会がいない地域に自治会・町内会がある	その他	特に理由はない	無回答
11.1	10.1	9.9	4.0	3.5	10.1	10.4	1.0
9.2	14.0	9.7	4.3	2.4	9.2	9.7	1.9
19.2	11.5	15.4	-	-	3.8	15.4	-
10.3	10.3	10.3	5.2	5.2	1.7	10.3	1.7
11.9	16.7	2.4	2.4	-	9.5	7.1	2.4
4.5	4.5	9.1	-	-	18.2	9.1	-
6.3	15.6	9.4	15.6	3.1	12.5	-	3.1
-	29.2	16.7	-	4.2	20.8	16.7	4.2
13.1	5.2	10.5	3.7	4.2	11.5	11.5	-
21.1	2.6	10.5	-	2.6	5.3	7.9	-
19.2	7.7	5.8	1.9	5.8	7.7	13.5	-
13.0	4.3	8.7	8.7	-	17.4	-	-
7.1	7.1	10.7	3.6	3.6	14.3	17.9	-
6.9	3.4	10.3	3.4	6.9	17.2	17.2	-
-	4.8	23.8	9.5	4.8	14.3	9.5	-

「地域活動を行うことは大切だと思うか」(問7 60頁参照)別にみると、『そう思う』では「加入を勧められたことがないから」の割合が48.5%と最も多く、『そう思わない』では「隣近所とのつきあいがわずらわしいから」の割合が33.3%と最も多くなっている。

図表 自治会・町内会に加入していない理由【地域活動を行うことは大切だと思うか別】

※複数回答

単位：%

	調査数	加入を勧められたことがないから	活動や運営の状況がわからなから	連絡先や加入方法がわからなから	役員になりたくないから	単身だから	マンションそのものが加入していないから	隣近所とのつきあいがわずらわしいから	会費を払いたくない(または払えない)から
全体	404	45.8	28.7	25.5	17.3	15.8	14.9	13.6	11.6
そう思う	112	50.0	32.1	35.7	10.7	17.0	23.2	8.0	6.3
どちらかといえばそう思う	226	47.8	29.6	23.9	17.7	14.2	10.6	11.5	10.6
どちらかといえばそう思わない	45	35.6	22.2	13.3	24.4	22.2	20.0	28.9	24.4
そう思わない	15	20.0	20.0	13.3	33.3	20.0	6.7	46.7	33.3
(再掲)『そう思う』	338	48.5	30.5	27.8	15.4	15.1	14.8	10.4	9.2
(再掲)『そう思わない』	60	31.7	21.7	13.3	26.7	21.7	16.7	33.3	26.7

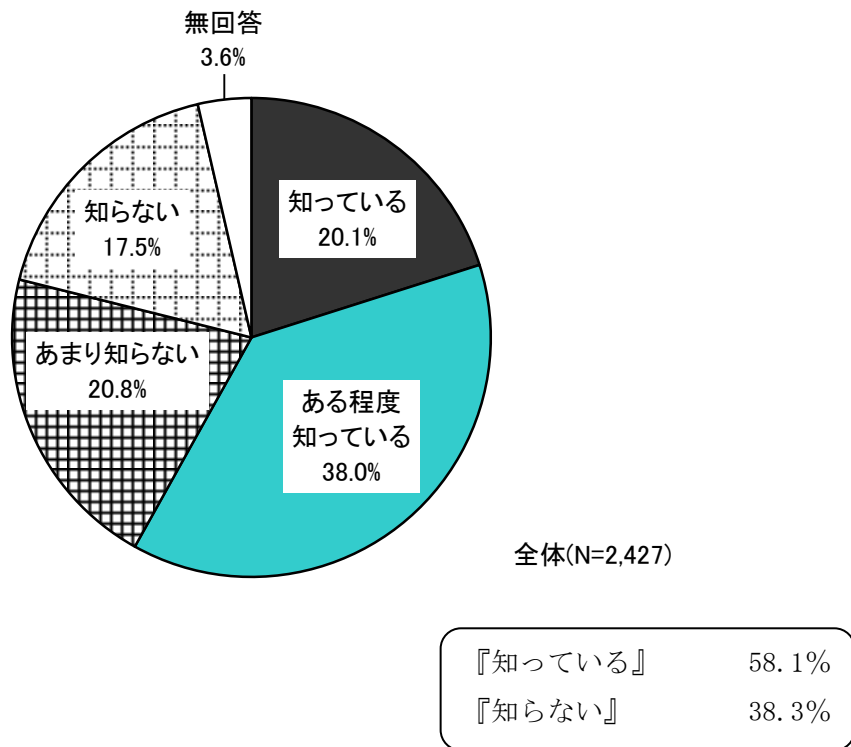
長く住む予定がないから	興味のある活動が行われていないから	自分にはあまり関係がないから	自治会・町内会が必要だと 思わないから	住んでいる地域に自治会・ 町内会がないから	その他	特に理由はない	無回答	
11.1	10.1	9.9	4.0	3.5	10.1	10.4	1.0	全体
7.1	8.0	3.6	1.8	5.4	8.0	7.1	1.8	そう思う
12.4	10.2	8.4	1.8	2.7	10.2	12.8	0.9	どちらかといえばそう思う
17.8	13.3	24.4	11.1	4.4	11.1	8.9	-	どちらかといえばそう思わない
6.7	20.0	26.7	33.3	-	20.0	-	-	そう思わない
10.7	9.5	6.8	1.8	3.6	9.5	10.9	1.2	(再掲)『そう思う』
15.0	15.0	25.0	16.7	3.3	13.3	6.7	-	(再掲)『そう思わない』

(10) 自治会・町内会の活動内容の認知度

問10 あなたは、お住まいの地域の自治会・町内会がどのような活動を行っているか知っていますか。あてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

自治会・町内会の活動内容の認知度を聞いたところ、「ある程度知っている」と回答した人が38.0%と最も多く、次いで「あまり知らない」(20.8%)となっている。また、『知っている』(=「知っている」+「ある程度知っている」)の割合は58.1%、『知らない』(=「知らない」+「あまり知らない」)の割合は38.3%となっている。

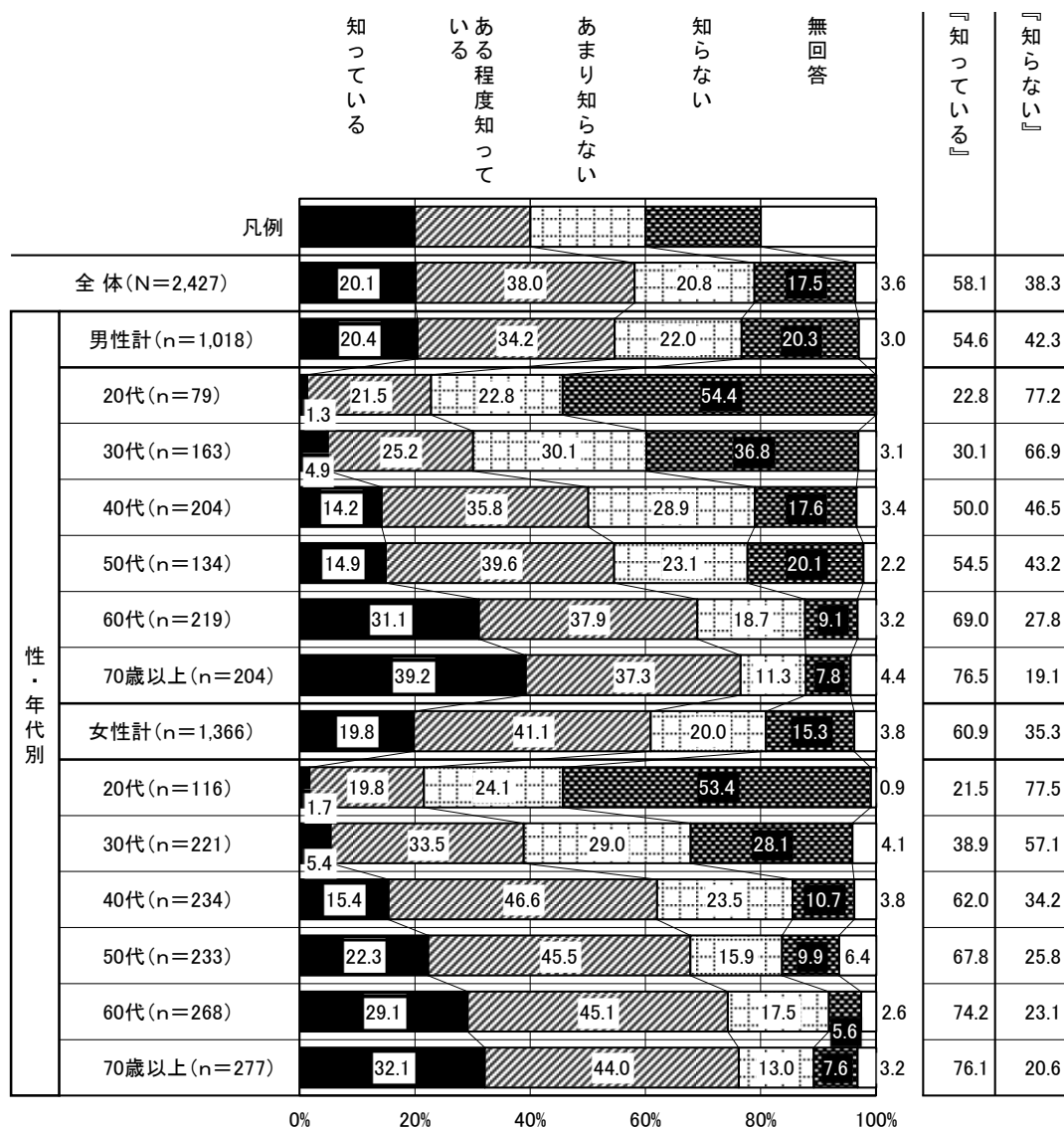
図表 自治会・町内会の活動内容の認知度【全体】



性別にみると、男性では『知らない』(42.3%)の割合が女性と比べて7.0ポイント高くなっている。

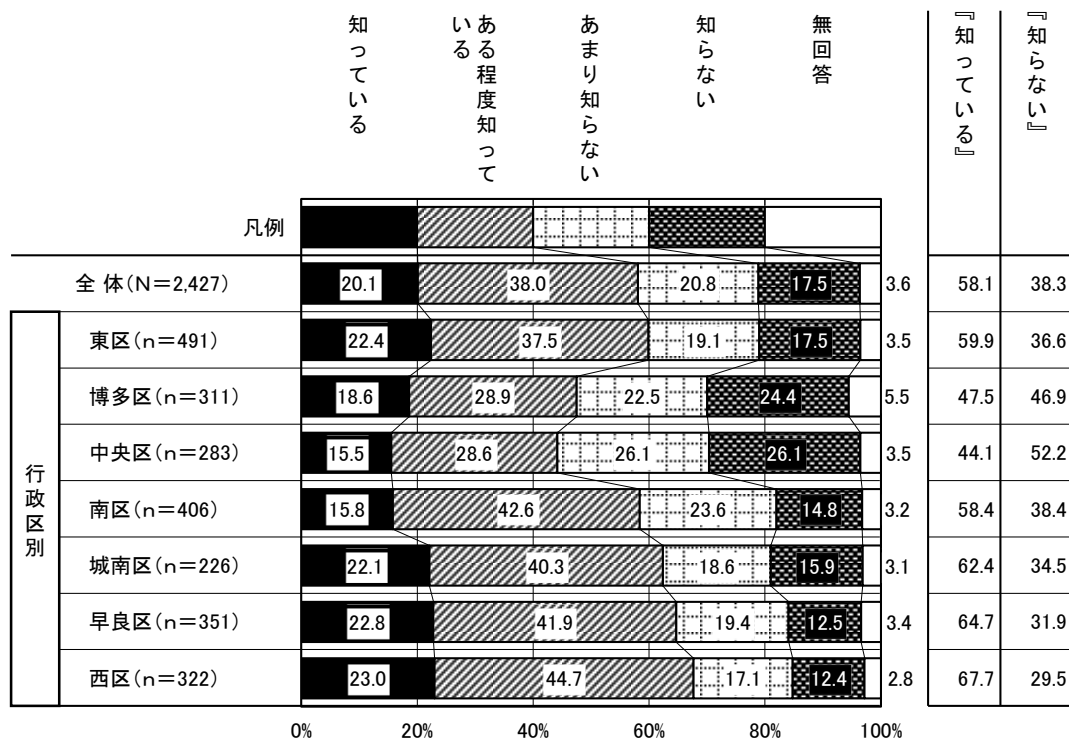
性・年代別にみると、男女ともに『知っている』の割合は年代が上がるほど高くなっている。男性70歳以上、女性60代以上では『知っている』の割合は7割台半ばとなっており、他の性・年代に比べて高くなっている。一方、男女ともに『知らない』の割合は年代が下がるほど高くなり、20代では約8割となっている。

図表 自治会・町内会の活動内容の認知度【性・年代別】



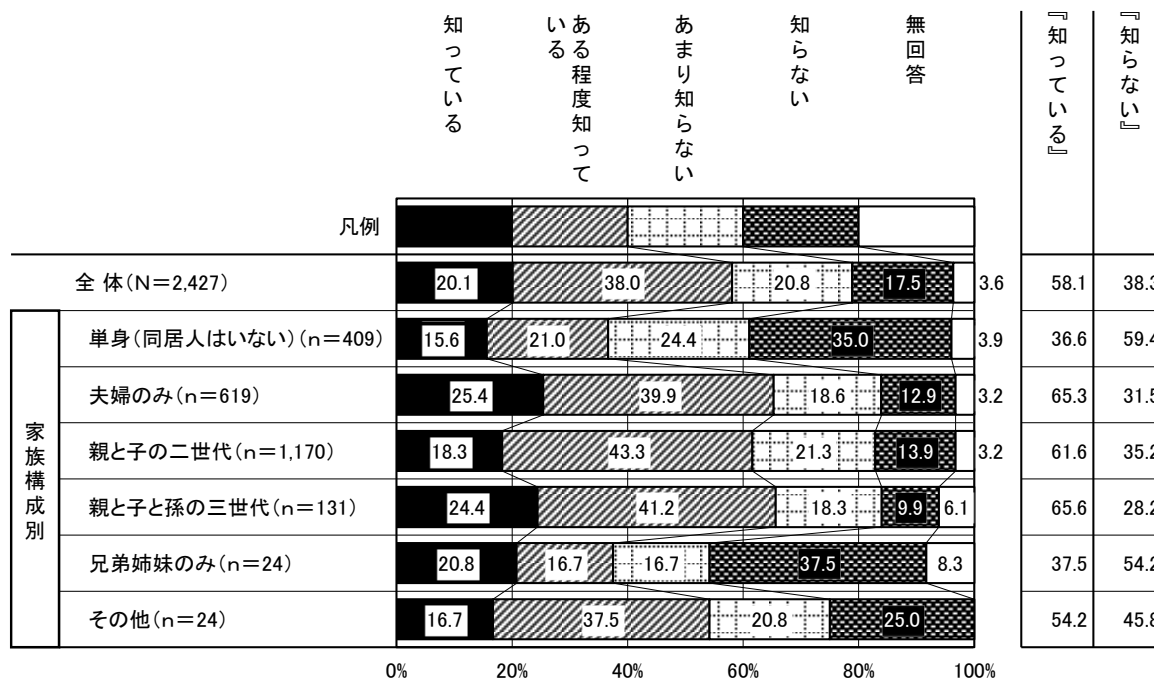
行政区別にみると、城南区、早良区、西区では『知っている』の割合が6割を超えており、他の行政区に比べて高くなっている。一方、博多区、中央区では『知らない』の割合が4割を超えており、他の行政区に比べて高くなっている。

図表 自治会・町内会の活動内容の認知度【行政区別】



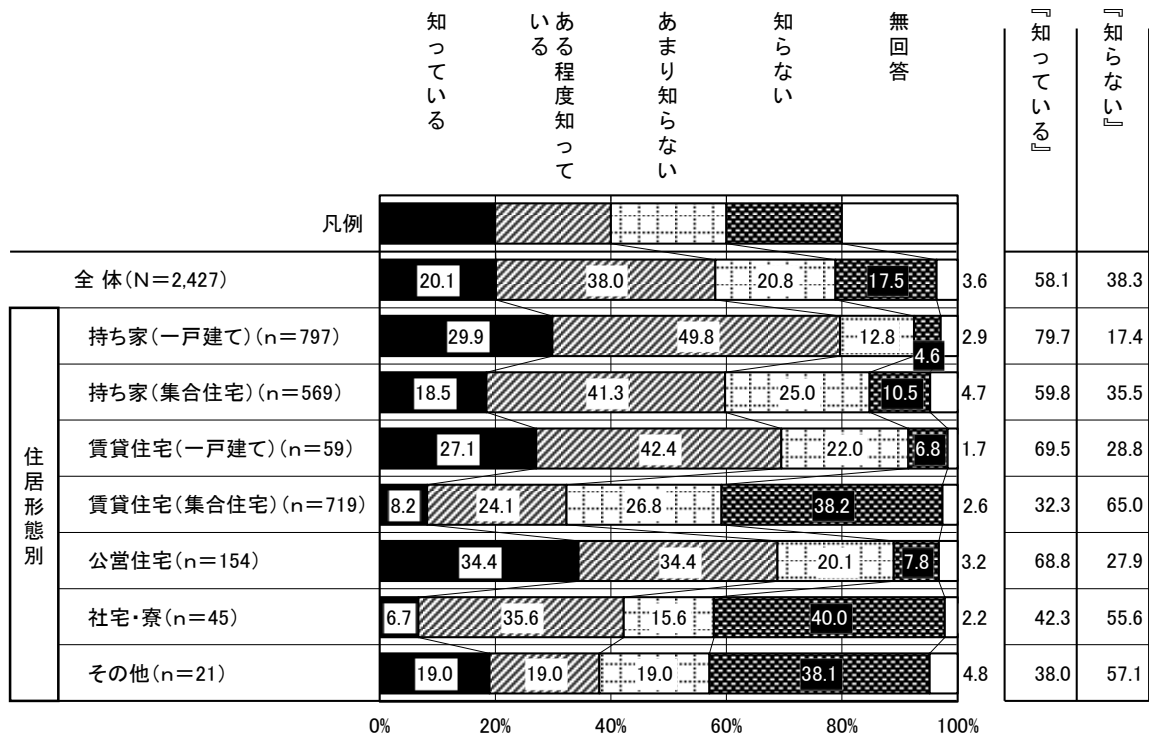
家族構成別にみると、単身（同居人はいない）では『知らない』の割合が約6割となっており、他の家族構成に比べて高くなっている。

図表 自治会・町内会の活動内容の認知度【家族構成別】



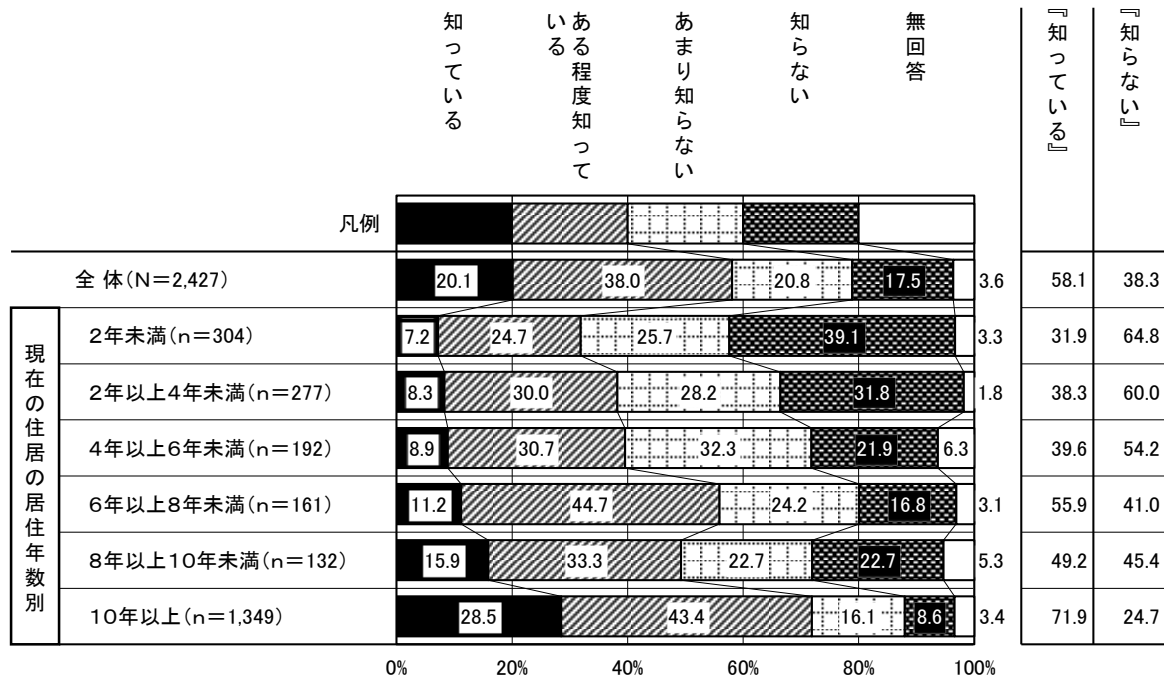
住居形態別にみると、持ち家（一戸建て）、賃貸住宅（一戸建て）、公営住宅では『知っている』の割合が6割を超えており、他の住居形態に比べて高くなっている。一方、賃貸住宅（集合住宅）、社宅・寮では『知らない』の割合が5割を超えており、他の住居形態に比べて高くなっている。

図表 自治会・町内会の活動内容の認知度【住居形態別】



「現在の住居の居住年数」(問 24 131 頁参照) 別にみると、2 年未満、2 年以上 4 年未満、4 年以上 6 年未満では『知らない』の割合が 5 割を超えており、他の現在の住居の居住年数に比べて高くなっている。

図表 自治会・町内会の活動内容の認知度【現在の住居の居住年数別】



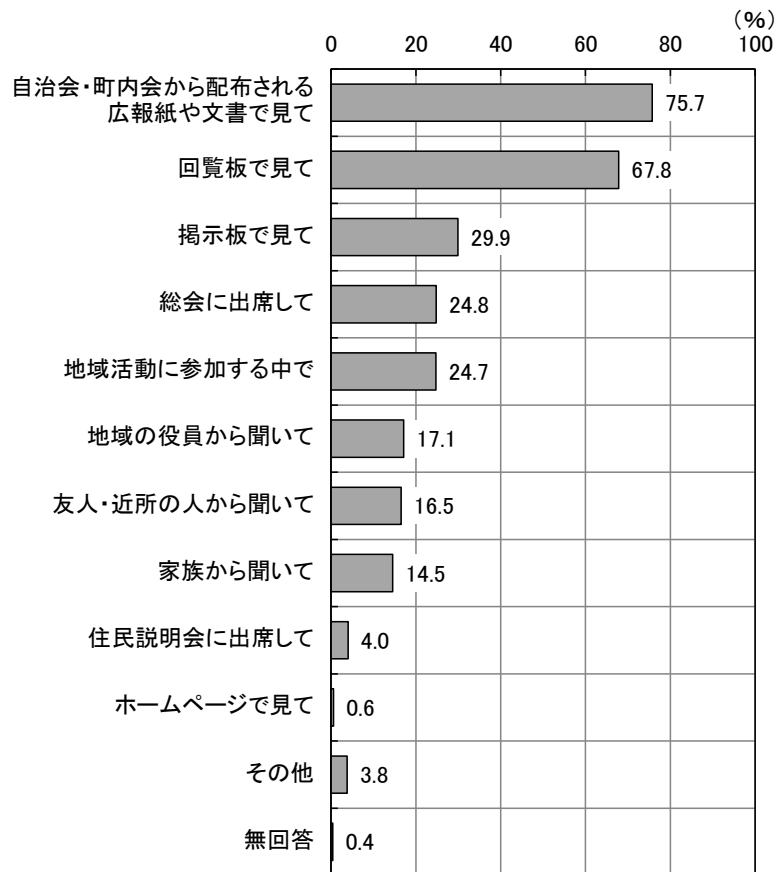
(11) 自治会・町内会の活動を知った媒体

問10-1 《 問10で「1」「2」と回答した方におたずねします。 》

自治会・町内会の活動について、どのようにして知りましたか。あてはまるものを**すべて**選び、番号に○をつけてください。

自治会・町内会の活動を知った媒体を聞いたところ、「自治会・町内会から配布される広報紙や文書を見て」と回答した人が75.7%と最も多く、次いで「回覧板を見て」(67.8%)、「掲示板を見て」(29.9%)となっている。

図表 自治会・町内会の活動を知った媒体【全体】※複数回答



全体(n=1,410)

性別にみた場合、男性では「家族から聞いて」（20.9％）の割合が女性に比べて10.4ポイント高くなっている。女性では「自治会・町内会から配布される広報紙や文書で見て」（78.4％）の割合が男性に比べて6.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに「自治会・町内会から配布される広報紙や文書で見て」の割合は、年代が上がるほど高くなる傾向にあり、男性70歳以上、女性50代以上では8割を超えている。

図表 自治会・町内会の活動を知った媒体【性・年代別】※複数回答

単位：％

	調査数	自治会・町内会から配布される広報紙や文書で見て	回覧板で見て	掲示板で見て	総会に出席して	地域活動に参加する中で	地域の役員から聞いて
全体	1,410	75.7	67.8	29.9	24.8	24.7	17.1
男性計	556	71.6	66.7	31.3	23.6	22.5	15.3
20代	18	61.1	50.0	16.7	5.6	11.1	-
30代	49	55.1	57.1	30.6	14.3	20.4	16.3
40代	102	63.7	63.7	25.5	14.7	17.6	9.8
50代	73	67.1	67.1	26.0	26.0	28.8	21.9
60代	151	73.5	62.3	32.5	28.5	24.5	17.9
70歳以上	156	82.7	77.6	38.5	28.8	21.8	14.7
女性計	832	78.4	68.6	29.3	25.5	26.7	18.4
20代	25	56.0	48.0	28.0	4.0	8.0	4.0
30代	86	75.6	64.0	34.9	17.4	17.4	11.6
40代	145	69.0	64.1	32.4	27.6	35.9	24.8
50代	158	80.4	63.9	24.1	25.9	32.9	16.5
60代	199	82.4	72.9	32.7	28.6	26.6	17.6
70歳以上	211	83.4	74.9	26.5	27.0	21.8	20.4

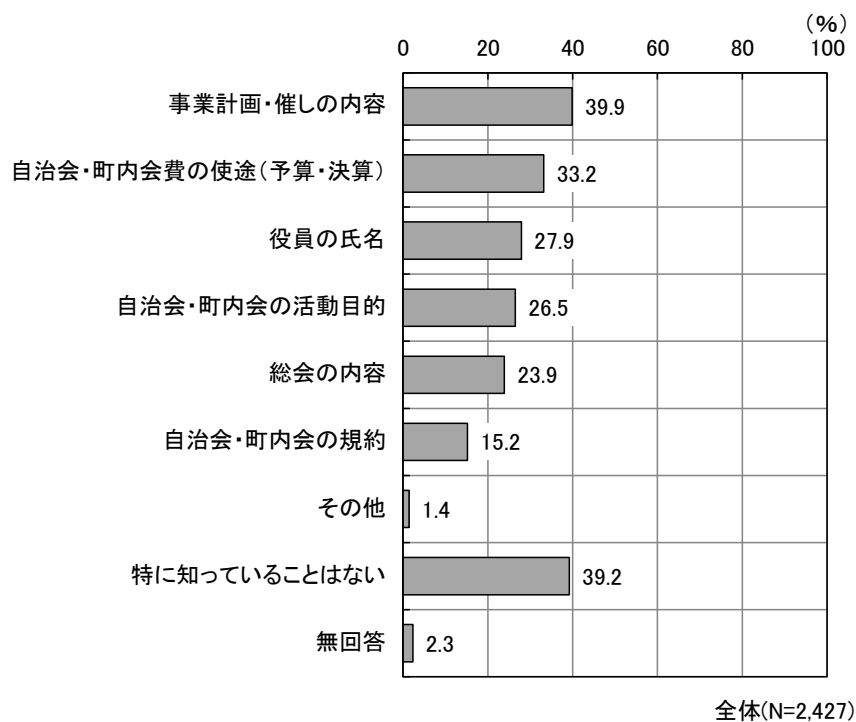
	友人・近所の人から聞いて	家族から聞いて	住民説明会に出席して	ホームページで見て	その他	無回答	
全体	16.5	14.5	4.0	0.6	3.8	0.4	全体
男性計	14.2	20.9	4.3	0.5	3.6	0.4	男性計
20代	5.6	38.9	-	5.6	5.6	-	20代
30代	14.3	30.6	6.1	-	-	-	30代
40代	18.6	31.4	-	1.0	3.9	-	40代
50代	13.7	13.7	1.4	-	4.1	-	50代
60代	14.6	17.9	4.6	0.7	4.6	0.7	60代
70歳以上	12.2	14.1	7.7	-	3.2	0.6	70歳以上
女性計	18.1	10.5	3.7	0.6	4.0	0.5	女性計
20代	8.0	48.0	-	4.0	-	-	20代
30代	22.1	18.6	-	-	8.1	-	30代
40代	23.4	6.9	2.8	0.7	3.4	0.7	40代
50代	17.7	6.3	1.9	-	4.4	-	50代
60代	11.6	12.1	4.0	1.0	5.5	1.0	60代
70歳以上	20.9	7.1	7.1	0.5	1.4	0.5	70歳以上

(12) 自治会・町内会の運営について知っている内容

問11 あなたは、お住まいの地域の自治会・町内会の運営について、どのようなことを知っていますか。あてはまるものを**すべて**選び、番号に○をつけてください。

自治会・町内会の運営について知っている内容を聞いたところ、「事業計画・催しの内容」と回答した人が39.9%と最も多く、次いで「特に知っていることはない」(39.2%)、「自治会・町内会費の使途(予算・決算)」(33.2%)となっている。

図表 自治会・町内会の運営について知っている内容【全体】※複数回答



性別にみると、女性では「役員の氏名」(30.8%)、「事業計画・催しの内容」(42.5%)、「総会の内容」(26.4%)の割合が男性に比べて、それぞれ6.6ポイント、5.8ポイント、5.8ポイント高くなっている。また、男性では「特に知っていることはない」(44.0%)の割合が女性に比べて8.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男性20代～40代、女性20代・30代では「特に知っていることはない」の割合が5割以上となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 自治会・町内会の運営について知っている内容【性・年代別】※複数回答

単位：％

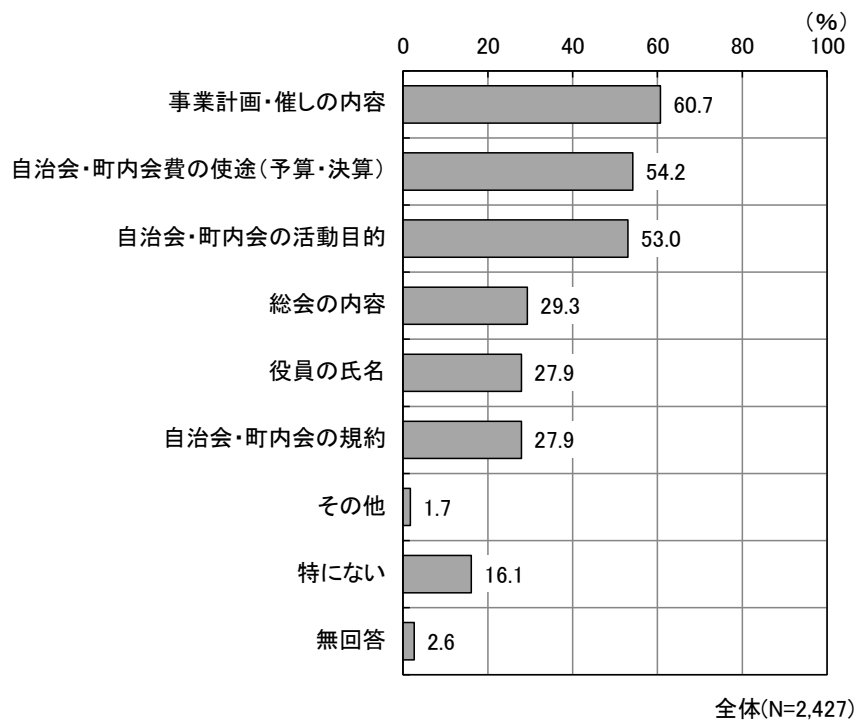
	調査数	事業計画・催しの内容	自治会・町内会費の使途 (予算・決算)	役員の氏名	自治会・町内会の活動目的	総会の内容	自治会・町内会の規約	その他	特に知っていることはない	無回答
全体	2,427	39.9	33.2	27.9	26.5	23.9	15.2	1.4	39.2	2.3
男性計	1,018	36.7	30.1	24.2	27.3	20.6	14.4	1.6	44.0	1.1
20代	79	13.9	5.1	3.8	2.5	-	-	-	81.0	-
30代	163	19.6	11.7	5.5	9.2	8.6	2.5	1.8	66.3	1.2
40代	204	27.9	16.2	20.6	15.2	11.8	5.4	1.0	52.0	0.5
50代	134	43.3	31.3	11.9	26.1	14.2	9.0	0.7	41.0	1.5
60代	219	47.0	44.7	36.5	41.6	32.0	22.4	1.4	31.5	0.9
70歳以上	204	52.9	52.0	45.1	49.0	39.2	33.3	3.4	18.6	2.0
女性計	1,366	42.5	35.5	30.8	25.7	26.4	15.7	1.2	35.8	2.9
20代	116	14.7	8.6	4.3	5.2	6.9	0.9	-	78.4	-
30代	221	35.3	15.8	13.6	6.8	9.0	4.1	0.9	53.4	0.5
40代	234	47.9	31.2	29.9	23.1	24.4	11.5	1.3	37.6	0.9
50代	233	54.5	42.9	33.9	33.9	33.0	18.0	1.3	27.0	2.1
60代	268	47.0	44.8	39.9	34.0	35.8	23.1	2.2	25.7	3.4
70歳以上	277	40.8	50.5	45.5	37.9	35.4	26.4	1.1	19.9	7.9

(13) 自治会・町内会が地域住民に知らせるべきこと

問12 自治会・町内会は地域の住民に対して、どのようなことを知らせるべきだと思いますか。あてはまるものを**すべて**選び、番号に○をつけてください。

自治会・町内会が地域住民に知らせるべきことを聞いたところ、「事業計画・催しの内容」と回答した人が60.7%と最も多く、次いで「自治会・町内会費の使途（予算・決算）」(54.2%)、「自治会・町内会の活動目的」(53.0%)となっている。

図表 自治会・町内会が地域住民に知らせるべきこと【全体】※複数回答



性別にみると、女性では「役員の氏名」(31.0%)の割合が男性と比べて7.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみた場合、大きな違いはみられない。

図表 自治会・町内会が地域住民に知らせるべきこと【性・年代別】※複数回答

単位：%

	調査数	事業計画・催しの内容	(予算・町内会費の使途)	自治会・町内会の活動目的	総会の内容	役員の氏名	自治会・町内会の規約	その他	特にない	無回答
全体	2,427	60.7	54.2	53.0	29.3	27.9	27.9	1.7	16.1	2.6
男性計	1,018	60.9	52.1	55.4	27.6	23.7	25.6	1.6	16.5	1.9
20代	79	64.6	36.7	46.8	22.8	8.9	15.2	1.3	26.6	-
30代	163	57.7	45.4	47.2	17.8	9.8	14.7	-	23.3	2.5
40代	204	54.9	46.6	57.4	22.5	17.2	20.6	1.0	17.6	1.0
50代	134	61.9	55.2	48.5	28.4	17.9	15.7	1.5	15.7	0.7
60代	219	64.8	62.1	61.6	32.4	32.0	37.0	2.3	11.0	1.4
70歳以上	204	63.2	56.9	61.8	37.3	41.7	38.2	2.9	12.7	3.9
女性計	1,366	61.2	56.0	51.5	30.7	31.0	29.6	1.8	15.9	2.8
20代	116	60.3	46.6	44.8	21.6	12.9	15.5	1.7	23.3	-
30代	221	61.5	53.4	40.3	19.5	14.5	18.1	1.4	22.6	1.8
40代	234	70.1	62.0	51.3	27.4	30.8	26.5	1.7	12.0	0.9
50代	233	64.4	59.7	57.1	33.9	34.8	31.8	1.7	12.4	2.1
60代	268	61.9	59.0	57.8	37.7	38.8	38.1	1.5	13.8	1.9
70歳以上	277	50.2	50.5	53.4	36.8	41.5	38.3	2.2	15.2	7.9

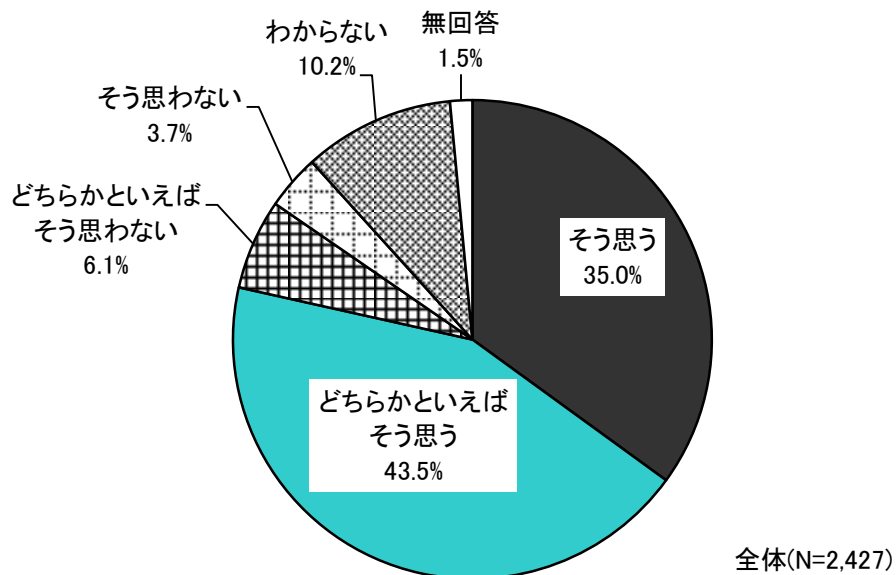
(14) 自治会・町内会が必要だと思うか

問13 お住まいの地域をより住みやすくするために、自治会・町内会は必要だと思いますか。あてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

自治会・町内会が必要だと思うか聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」と回答した人が43.5%と最も多く、次いで「そう思う」(35.0%)となっている。

また、『そう思う』(=「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)の割合は78.5%、『そう思わない』(=「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は9.8%となっている。

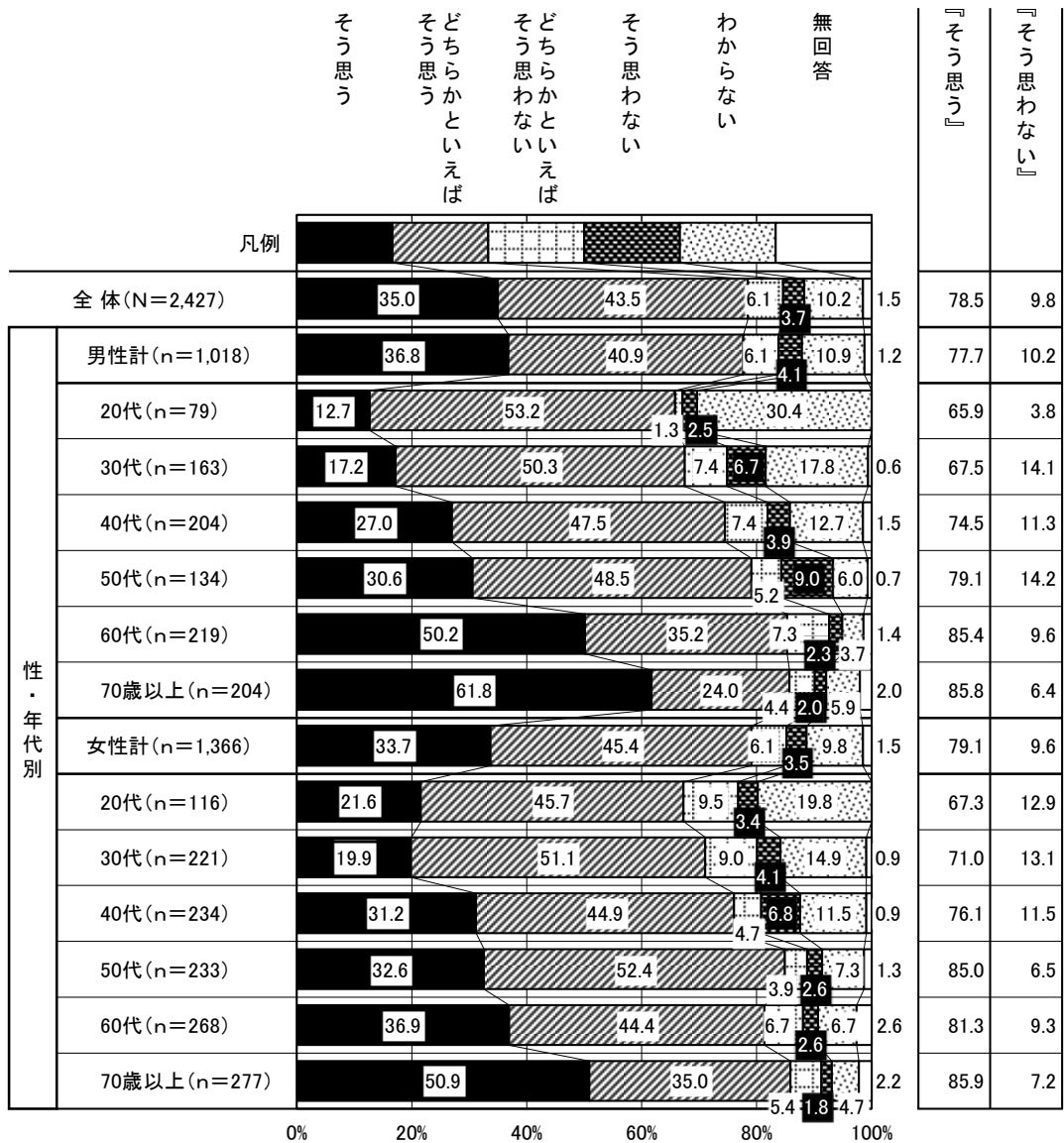
図表 自治会・町内会が必要だと思うか【全体】



性別にみた場合、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、男性 60 代以上、女性 50 代以上では『そう思う』の割合が 8 割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。その内訳をみると、男性 60 代以上、女性 70 歳以上では「そう思う」の割合が 5 割を超えている。男性 20 代では「わからない」の割合が約 3 割となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 自治会・町内会が必要だと思うか【性・年代別】



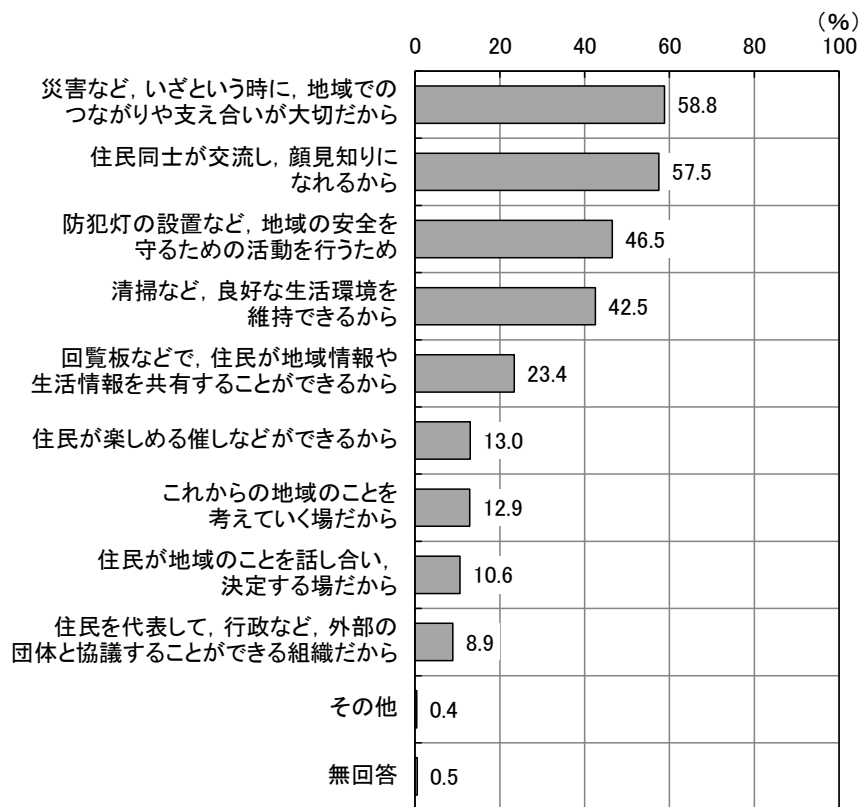
(15) 自治会・町内会が必要だと思う理由

問13-1 《 問13で「1」「2」と回答した方におたずねします。 》

自治会・町内会が必要だと思う（またはどちらかといえば必要だと思う）理由は
何ですか。あてはまるものを**3つまで**選び、番号に○をつけてください。

自治会・町内会が必要だと思う理由を聞いたところ、「災害など、いざという時に、地域でのつながりや支え合いが大切だから」と回答した人が58.8%と最も多く、次いで「住民同士が交流し、顔見知りになれるから」(57.5%)、「防犯灯の設置など、地域の安全を守るための活動を行うため」(46.5%)となっている。

図表 自治会・町内会が必要だと思う理由【全体】※複数回答（3つまで）



全体(n=1,905)

性別にみると、女性では「災害など、いざという時に、地域でのつながりや支え合いが大切だから」(63.7%)の割合が男性に比べて10.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男性20代・30代・70歳以上では「災害など、いざという時に、地域でのつながりや支え合いが大切だから」の割合が5割を下回っており、他の性・年代に比べて低くなっている。

図表 自治会・町内会が必要だと思う理由【性・年代別】※複数回答(3つまで)

単位：%

調査数	えに災害などに いざという時 支え合いが大切 だから	り住民同士が 交流し、顔見 知りになれる から	う安全を守る ための活動、 地域の	防犯灯の設置 など、地域の	を清掃など、 良好な生活環 境	情報や生活情 報を共有する から	回覧板などで 、住民が地域 を	で住民が楽し める催しなど が	えこれからの 地域のことを 考	い住民が地域 のことを話し 合	こと、住民が 代表して、行 政	その他	無 回 答
全体	1,905	58.8	57.5	46.5	42.5	23.4	13.0	12.9	10.6	8.9	0.4	0.5	
男性計	791	52.8	57.9	45.0	44.9	23.6	15.7	14.2	11.3	7.8	0.4	0.3	
20代	52	46.2	44.2	38.5	59.6	23.1	15.4	13.5	5.8	7.7	-	-	
30代	110	47.3	54.5	50.0	45.5	20.0	20.0	14.5	9.1	3.6	0.9	-	
40代	152	53.3	58.6	46.1	32.9	23.7	17.1	15.1	11.2	9.2	0.7	-	
50代	106	63.2	50.0	47.2	39.6	26.4	14.2	17.9	12.3	9.4	-	-	
60代	187	55.1	62.0	50.3	48.1	20.3	11.8	13.4	13.9	6.4	-	-	
70歳以上	175	49.1	64.6	36.0	50.3	28.0	16.6	10.9	10.9	10.3	0.6	1.1	
女性計	1,080	63.7	57.2	47.9	41.0	23.2	11.0	11.9	10.1	9.4	0.4	0.6	
20代	78	66.7	51.3	46.2	39.7	23.1	7.7	16.7	9.0	7.7	-	-	
30代	157	61.8	52.9	52.9	48.4	17.2	19.7	7.0	6.4	5.1	1.3	-	
40代	178	66.9	56.2	49.4	42.1	17.4	12.4	10.7	10.7	7.9	-	0.6	
50代	198	64.1	54.0	50.0	36.4	22.2	7.6	20.7	12.6	7.1	-	1.0	
60代	218	69.3	58.3	48.6	37.6	28.9	6.9	8.7	11.9	13.8	-	0.5	
70歳以上	238	55.5	66.0	41.2	41.6	27.7	12.2	10.9	8.4	12.2	0.8	1.3	

行政区別にみると、中央区では「防犯灯の設置など、地域の安全を守るための活動を行うため」の割合が5割台半ばとなっており、他の行政区に比べて高くなっている。

図表 自治会・町内会が必要だと思う理由【行政区別】※複数回答（3つまで）

単位：%

調査数	えに災害り住う安防を清こ回で住えこい住ど、住そ無	合害に民同全犯犯掃報覧民がてこれ民がが、外民	合害に民同全犯犯掃報覧民がてこれ民がが、外民	合害に民同全犯犯掃報覧民がてこれ民がが、外民	合害に民同全犯犯掃報覧民がてこれ民がが、外民	合害に民同全犯犯掃報覧民がてこれ民がが、外民	合害に民同全犯犯掃報覧民がてこれ民がが、外民	合害に民同全犯犯掃報覧民がてこれ民がが、外民	合害に民同全犯犯掃報覧民がてこれ民がが、外民	合害に民同全犯犯掃報覧民がてこれ民がが、外民	合害に民同全犯犯掃報覧民がてこれ民がが、外民	合害に民同全犯犯掃報覧民がてこれ民がが、外民
全体	1,905	58.8	57.5	46.5	42.5	23.4	13.0	12.9	10.6	8.9	0.4	0.5
東区	385	60.8	60.8	46.2	43.4	21.8	13.0	13.2	9.9	8.3	0.3	0.5
博多区	222	56.8	59.9	45.5	45.0	21.6	11.3	11.7	8.6	5.9	0.9	0.9
中央区	211	60.7	47.4	55.5	38.4	19.9	10.0	17.1	9.5	8.5	0.5	0.5
南区	328	54.3	58.2	45.7	42.7	27.7	12.5	11.6	8.5	10.4	0.6	-
城南区	180	64.4	55.6	50.6	45.0	22.2	10.0	11.1	13.3	11.7	-	-
早良区	285	58.6	58.2	43.2	37.5	25.6	17.9	13.7	11.6	9.1	0.4	1.1
西区	264	59.5	58.3	42.8	46.2	23.1	14.0	11.7	13.6	7.6	0.4	0.4

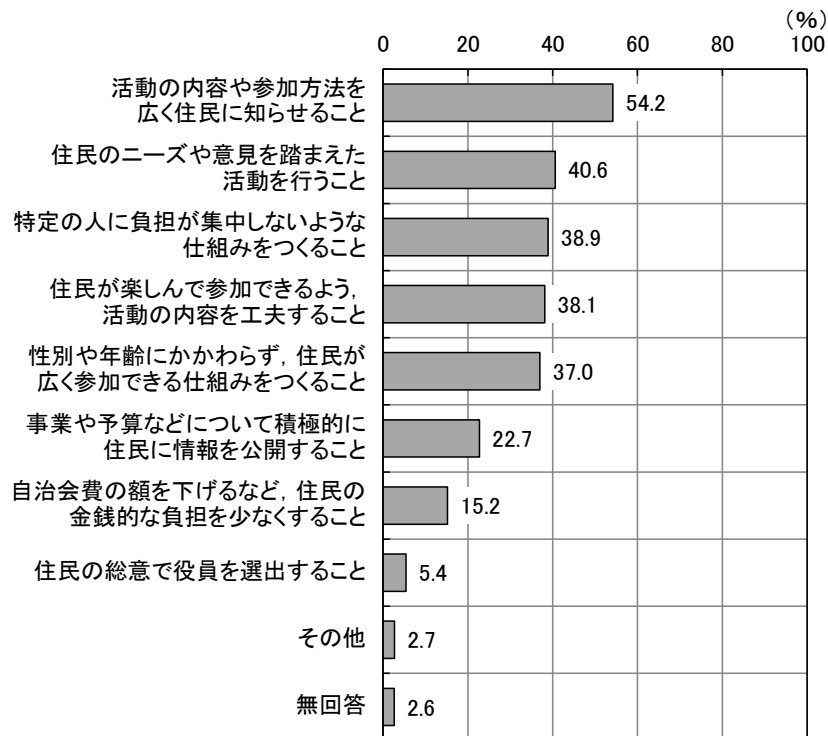
(16) 自治会・町内会が多く住居の理解・参加を得るために取り組むべきこと

問14 自治会・町内会が、多くの住居の理解や参加を得ながら活動していくためには、どのようなことに取り組むことが必要だと思いますか。あてはまるものを**3つまで**選び、番号に○をつけてください。

自治会・町内会が多く住居の理解・参加を得るために取り組むべきことを聞いたところ、「活動の内容や参加方法を広く住居に知らせること」と回答した人が54.2%と最も多く、次いで「住居のニーズや意見を踏まえた活動を行うこと」(40.6%)、「特定の人に負担が集中しないような仕組みをつくること」(38.9%)となっている。

図表 自治会・町内会が多く住居の理解・参加を得るために取り組むべきこと【全体】

※複数回答（3つまで）



全体(N=2,427)

性別にみると、男性では「活動の内容や参加方法を広く住民に知らせること」(57.8%)の割合が女性と比べて6.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性20代では「性別や年齢にかかわらず、住民が広く参加できる仕組みをつくること」の割合が5割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 自治会・町内会が多くての住民の理解・参加を得るために取り組むべきこと【性・年代別】

※複数回答(3つまで)

単位：%

	調査数	活動の内容や参加方法を広く住民に知らせること	住民のニーズや意見を踏まえた活動を行うこと	特定の人の負担を軽減すること	住民の活動のなかで参加できる工夫すること	住民が広く参加できるように年齢にかかわらず、性別や年齢に合わせた情報公開を積極的に行うこと	事業や住民情報をつい	自治会の金額を下げるなど、負担を減らすこと	住民の総意で役員を選出すること	その他	無回答
全体	2,427	54.2	40.6	38.9	38.1	37.0	22.7	15.2	5.4	2.7	2.6
男性計	1,018	57.8	40.6	37.7	39.6	35.9	23.2	13.1	6.2	3.4	1.7
20代	79	62.0	38.0	38.0	31.6	34.2	31.6	12.7	2.5	1.3	2.5
30代	163	54.6	44.2	39.3	35.6	38.0	20.9	16.0	4.9	-	1.8
40代	204	55.9	42.6	43.1	32.8	29.4	18.6	12.3	3.4	6.9	0.5
50代	134	53.0	40.3	43.3	29.1	37.3	28.4	16.4	1.5	6.0	2.2
60代	219	60.3	40.2	35.6	47.9	41.1	22.4	11.0	5.9	1.4	2.3
70歳以上	204	60.8	36.8	30.9	50.0	33.8	24.5	11.3	15.2	3.9	1.5
女性計	1,366	51.6	40.6	39.8	37.2	37.9	22.7	16.9	4.7	2.0	3.0
20代	116	56.0	49.1	30.2	34.5	52.6	28.4	20.7	1.7	0.9	-
30代	221	47.5	44.8	39.8	35.3	38.0	18.1	19.5	1.8	1.8	3.6
40代	234	47.4	43.2	47.4	32.1	37.2	19.7	16.2	2.6	3.4	1.7
50代	233	51.9	44.6	48.9	30.9	38.6	26.6	14.6	5.2	1.7	1.7
60代	268	49.3	39.9	40.3	39.9	34.7	23.5	17.2	3.7	1.9	3.0
70歳以上	277	58.1	29.2	29.6	46.9	34.7	22.0	15.5	10.8	1.8	6.1

(17) 自治協議会の認知度

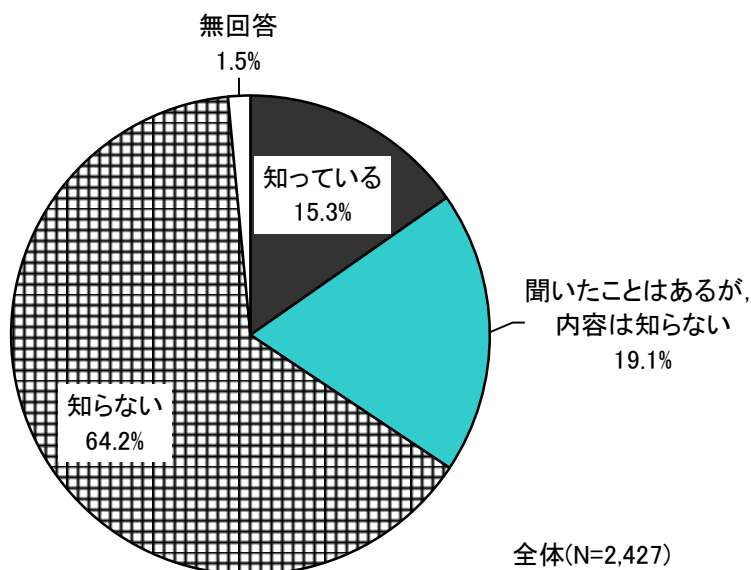
問15 福岡市は、平成16年度から各校区に対し「自治協議会」^{※2}の設立を提案しています。あなたは「自治協議会」を知っていますか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

※2 「自治協議会」とは、多くの住民や団体の参加のもとで、防犯・防災、子ども、環境、福祉など、地域のさまざまな事柄についてみんなで話し合い、校区を運営していく組織です（「自治協議会」の名称は、校区によって異なりますが、現在、市内の全ての校区で設立されています）。

自治協議会の認知度を聞いたところ、「知らない」と回答した人が64.2%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」(19.1%)、「知っている」(15.3%)となっている。

また、『知っている・聞いたことがある』(=「知っている」+「聞いたことはあるが、内容は知らない」)の割合は34.4%となっている。

図表 自治協議会の認知度【全体】

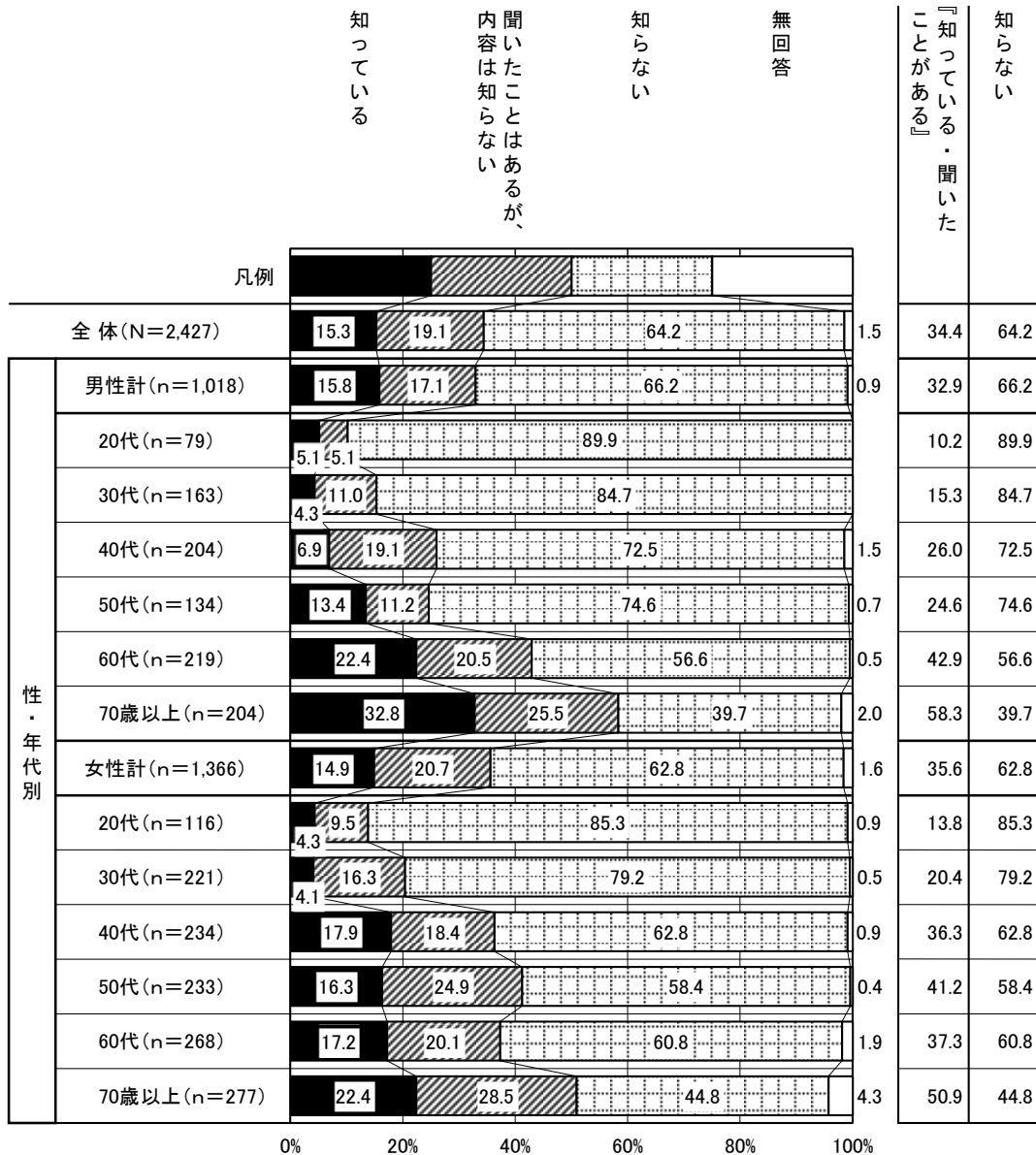


『知っている・聞いたことがある』	34.4%
「知らない」	64.2%

性別にみた場合、大きな違いはみられない。

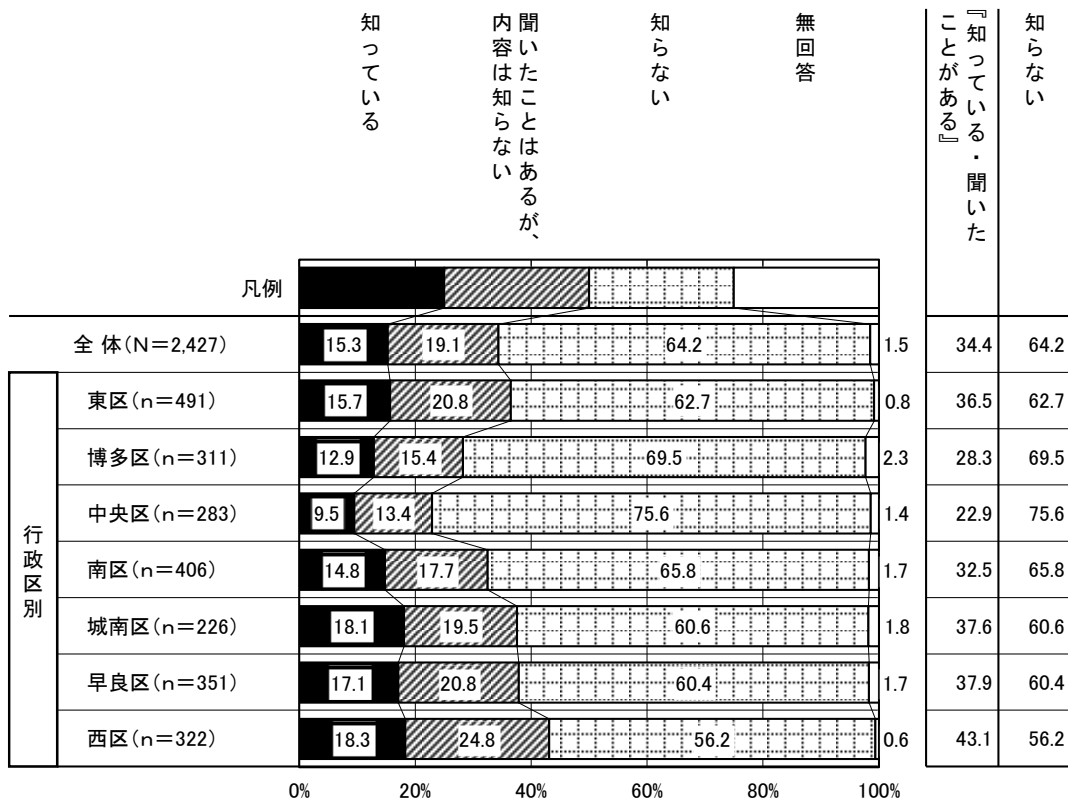
性・年代別にみると、男女ともに70歳以上では『知っている・聞いたことがある』の割合が5割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。男女ともに「知らない」の割合は年齢が下がるほど高くなる傾向にあり、20代・30代では概ね8割を超えている。

図表 自治協議会の認知度【性・年代別】



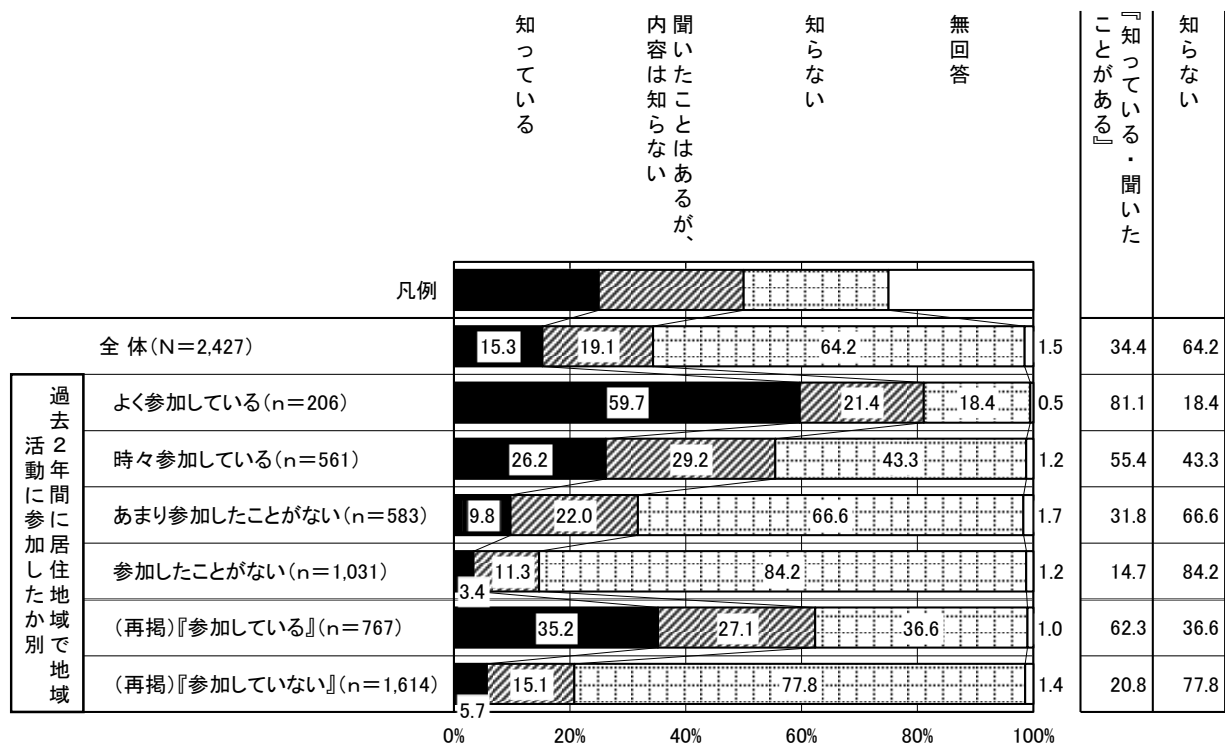
行政区別にみると、中央区では「知らない」の割合が7割台半ばとなっており、他の行政区に比べて高くなっている。

図表 自治協議会の認知度【行政区別】



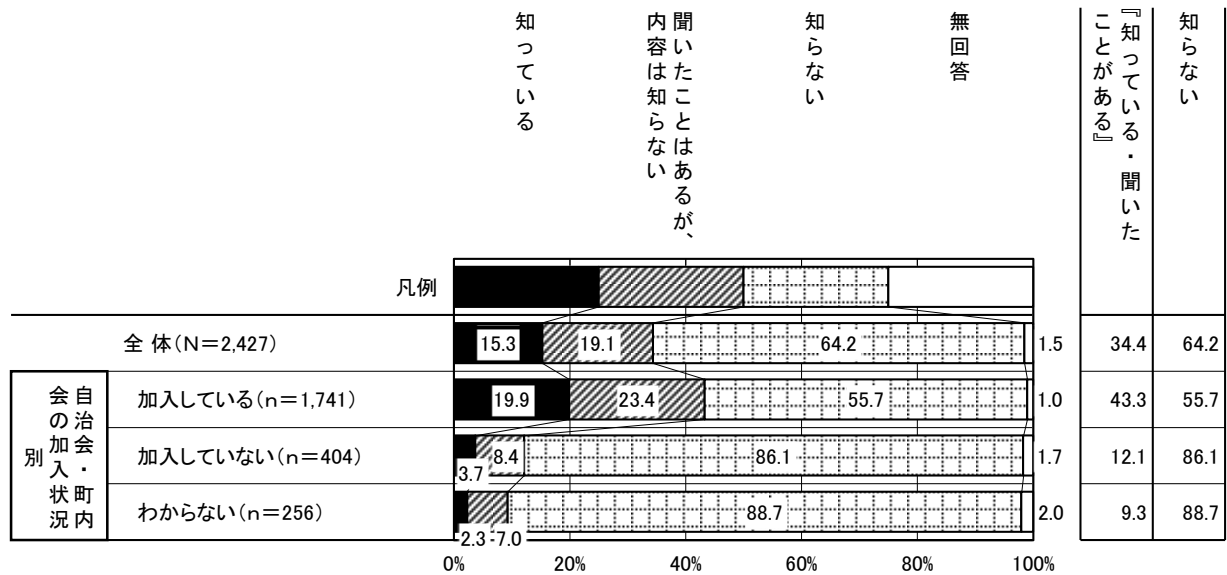
「過去2年間に居住地域で地域活動に参加したか」(問6 48頁参照)別にみると、『参加している』では『知っている・聞いたことがある』(62.3%)の割合が『参加していない』と比べて41.5ポイント高くなっている。

図表 自治協議会の認知度【過去2年間に居住地域で地域活動に参加したか別】



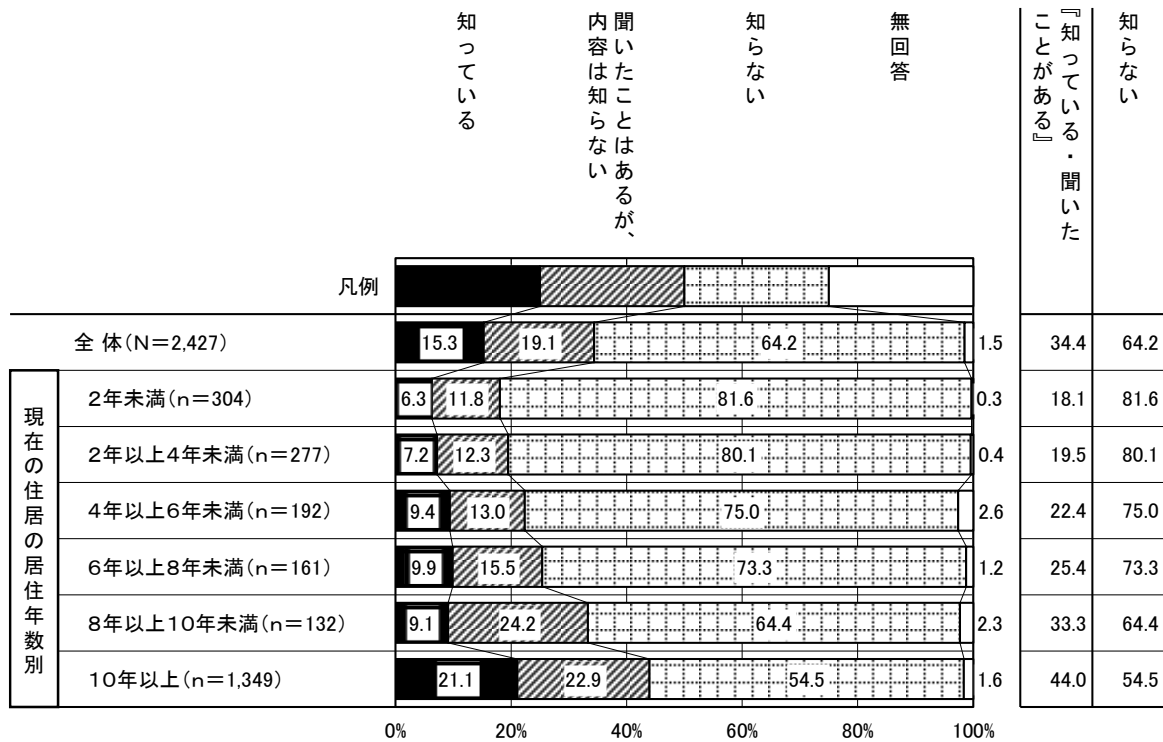
「自治会・町内会の加入状況」(問9 66頁参照)別にみると、加入しているでは『知っている・聞いたことがある』の割合が4割台前半となっている。また、加入していない、わからないでは「知らない」の割合が8割台後半となっている。

図表 自治協議会の認知度【自治会・町内会の加入状況別】



「現在の住居の居住年数」（問 24 131 頁参照）別にみると、2 年未満、2 年以上 4 年未満、4 年以上 6 年未満、6 年以上 8 年未満では「知らない」の割合が 7 割を超えており、他の現在の住居の居住年数に比べて高くなっている。

図表 自治協議会の認知度【現在の住居の居住年数別】



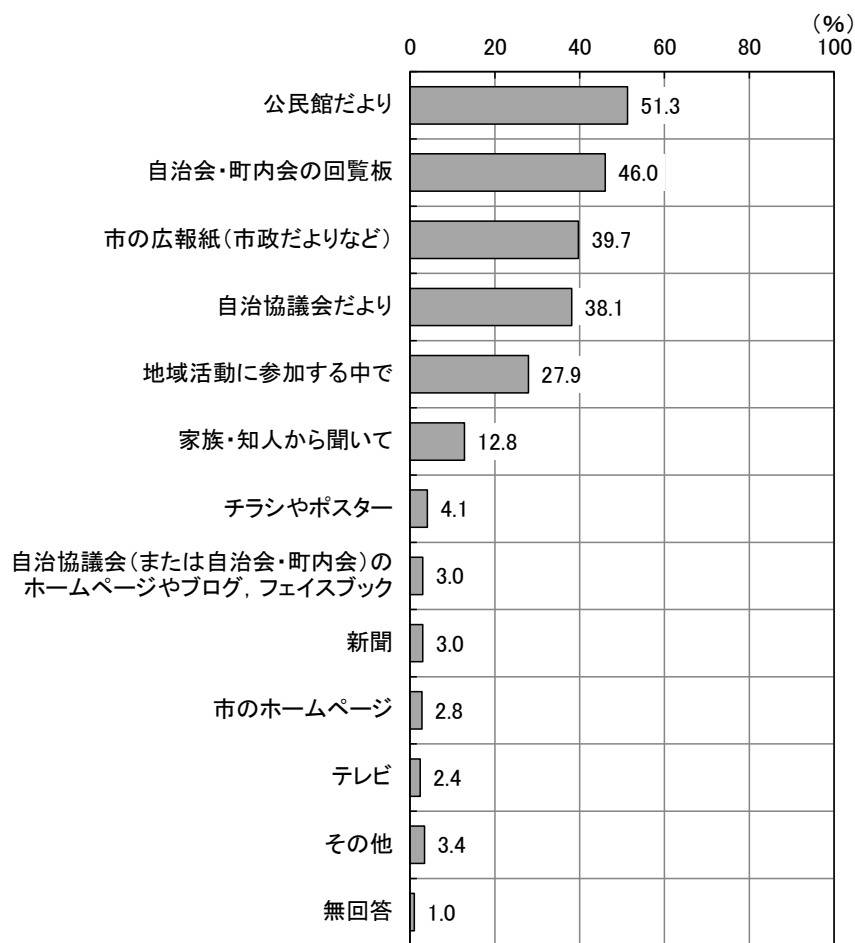
(18) 自治協議会を知った媒体

問15-1 《 問15で「1」「2」と回答した方におたずねします。 》

どのようにして自治協議会のことを知り（聞き）ましたか。あてはまるものを**すべて**選び、番号に○をつけてください。

自治協議会を知った媒体を聞いたところ、「公民館だより」と回答した人が51.3%と最も多く、次いで「自治会・町内会の回覧板」(46.0%)、「市の広報紙(市政だよりなど)」(39.7%)となっている。

図表 自治協議会を知った媒体【全体】※複数回答



全体(n=834)

性別にみた場合、男性では「市の広報紙（市政だよりなど）」（44.8%）の割合が女性に比べて8.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに70歳以上では「公民館だより」の割合が約7割となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 自治協議会を知った媒体【性・年代別】※複数回答

単位：%

	調査数	公民館だより	自治会・町内会の回覧板	市の広報紙（市政だよりなど）	自治協議会だより	地域活動に参加する中で	家族・知人から聞いて
全体	834	51.3	46.0	39.7	38.1	27.9	12.8
男性計	335	49.0	49.0	44.8	36.7	27.2	16.4
20代	8	50.0	25.0	50.0	37.5	12.5	12.5
30代	25	20.0	20.0	36.0	20.0	16.0	36.0
40代	53	35.8	26.4	22.6	30.2	22.6	26.4
50代	33	36.4	45.5	42.4	36.4	33.3	6.1
60代	94	44.7	54.3	41.5	37.2	35.1	13.8
70歳以上	119	67.2	63.0	58.8	42.0	23.5	12.6
女性計	486	52.5	44.0	36.0	38.5	28.6	10.5
20代	16	37.5	12.5	25.0	12.5	-	50.0
30代	45	33.3	26.7	20.0	35.6	17.8	17.8
40代	85	37.6	35.3	27.1	42.4	36.5	8.2
50代	96	51.0	34.4	22.9	42.7	35.4	7.3
60代	100	54.0	50.0	41.0	45.0	33.0	10.0
70歳以上	141	69.5	61.0	51.8	32.6	23.4	7.8

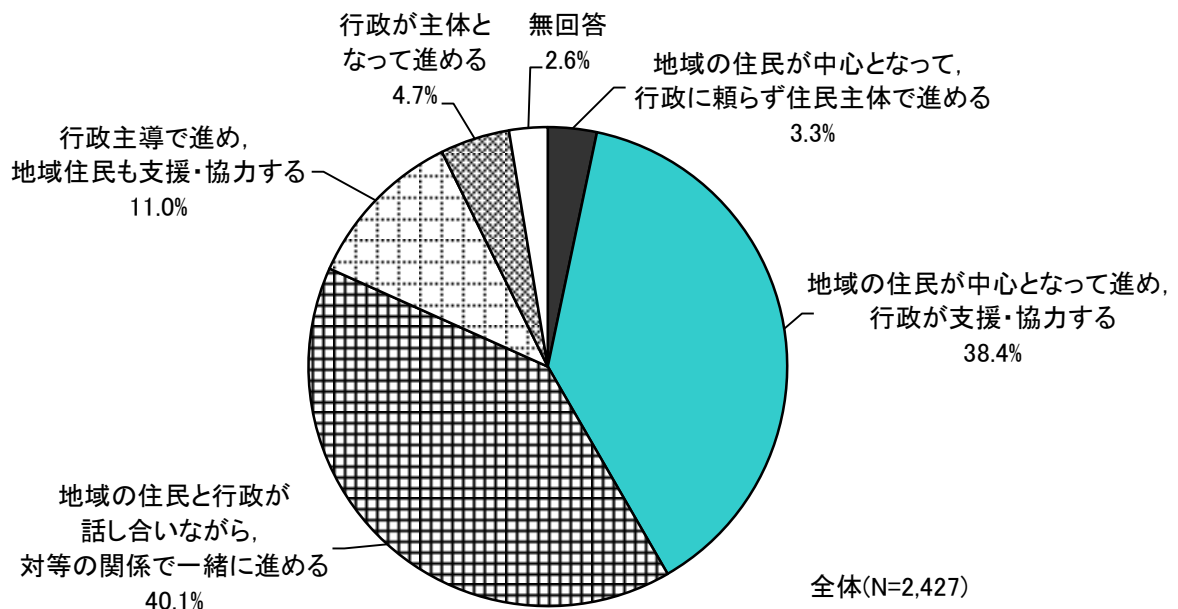
チラシやポスター	自治協議会（または自治会・町内会）のホームページ	新聞	市のホームページ	テレビ	その他	無回答	
4.1	3.0	3.0	2.8	2.4	3.4	1.0	全体
4.8	4.5	4.8	4.2	2.7	3.9	0.3	男性計
12.5	-	-	-	-	12.5	-	20代
-	4.0	-	-	8.0	-	-	30代
-	-	3.8	5.7	3.8	5.7	-	40代
6.1	3.0	-	9.1	-	9.1	3.0	50代
6.4	5.3	4.3	3.2	1.1	3.2	-	60代
5.0	5.9	7.6	4.2	2.5	2.5	-	70歳以上
3.5	1.9	1.9	1.6	2.3	3.1	1.2	女性計
6.3	-	-	-	12.5	6.3	-	20代
2.2	-	-	-	2.2	4.4	-	30代
4.7	1.2	1.2	-	-	3.5	1.2	40代
3.1	2.1	1.0	2.1	1.0	4.2	3.1	50代
3.0	-	-	3.0	-	3.0	1.0	60代
3.5	4.3	5.0	2.1	5.0	1.4	0.7	70歳以上

(19) 地域活動の望ましい進め方

問16 お住まいの地域をよりよくするための地域活動は、どのように進めることが望ましいと思われますか。あなたの考えに最も近いものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

地域活動の望ましい進め方を聞いたところ、「地域の住民と行政が話し合いながら、対等の関係で一緒に進める」と回答した人が40.1%と最も多く、次いで「地域の住民が中心となって進め、行政が支援・協力する」(38.4%)、「行政主導で進め、地域住民も支援・協力する」(11.0%)となっている。

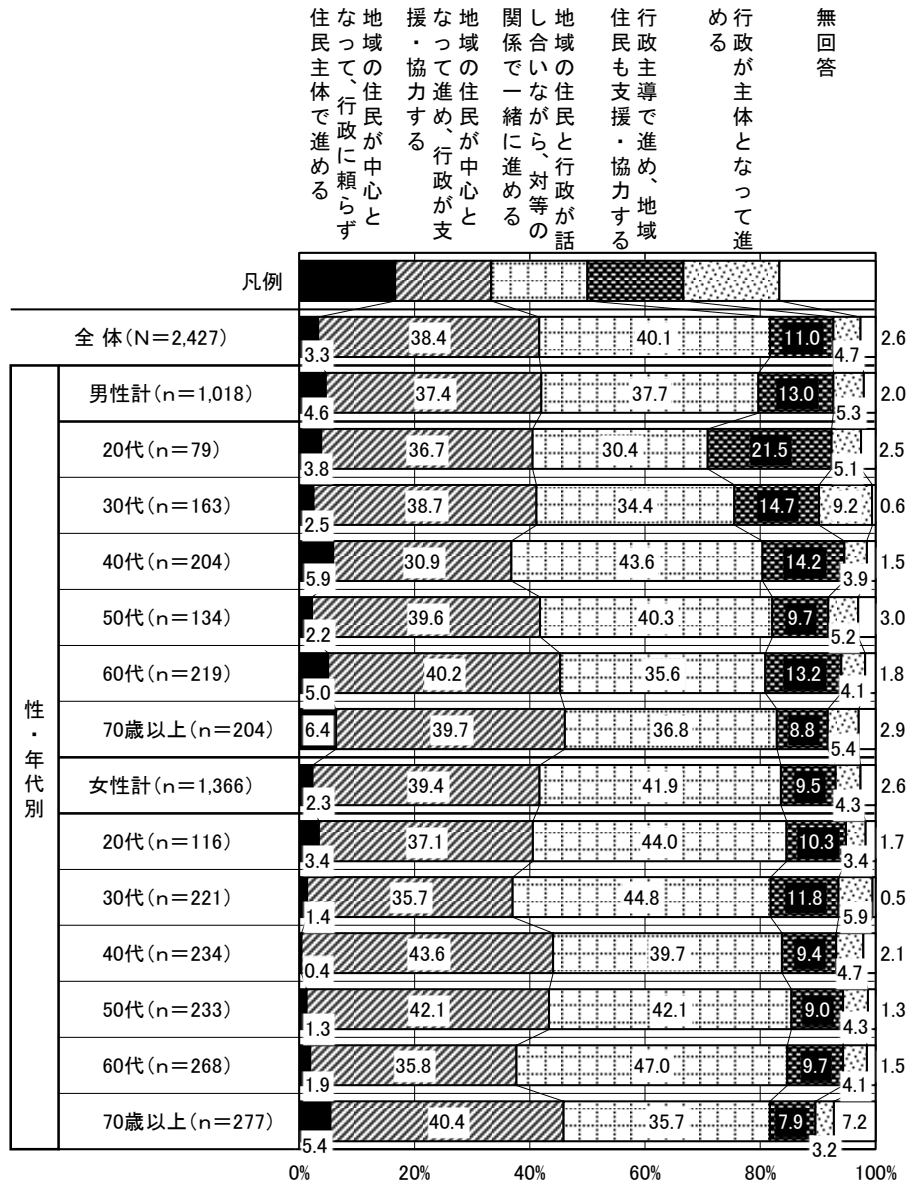
図表 地域活動の望ましい進め方【全体】



性別にみた場合、大きな違いはみられない。

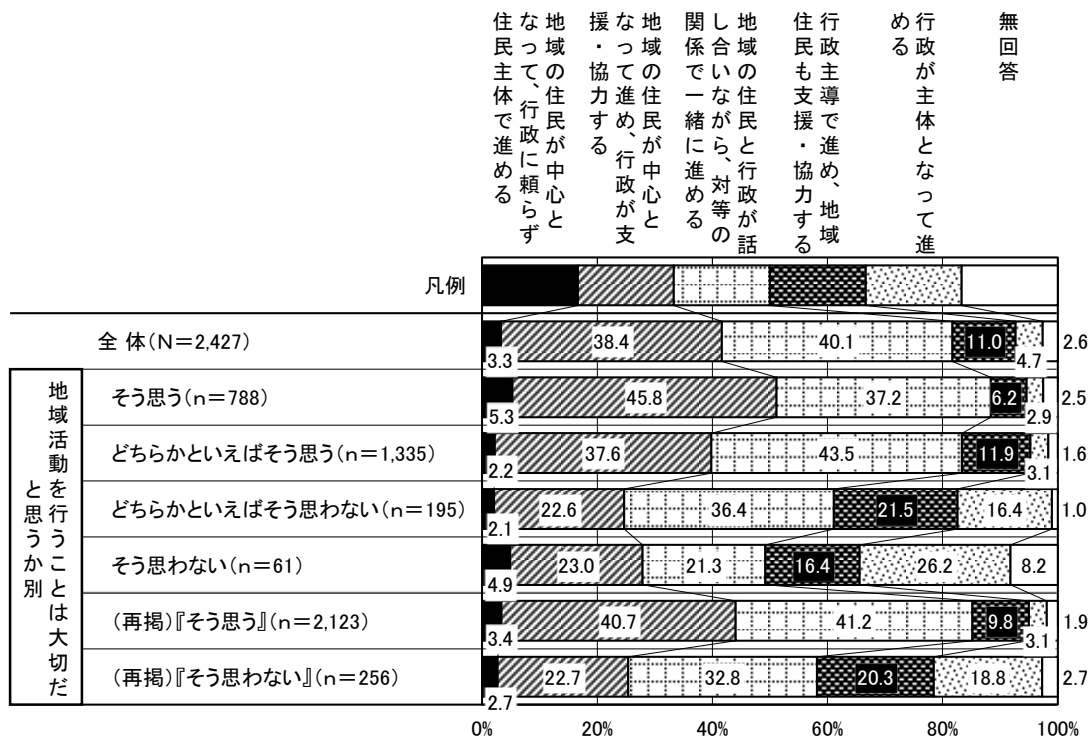
性・年代別にみると、男性 20 代では「行政主導で進め、地域住民も支援・協力する」の割合が 2 割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 地域活動の望ましい進め方【性・年代別】



「地域活動を行うことは大切だと思うか」(問7 60頁参照) 別にみると、『そう思う』では「地域の住民が中心となって進め、行政が支援・協力する」(40.7%)の割合が『そう思わない』と比べて18.0ポイント高くなっている。一方、『そう思わない』では「行政が主体となって進める」(18.8%),「行政主導で進め、地域住民も支援・協力する」(20.3%)の割合が『そう思う』と比べて、それぞれ15.7ポイント、10.5ポイント高くなっている。

図表 地域活動の望ましい進め方【地域活動を行うことは大切だと思うか別】

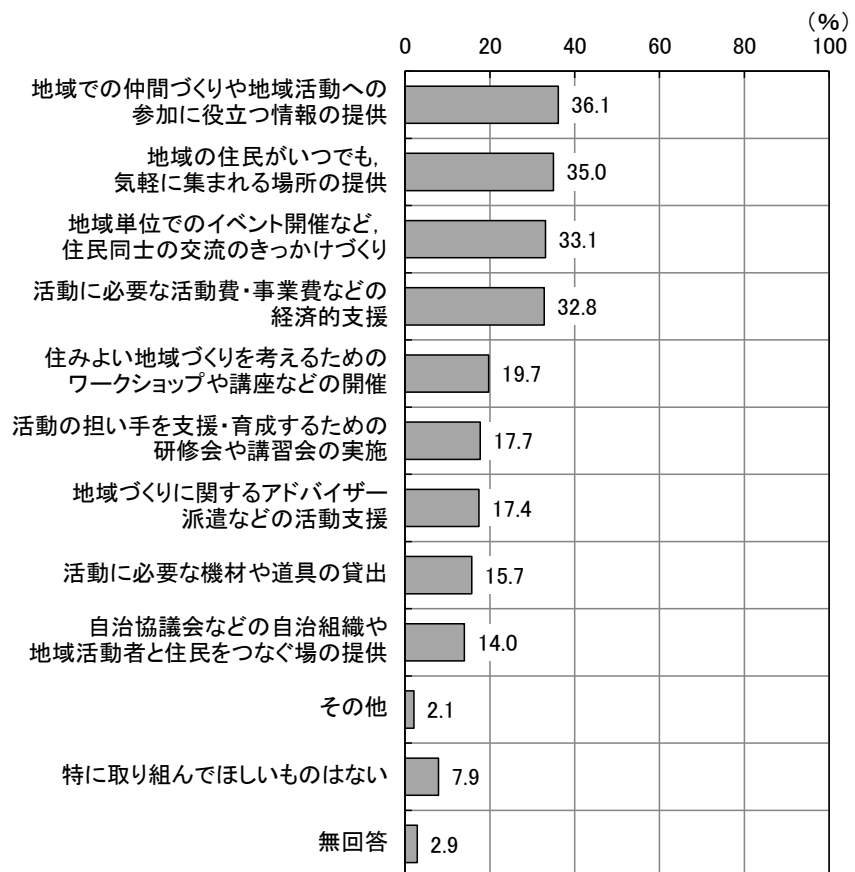


(20) 地域活動を進めるために福岡市が取り組むべきこと

問17 地域活動を進めるにあたって、福岡市は、どのようなことに取り組むことが必要だと思いますか。特に取り組んでほしいものを**3つまで**選び、番号に○をつけてください。

地域活動を進めるために福岡市が取り組むべきことを聞いたところ、「地域での仲間づくりや地域活動への参加に役立つ情報の提供」と回答した人が36.1%と最も多く、次いで「地域の住民がいつでも、気軽に集まれる場所の提供」(35.0%)、「地域単位でのイベント開催など、住民同士の交流のきっかけづくり」(33.1%)となっている。

図表 地域活動を進めるために福岡市が取り組むべきこと【全体】※複数回答(3つまで)



全体(N=2,427)

性別にみた場合、大きな違いはみられない。

性・年代別にみた場合、大きな違いはみられない。

図表 地域活動を進めるために福岡市が取り組むべきこと【性・年代別】※複数回答（3つまで）

単位：%

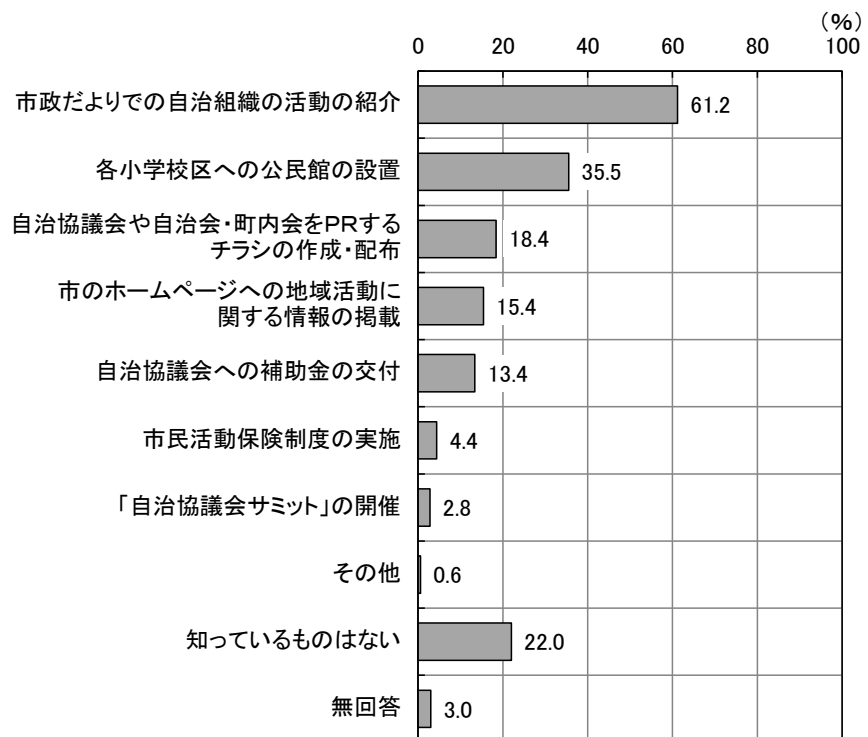
調査数	地域での活動への参加に役立つ地域情報	地域の住民が集まる場所の提供、気軽	地域単位でのイベント開催	きつかけづくりの交流の開催	活動に必要な活動費・事業費などの経済的支援	講座などの開催	住みよい地域づくりを考え	の実施のための研修会や講習会	活動の担い手を支援・育成	イザ！派遣などの活動支援	貸出	自治協議会などの自治組織や地域の活動者と住民をつなぐ場の提供	その他	特に取り組んでほしいもの	無回答
全体	2,427	36.1	35.0	33.1	32.8	19.7	17.7	17.4	15.7	14.0	2.1	7.9	2.9		
男性計	1,018	36.9	33.4	35.9	35.4	17.5	19.9	16.8	17.0	15.9	2.3	8.0	1.6		
20代	79	32.9	26.6	40.5	22.8	17.7	22.8	16.5	20.3	11.4	1.3	12.7	-		
30代	163	31.3	33.7	36.2	37.4	18.4	15.3	16.0	21.5	16.6	1.2	10.4	-		
40代	204	39.2	32.8	34.3	36.8	9.8	17.6	13.7	20.1	15.7	3.9	7.8	1.0		
50代	134	30.6	29.9	23.9	38.1	17.9	23.9	22.4	19.4	19.4	2.2	9.0	1.5		
60代	219	40.6	36.5	38.4	38.4	20.5	19.6	19.2	13.7	14.6	1.8	5.0	1.8		
70歳以上	204	39.7	35.3	40.7	31.9	19.6	23.0	14.2	11.8	17.2	2.5	6.4	3.9		
女性計	1,366	35.4	35.9	31.3	30.8	21.5	16.4	18.1	14.8	12.2	2.0	8.1	3.5		
20代	116	34.5	40.5	41.4	32.8	17.2	9.5	10.3	16.4	7.8	-	12.9	1.7		
30代	221	29.9	33.0	37.6	29.0	19.0	13.1	15.8	20.4	10.0	2.7	10.4	-		
40代	234	32.1	30.3	32.9	34.2	22.2	14.1	20.1	20.1	11.1	0.9	9.0	2.1		
50代	233	40.8	27.0	25.8	36.1	21.5	19.3	25.8	17.2	14.6	3.0	6.4	0.4		
60代	268	41.0	41.4	28.0	29.1	26.1	18.3	14.9	9.7	14.2	3.0	4.9	4.1		
70歳以上	277	33.9	44.4	29.6	26.7	19.1	19.5	15.9	6.9	12.6	1.4	7.9	10.1		

(21) 市が行っている取り組みで知っているもの

問18 福岡市は、自治協議会などの自治組織の活動を支援するために、さまざまな取り組みを行っています。市が行っている取り組みについて、あなたが知っている（聞いたことがあるも含みます）ものはどれですか。あてはまるものを**すべて**選び、番号に○をつけてください。

市が行っている取り組みで知っているものを聞いたところ、「市政だよりでの自治組織の活動の紹介」と回答した人が61.2%と最も多く、次いで「各小学校区への公民館の設置」(35.5%)、「知っているものはない」(22.0%)となっている。

図表 市が行っている取り組みで知っているもの【全体】※複数回答



全体(N=2,427)

性別にみると、女性では「各小学校区への公民館の設置」(38.8%)の割合が男性と比べて7.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに「自治協議会や自治会・町内会をPRするチラシの作成・配布」の割合は、概ね年代が上がるほど高くなっている。女性40代・50代では「各小学校区への公民館の設置」の割合が4割台半ばとなっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 市が行っている取り組みで知っているもの【性・年代別】※複数回答

単位：%

	調査数	市政だよりでの自治組織の活動の紹介	置各小学校区への公民館の設置	成会をPRするチラシの作成・配布	自治協議会や自治会・町内会に関する情報掲載	市のホームページへの掲載	付自治協議会への補助金の交付	市民活動保険制度の実施	開催「自治協議会サミット」の	その他	知っているものはない	無回答
全体	2,427	61.2	35.5	18.4	15.4	13.4	4.4	2.8	0.6	22.0	3.0	
男性計	1,018	60.4	31.0	18.2	16.4	14.5	3.4	3.2	0.7	25.1	1.9	
20代	79	41.8	24.1	10.1	12.7	8.9	1.3	6.3	-	39.2	-	
30代	163	53.4	26.4	6.1	14.1	5.5	0.6	2.5	-	35.0	-	
40代	204	53.9	32.4	9.3	13.7	8.3	1.0	1.5	0.5	30.4	1.0	
50代	134	64.9	36.6	17.2	17.9	11.2	3.7	2.2	-	24.6	3.7	
60代	219	61.2	30.1	26.9	20.5	19.6	7.3	4.1	1.4	19.6	3.2	
70歳以上	204	77.9	33.8	31.9	17.6	27.0	3.9	3.9	1.5	10.8	2.0	
女性計	1,366	61.6	38.8	18.2	14.5	12.4	5.1	2.6	0.4	20.1	3.5	
20代	116	53.4	33.6	8.6	16.4	6.9	-	0.9	-	36.2	0.9	
30代	221	51.6	36.2	10.0	9.0	5.0	1.4	0.9	0.5	29.9	0.5	
40代	234	58.5	44.9	14.5	16.2	9.4	3.4	2.1	0.4	21.8	1.3	
50代	233	63.5	44.2	18.0	18.0	17.6	5.6	4.7	0.4	21.0	1.7	
60代	268	70.9	39.2	23.9	14.6	13.1	6.3	2.2	0.4	13.1	3.4	
70歳以上	277	65.0	33.9	26.7	14.1	18.4	10.1	3.6	0.4	9.7	10.8	

(22) NPOの認知

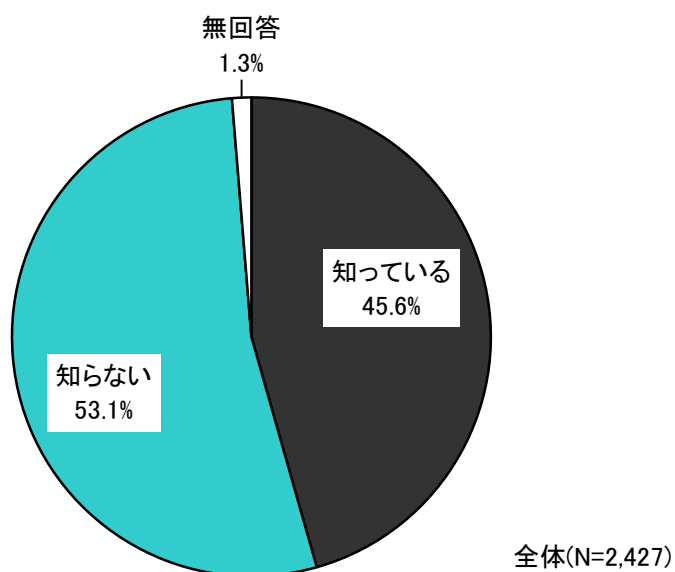
問19 福岡市は、平成28年度から地域のまちづくりについて、自治協議会をはじめ、企業・事業所、NPO※³、大学などのさまざまな主体と地域の未来を共に創っていく「共創」に取り組むこととしています。

あなたは、NPOについて知っていますか。あてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

※3 「NPO」とは、「Non Profit Organization（非営利団体）」の略語で、営利を目的とせず、さまざまな社会貢献活動を行うための組織や団体のことです。その中でも所轄庁の認証を受け、法人格を取得した組織や団体を「NPO法人」といいます。

NPOの認知度を聞いたところ、「知らない」と回答した人が53.1%、「知っている」と回答した人が45.6%となっている。

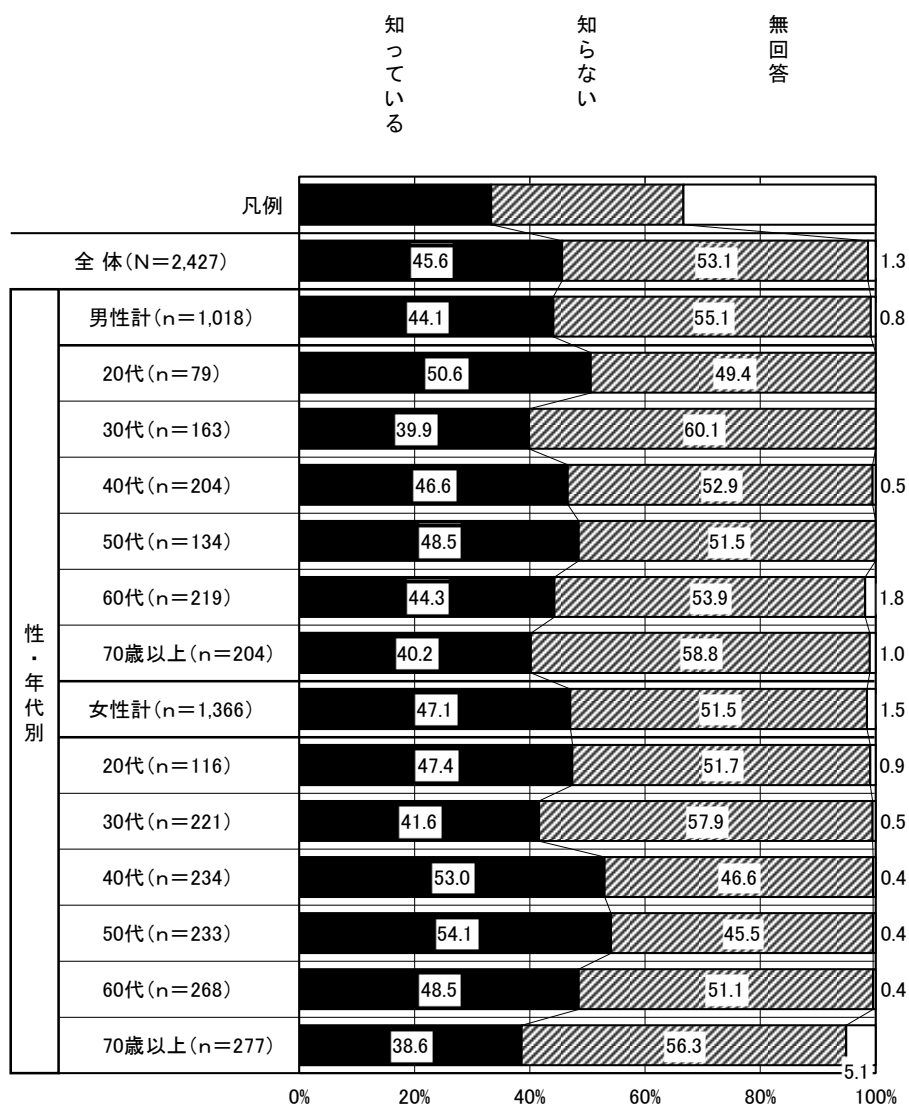
図表 NPOの認知【全体】



性別にみた場合、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、女性40代・50代では「知っている」の割合が5割台半ばとなっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 NPOの認知【性・年代別】



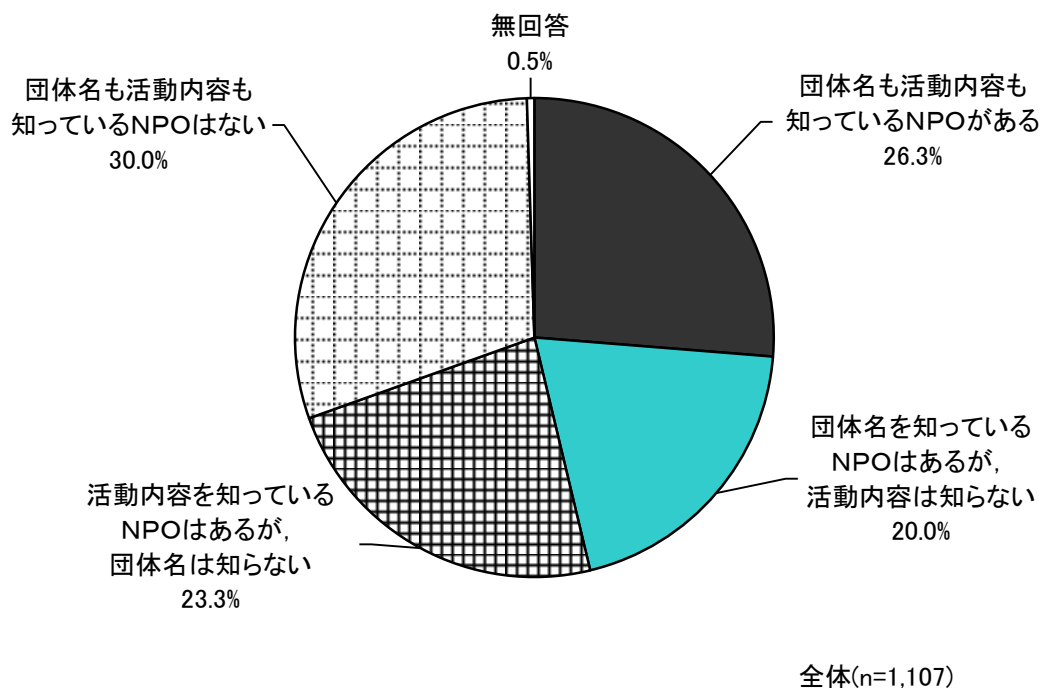
(23) NPOについて知っている程度

問19-1 《 問19で「1」と回答した方におたずねします。 》

あなたは、NPOについて、どの程度知っていますか。あてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

NPOについて知っている程度を聞いたところ、「団体名も活動内容も知っているNPOはない」と回答した人が30.0%と最も多く、次いで「団体名も活動内容も知っているNPOがある」(26.3%)、「活動内容を知っているNPOはあるが、団体名は知らない」(23.3%)となっている。

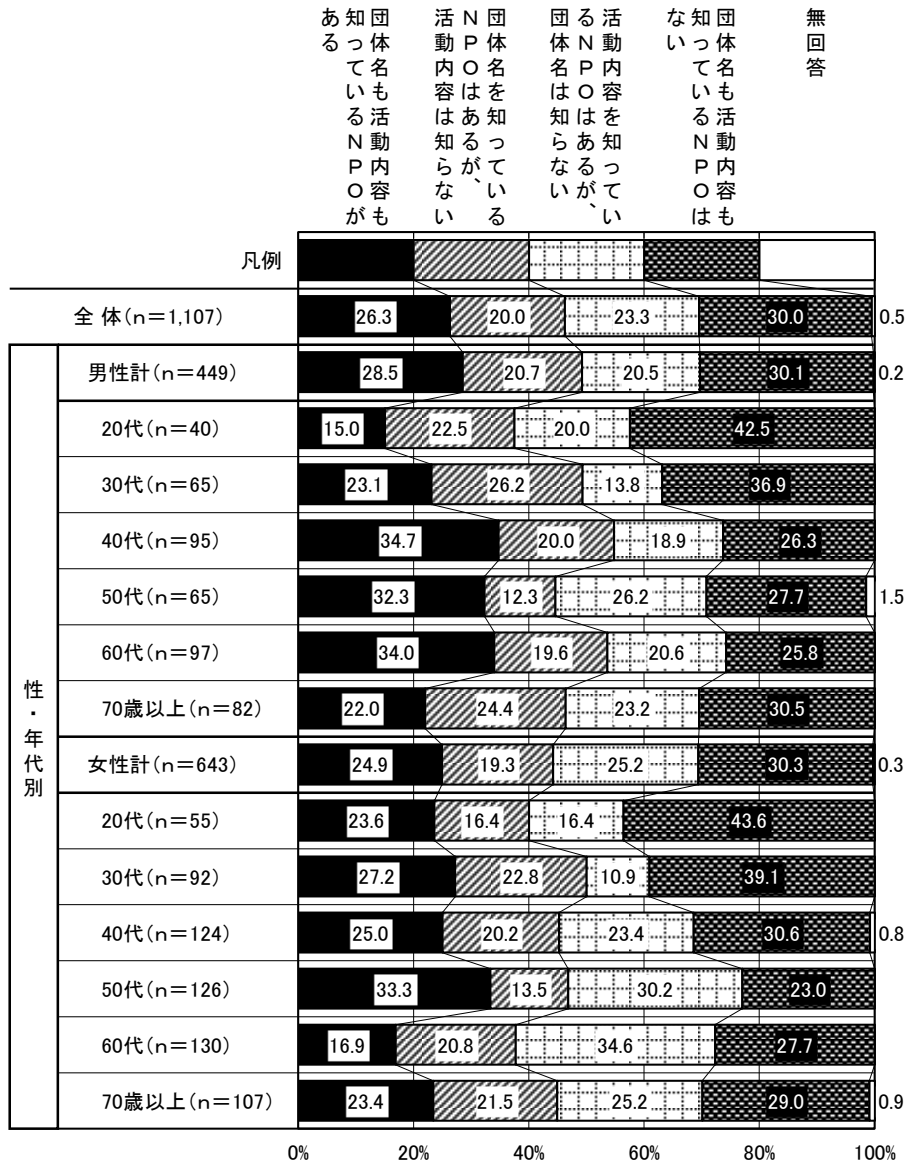
図表 NPOについて知っている程度【全体】



性別にみた場合、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、男女ともに20代では「団体名も活動内容も知っているNPOはない」の割合が4割台前半となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 NPOについて知っている程度【性・年代別】



(24) NPOが地域団体と連携・協力した地域のまちづくり活動を行うことができると思うか

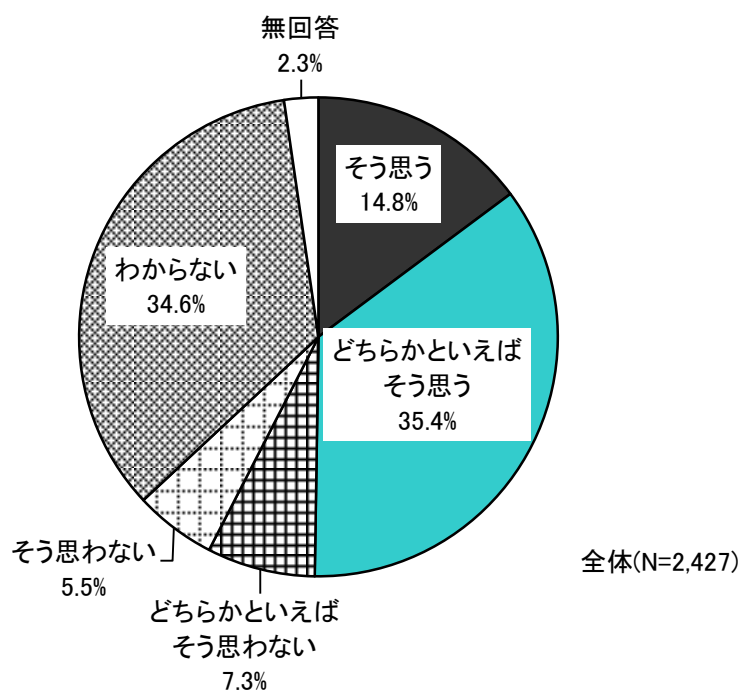
問20 NPOは、自治協議会や自治会などの地域団体と、連携・協力した地域のまちづくり活動を行うことができると思いますか。あてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

NPOが地域団体と連携・協力した地域のまちづくりの活動を行うことができると思うか聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」と回答した人が35.4%と最も多く、次いで「わからない」(34.6%)となっている。

また、『そう思う』(=「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)の割合は50.2%、『そう思わない』(=「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は12.8%となっている。

図表 NPOが地域団体と連携・協力した地域のまちづくり活動を行うことができると思うか

【全体】

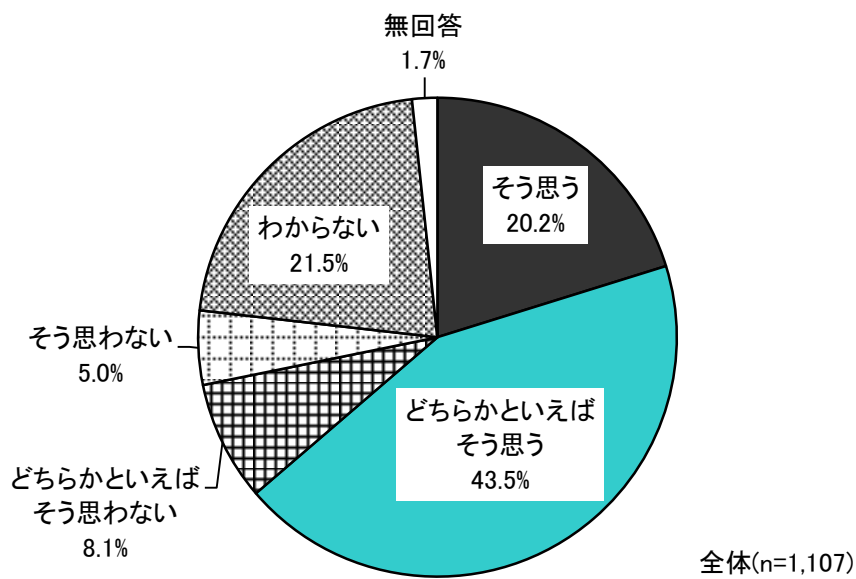


『そう思う』	50.2%
『そう思わない』	12.8%

問 19 で「知っている」と回答した人のみで見ると、「どちらかといえばそう思う」と回答した人が 43.5%と最も多く、次いで「わからない」(21.5%)、「そう思う」(20.2%)となっている。

また、『そう思う』(=「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)の割合は 63.7%、『そう思わない』(=「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合は 13.1%となっている。

図表 NPOが地域団体と連携・協力した地域のまちづくり活動を行うことができると思うか
【全体】(問 19 で「知っている」と回答した人)

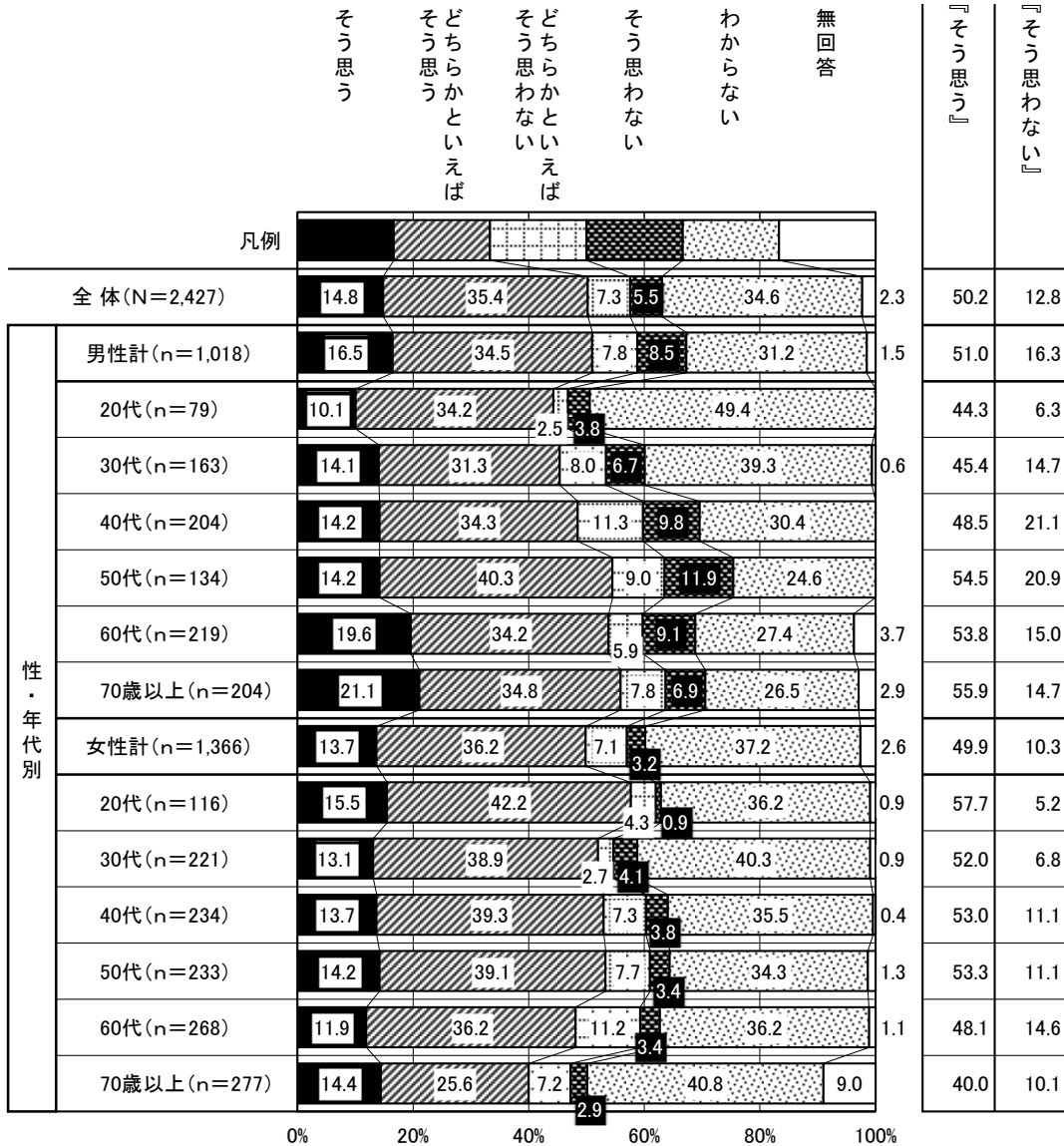


『そう思う』	63.7%
『そう思わない』	13.1%

性別にみた場合、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、男性 40 代・50 代では『そう思わない』の割合が 2 割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 NPOが地域団体と連携・協力した地域のまちづくり活動を行うことができると思うか
【性・年代別】



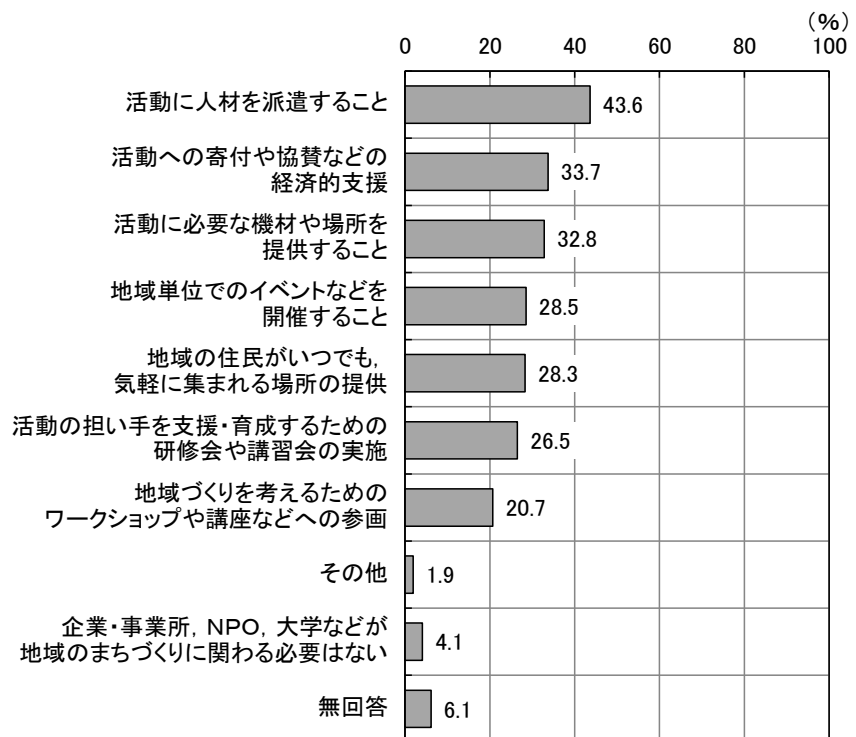
(25) 企業・事業所、NPO、大学などが地域のまちづくり活動に関わっていくべき内容

問21 あなたは、企業・事業所、NPO、大学などが、どのような形で地域のまちづくり活動に関わっていくことが必要だと思いますか。あてはまるものを**3つまで**選び、番号に○をつけてください。

企業・事業所、NPO、大学などが地域のまちづくり活動に関わっていくべき内容を聞いたところ、「活動に人材を派遣すること」と回答した人が43.6%と最も多く、次いで「活動への寄付や協賛などの経済的支援」(33.7%)、「活動に必要な機材や場所を提供すること」(32.8%)となっている。

図表 企業・事業所、NPO、大学などが地域のまちづくり活動に関わっていくべき内容【全体】

※複数回答（3つまで）



全体(N=2,427)

性別にみた場合、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、男性 20 代では「活動に必要な機材や場所を提供すること」の割合が 4 割台半ば、女性 20 代では「地域単位でのイベントなどを開催すること」の割合が 4 割台後半となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、男性 70 歳以上、女性 60 代では「地域の住民がいつでも、気軽に集まれる場所の提供」の割合が約 4 割となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 企業・事業所、NPO、大学などが地域のまちづくり活動に関わっていくべき内容

【性・年代別】※複数回答（3つまで）

単位：%

	調査数	活動に人材を派遣すること	経済的支援	活動への寄付や協賛などの	活動に必要な機材や場所を提供すること	地域単位でのイベントなどを開催すること	地域に集まれる場所の提供	活動のための研修や講習会の実施	活動の担い手の支援	地域の参画	地域づくりを考えるための	その他	学業などが地域のまちづくり	企業・事業所、NPO、大	無回答
全体	2,427	43.6	33.7	32.8	28.5	28.3	26.5	20.7	1.9	4.1	6.1				
男性計	1,018	46.1	35.4	33.8	30.1	28.5	25.2	18.8	2.0	5.5	3.2				
20代	79	43.0	32.9	46.8	35.4	27.8	17.7	13.9	-	3.8	1.3				
30代	163	35.6	40.5	38.0	36.8	27.0	23.3	18.4	0.6	4.3	0.6				
40代	204	45.6	34.3	36.8	32.4	23.0	20.6	11.3	2.9	7.8	1.5				
50代	134	53.7	35.8	26.9	28.4	24.6	20.1	24.6	1.5	6.7	2.2				
60代	219	47.5	32.4	30.6	27.4	29.2	32.9	24.2	3.2	5.5	4.1				
70歳以上	204	49.5	34.8	30.4	25.0	37.7	28.9	17.6	1.5	3.9	7.8				
女性計	1,366	42.1	32.6	32.1	27.7	28.3	27.6	22.6	1.8	3.1	7.7				
20代	116	36.2	37.1	36.2	47.4	23.3	31.9	17.2	0.9	2.6	1.7				
30代	221	41.6	35.7	35.3	35.3	23.5	20.4	21.7	2.3	2.7	1.4				
40代	234	44.0	37.6	36.8	27.4	21.8	24.4	24.8	1.7	3.4	3.0				
50代	233	50.6	36.1	36.5	28.3	24.0	31.8	29.6	0.4	2.6	3.4				
60代	268	37.7	26.9	32.1	23.9	38.1	31.3	22.8	2.2	3.0	10.1				
70歳以上	277	39.7	26.7	20.6	17.3	34.7	26.4	17.7	2.5	4.0	20.2				

行政区別にみると、すべての行政区において「活動に人材を派遣すること」の割合が最も高くなっている。

図表 企業・事業所、NPO、大学などが地域のまちづくり活動に関わっていくべき内容

【行政区別】※複数回答（3つまで）

単位：%

	調査数	活動に人材を派遣すること	経済的支援	活動に必要な機材や場所を提供すること	地域単位でのイベントなどを開催すること	地域に集まれる場所の提供	活動の実施	活動の担い手の研修や講習会	地域のワークショップや講座などの企画	その他	企業・事業所、NPO、大学などが地域のまちづくりに関わる必要はない	無回答
全体	2,427	43.6	33.7	32.8	28.5	28.3	26.5	20.7	1.9	4.1	6.1	
東区	491	41.1	34.6	35.0	29.1	30.5	26.7	22.6	1.4	4.7	4.7	
博多区	311	46.9	35.4	32.2	25.4	24.8	25.4	18.3	2.3	4.8	4.8	
中央区	283	45.6	33.6	32.2	31.4	28.6	26.9	27.2	1.4	2.8	5.7	
南区	406	42.6	31.3	31.5	27.8	31.3	25.9	21.7	2.7	3.4	5.7	
城南区	226	42.5	34.1	32.3	26.5	28.8	27.4	22.6	1.8	5.3	4.9	
早良区	351	44.2	33.9	33.6	27.9	25.9	26.8	17.4	2.0	4.8	6.0	
西区	322	44.7	33.2	31.4	31.7	27.3	27.3	17.1	1.6	2.8	9.9	

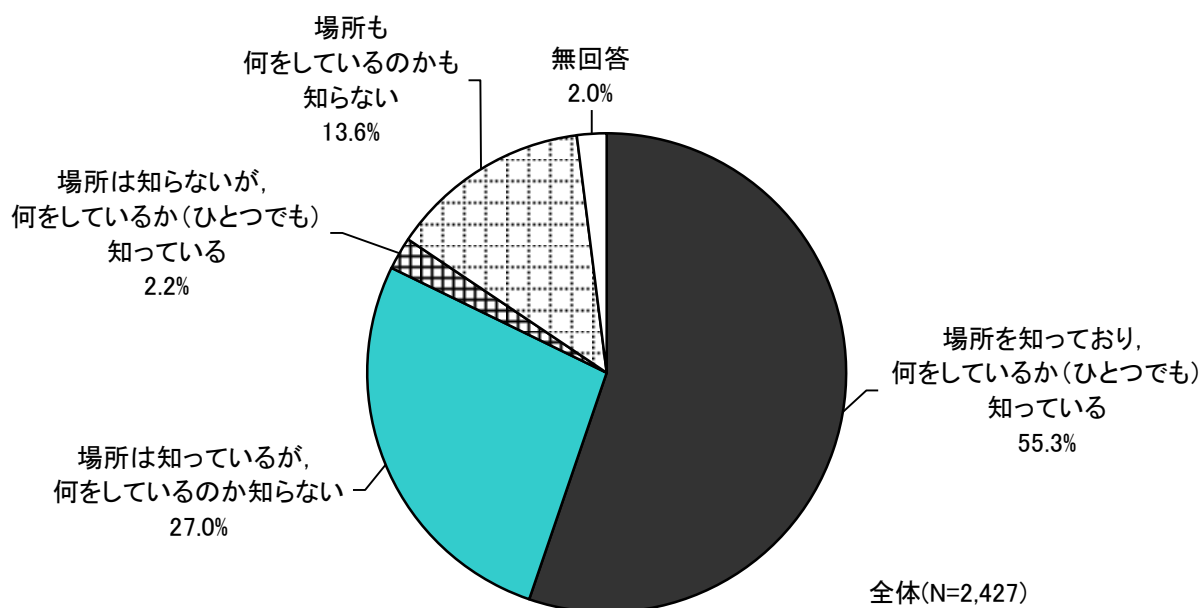
(26) 地域の公民館の認知度

問22 福岡市には、地域コミュニティ活動や住民の生涯学習の支援のために公民館が設置されています。あなたは、お住まいの地域の公民館についてどの程度、知っていますか。あてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

地域の公民館の認知度を聞いたところ、「場所を知っており、何をしているか（ひとつでも）知っている」と回答した人が55.3%と最も多く、次いで「場所は知っているが、何をしているか知らない」（27.0%）となっている。

また、『知っている』（＝「場所を知っており、何をしているか知っている」＋「場所は知っているが、何をしているのか知らない」＋「場所は知らないが、何をしているか（ひとつでも）知っている」）の割合は84.5%となっている。

図表 地域の公民館の認知度【全体】

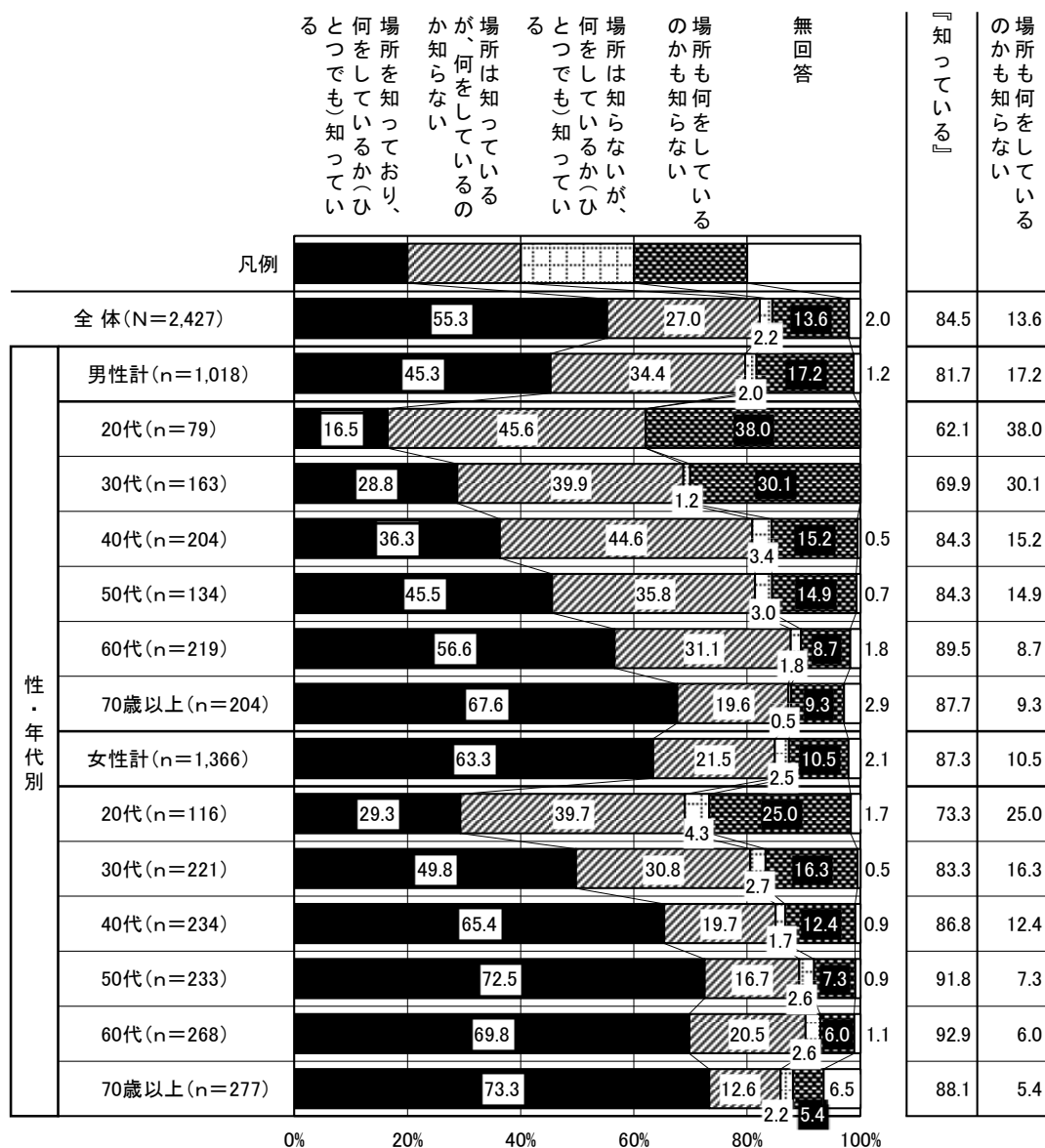


『知っている』	84.5%
「場所も何をしているのかも知らない」	13.6%

性別にみると、女性では「場所を知っており、何をしているか(ひとつでも)知っている」(63.3%)の割合が男性と比べて18.0ポイント高くなっている。男性では「場所も何をしているのかも知らない」(17.2%)の割合が女性と比べて6.7ポイント高くなっている。

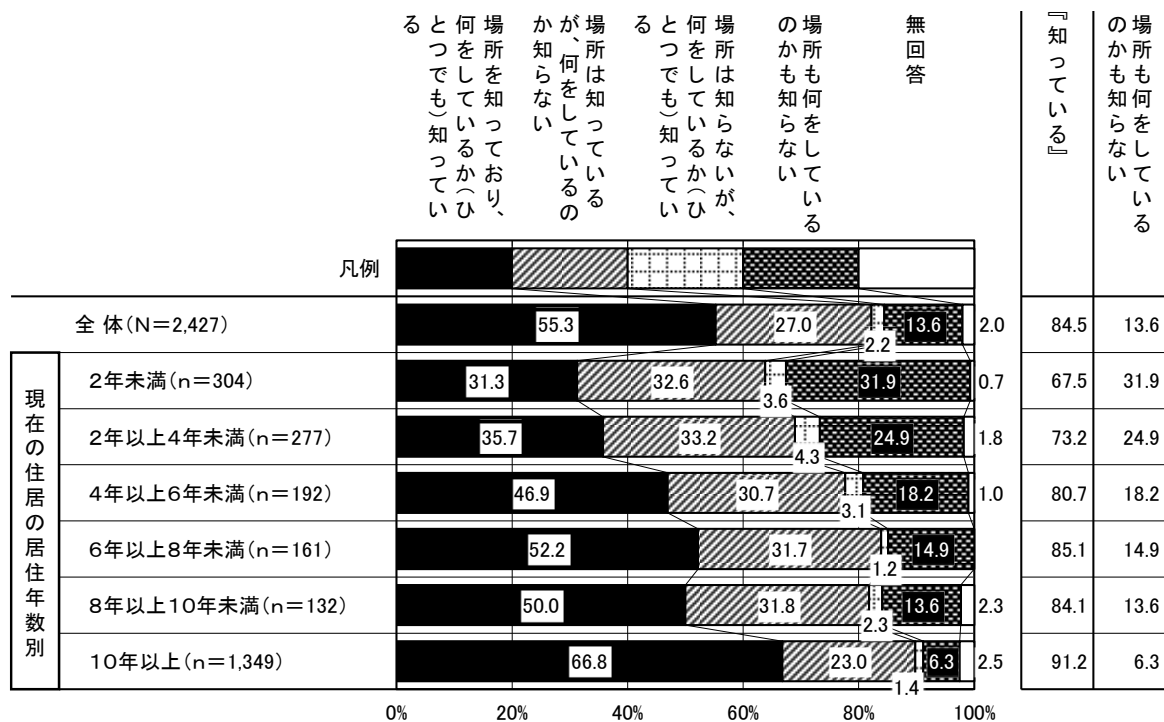
性・年代別にみると、男性70歳以上、女性40代以上では「場所を知っており、何をしているか知っている」の割合が6割を超え、男性20代・30代では「場所も何をしているのかも知らない」の割合が3割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 地域の公民館の認知度【性・年代別】



「現在の住居の居住年数」（問 24 131 頁参照）別にみると、2 年未満、2 年以上 4 年未満では「場所も何をしているのかも知らない」の割合が 2 割を超えており、他の現在の住居の居住年数に比べて高くなっている。

図表 地域の公民館の認知度【現在の住居の居住年数別】



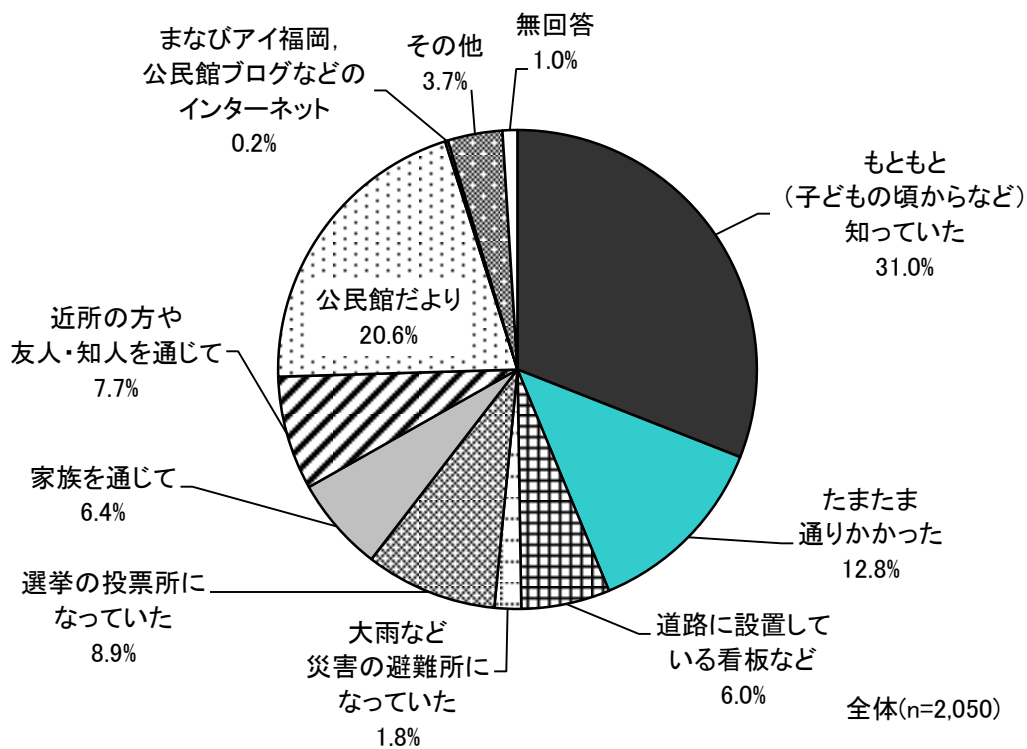
(27) 地域の公民館を知ったきっかけ

問22-1 《 問22で「1」～「3」と回答した方におたずねします。》

お住まいの地域の公民館の存在を最初に知ったきっかけは何ですか。あてはまるものを**1つだけ**選び、番号に○をつけてください。

地域の公民館を知ったきっかけを聞いたところ、「もともと(子どもの頃からなど)知っていた」と回答した人が31.0%と最も多く、次いで「公民館だより」(20.6%)、「たまたま通りかかった」(12.8%)となっている。

図表 地域の公民館を知ったきっかけ【全体】



性別にみると、女性では「公民館だより」(24.6%)の割合が男性と比べて10.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女ともに20代では「もともと(子どもの頃からなど)知っていた」の割合が5割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、女性70歳以上では「公民館だより」の割合が約4割となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 地域の公民館を知ったきっかけ【性・年代別】

単位：%

	調査数	もともと(子どもの頃からなど)知っていた	たまたま通りかかった	道路に設置している看板など	大雨など災害の避難所になっ ていた	選挙の投票所になっていた	家族を通じて	近所の方や友人・知人を通じて	公民館だより	まなびアイ福岡、公民館ブログなどのインターネット	その他	無回答
全体	2,050	31.0	12.8	6.0	1.8	8.9	6.4	7.7	20.6	0.2	3.7	1.0
男性計	831	32.1	14.8	7.0	1.9	9.4	9.1	6.6	14.6	0.2	3.5	0.7
20代	49	57.1	10.2	2.0	-	12.2	6.1	2.0	8.2	-	2.0	-
30代	114	28.1	30.7	3.5	2.6	6.1	12.3	3.5	8.8	0.9	2.6	0.9
40代	172	27.3	19.2	8.7	0.6	9.9	15.1	4.7	11.0	-	3.5	-
50代	113	29.2	13.3	5.3	2.7	14.2	13.3	6.2	9.7	0.9	5.3	-
60代	196	33.2	13.3	8.7	1.5	7.1	6.1	9.7	13.8	-	5.1	1.5
70歳以上	179	33.5	5.0	7.8	3.4	10.1	2.2	8.9	26.3	-	1.7	1.1
女性計	1,193	30.3	11.4	5.0	1.8	8.6	4.5	8.5	24.6	0.3	3.9	1.1
20代	85	50.6	20.0	4.7	2.4	3.5	2.4	2.4	9.4	-	2.4	2.4
30代	184	20.1	21.2	4.3	0.5	9.2	7.6	10.3	21.7	1.1	3.3	0.5
40代	203	31.0	12.3	5.4	1.0	6.9	4.4	10.3	23.2	0.5	4.4	0.5
50代	214	36.9	11.2	6.1	2.3	8.4	3.7	6.5	16.4	-	7.5	0.9
60代	249	31.3	7.6	6.4	2.0	10.4	4.0	6.8	26.5	-	3.6	1.2
70歳以上	244	24.2	4.1	2.9	2.5	9.4	4.1	10.7	38.9	-	1.6	1.6

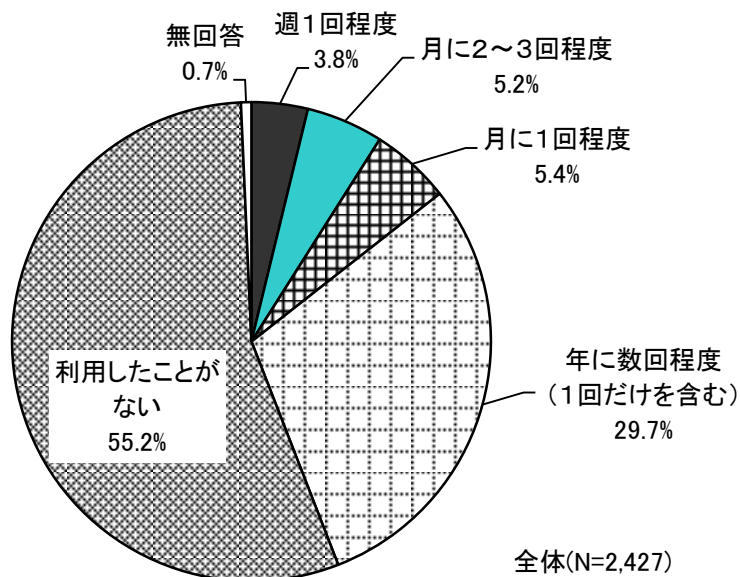
(28) 過去2年間に公民館を利用した頻度

問23 あなたは過去2年間にどの程度公民館を利用したことがありますか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

過去2年間に公民館を利用した頻度を聞いたところ、「利用したことがない」と回答した人が55.2%と最も多く、次いで「年に数回程度（1回だけを含む）」(29.7%)、「月に1回程度」(5.4%)となっている。

また、『利用したことがある』（＝「週1回程度」＋「月に2～3回程度」＋「月に1回程度」＋「年に数回程度」）の割合は44.1%となっている。

図表 過去2年間に公民館を利用した頻度【全体】

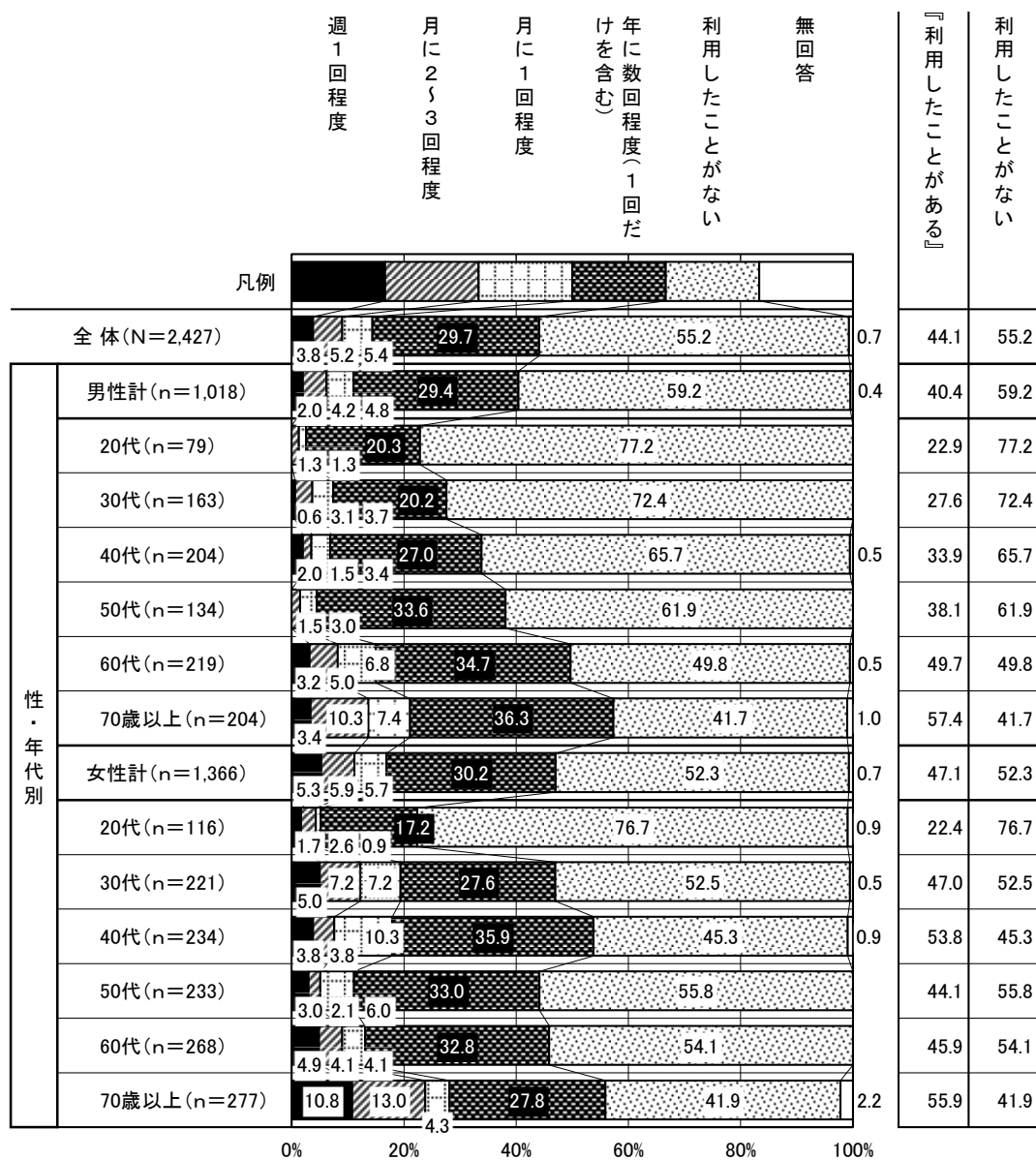


『利用したことがある』	44.1%
「利用したことがない」	55.2%

性別にみると、女性では『利用したことがある』(47.1%)の割合が男性と比べて6.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性70歳以上では「週1回程度」の割合が1割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。また、男性20代~50代、女性20代では「利用したことがない」の割合が6割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 過去2年間に公民館を利用した頻度【性・年代別】



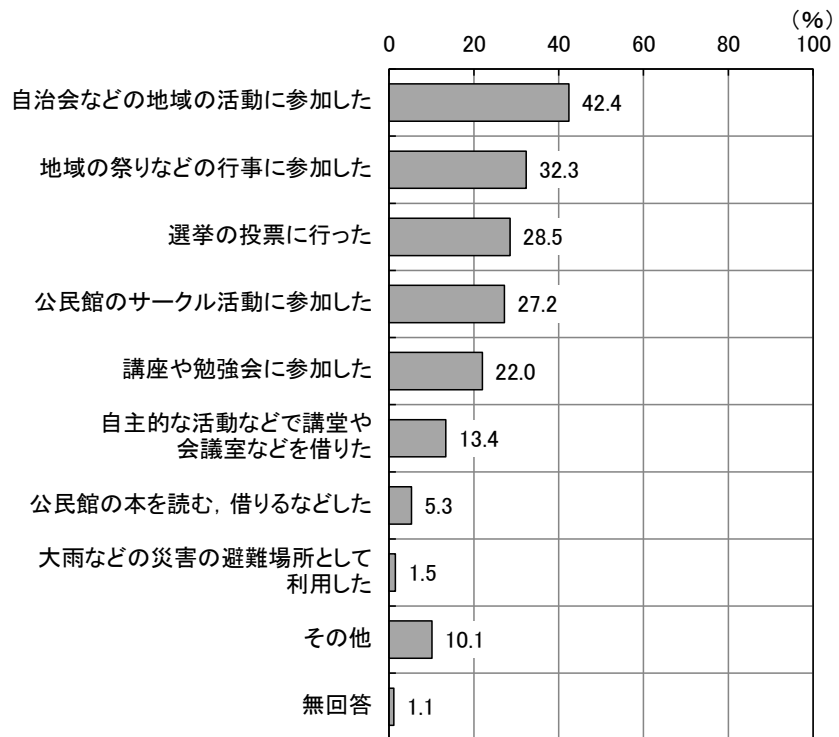
(29) 公民館を利用した内容

問23-1 《 問23で「1」～「4」と回答した方におたずねします。 》

どのような内容で利用しましたか。あてはまるものを**すべて**選び、番号に○をつけてください。

公民館を利用した内容を聞いたところ、「自治会などの地域の活動に参加した」と回答した人が42.4%と最も多く、次いで「地域の祭りなどの行事に参加した」(32.3%)、「選挙の投票に行った」(28.5%)となっている。

図表 公民館を利用した内容【全体】※複数回答



全体(n=1,070)

性別にみると、女性では「公民館のサークル活動に参加した」(32.7%)、「講座や勉強会に参加した」(25.5%)の割合が男性と比べて、それぞれ14.2ポイント、8.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男性60代以上、女性40代以上では「自治会などの地域の活動に参加した」の割合が5割前後、女性30代・70歳以上では「公民館のサークル活動に参加した」の割合が4割を超えており、他の性・年代に比べて高くなっている。男女ともに70歳以上では「講座や勉強会に参加した」の割合が3割を超え、男性60代以上では「自主的な活動などで講堂や会議室などを借りた」の割合が約2割となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 公民館を利用した内容【性・年代別】※複数回答

単位：%

	調査数	自治会などの地域の活動に参加した	地域の祭りなどの行事に参加した	選挙の投票に行った	公民館のサークル活動に参加した	講座や勉強会に参加した	自主的な活動などで講堂や会議室などを借りた	公民館の本を読む、借りるなどした	大雨などの災害の避難場所として利用した	その他	無回答
全体	1,070	42.4	32.3	28.5	27.2	22.0	13.4	5.3	1.5	10.1	1.1
男性計	411	43.3	33.6	30.9	18.5	16.8	15.6	4.1	2.2	9.7	0.5
20代	18	11.1	33.3	33.3	5.6	5.6	5.6	16.7	-	16.7	-
30代	45	28.9	22.2	40.0	15.6	4.4	6.7	13.3	4.4	20.0	-
40代	69	31.9	36.2	33.3	15.9	8.7	11.6	-	-	10.1	-
50代	51	37.3	25.5	39.2	5.9	5.9	2.0	-	2.0	13.7	-
60代	109	56.0	33.9	26.6	17.4	16.5	23.9	1.8	2.8	8.3	-
70歳以上	117	50.4	38.5	26.5	29.9	32.5	19.7	5.1	2.6	4.3	1.7
女性計	642	42.2	31.9	27.3	32.7	25.5	12.1	6.2	1.1	10.0	1.2
20代	26	15.4	19.2	34.6	26.9	11.5	3.8	3.8	3.8	15.4	-
30代	104	16.3	20.2	21.2	41.3	13.5	6.7	9.6	-	20.2	-
40代	126	52.4	39.7	23.8	25.4	25.4	15.9	11.1	0.8	11.1	2.4
50代	103	49.5	29.1	30.1	18.4	27.2	14.6	1.9	1.0	6.8	1.0
60代	123	46.3	31.7	30.9	27.6	24.4	9.8	2.4	0.8	5.7	0.8
70歳以上	155	47.1	38.7	28.4	47.7	36.8	14.8	6.5	1.9	7.1	1.9

「過去2年間に公民館を利用した頻度」(問23 124頁参照)別にみると、週1回程度、月に2～3回程度では「公民館のサークル活動に参加した」の割合が7割を超えており、他の過去2年間に公民館を利用した頻度に比べて高くなっている。

図表 公民館を利用した内容【過去2年間に公民館を利用した頻度別】※複数回答

単位：%

	調査数	自治会などの地域の活動に参加した	地域の祭りなどの行事に参加した	選挙の投票に行った	公民館のサークル活動に参加した	講座や勉強会に参加した	会議室などを借りた	自主的な活動などで講堂や会議室などを借りた	その他	公民館の本を読む、借りるなどした	大雨などの災害の避難場所として利用した	無回答
全体	1,070	42.4	32.3	28.5	27.2	22.0	13.4	10.1	5.3	1.5	1.1	
週1回程度	92	44.6	46.7	17.4	79.3	48.9	21.7	4.3	15.2	1.1	-	
月に2～3回程度	125	52.8	50.4	20.0	72.0	47.2	23.2	5.6	8.8	0.8	-	
月に1回程度	131	58.8	35.9	22.9	25.2	26.0	13.7	13.0	6.9	0.8	2.3	
年に数回程度(1回だけを含む)	722	37.4	26.7	32.4	13.2	13.4	10.5	11.1	3.2	1.8	1.2	
利用したことがない	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

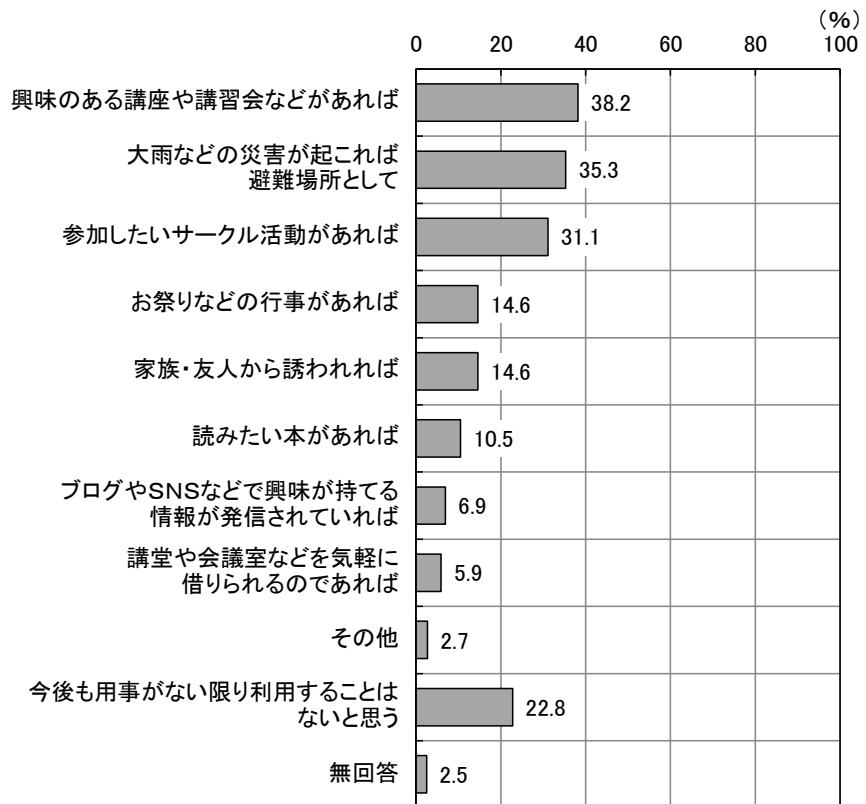
(30) 公民館を利用するきっかけとなること

問23-2 《 問23で「5」と回答した方におたずねします。 》

どのようなきっかけがあれば利用したいと思いますか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

公民館を利用するきっかけとなることを聞いたところ、「興味のある講座や講習会などがあれば」と回答した人が38.2%と最も多く、次いで「大雨などの災害が起これば避難所として」(35.3%)、「参加したいサークル活動があれば」(31.1%)となっている。

図表 公民館を利用するきっかけとなること【全体】※複数回答



全体(n=1,339)

性別にみると、女性では「興味のある講座や講習会などがあれば」(43.7%)、「参加したいサークル活動があれば」(34.7%)の割合が男性と比べて、それぞれ11.4ポイント、7.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男性20代～40代、女性20代・30代では「お祭りなどの行事があれば」の割合が2割を超え、女性30代～50代では「興味のある講座や講習会などがあれば」の割合が5割前後、男女ともに20代では「家族・友人から誘われれば」の割合が約3割となっており、他の性・年代に比べて高くなっている。

図表 公民館を利用するきっかけとなること【性・年代別】※複数回答

単位：%

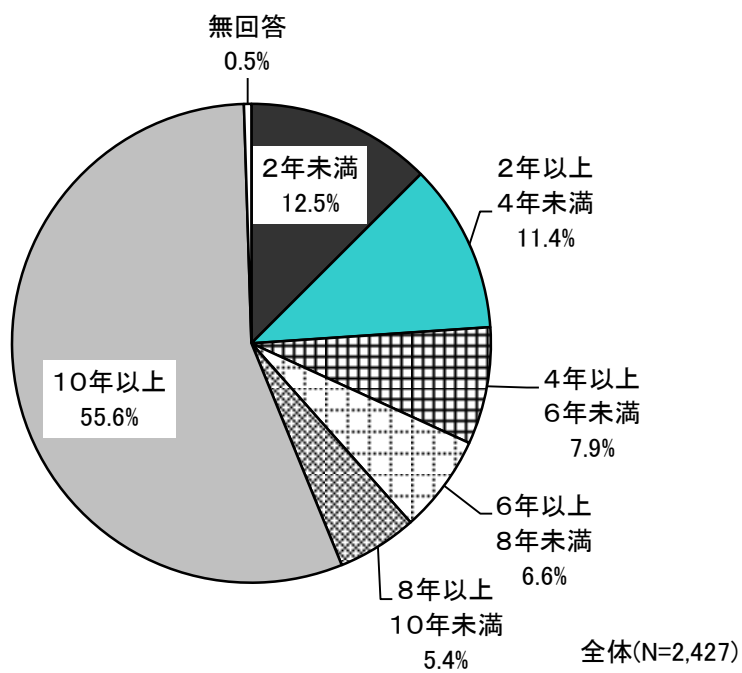
	調査数	興味のある講座や講習会などがあれば	避難場所としての大雨などの災害が起これば	参加したいサークル活動があれば	お祭りなどの行事があれば	家族・友人から誘われれば	読みたい本があれば	ブログやSNSなどで興味を持って情報が発信されれば	講堂や会議室などを気軽に借りられるのであれば	その他	今後とも用事がない限り利用するとは思わない	無回答
全体	1,339	38.2	35.3	31.1	14.6	14.6	10.5	6.9	5.9	2.7	22.8	2.5
男性計	603	32.3	32.7	27.4	16.9	13.4	9.1	7.1	7.0	2.5	26.0	2.5
20代	61	26.2	41.0	26.2	27.9	29.5	14.8	8.2	11.5	-	21.3	-
30代	118	26.3	39.0	28.8	28.8	16.1	7.6	10.2	5.9	0.8	24.6	3.4
40代	134	29.1	36.6	28.4	20.9	15.7	8.2	7.5	8.2	2.2	23.1	1.5
50代	83	39.8	33.7	30.1	7.2	9.6	6.0	7.2	7.2	2.4	25.3	-
60代	109	43.1	23.9	29.4	10.1	5.5	11.0	7.3	8.3	3.7	29.4	4.6
70歳以上	85	28.2	23.5	18.8	5.9	8.2	8.2	2.4	2.4	5.9	30.6	4.7
女性計	714	43.7	37.1	34.7	12.7	15.5	11.5	6.9	5.0	2.9	20.3	2.5
20代	89	44.9	48.3	36.0	23.6	27.0	19.1	16.9	3.4	-	11.2	1.1
30代	116	53.4	43.1	39.7	23.3	20.7	16.4	13.8	6.0	0.9	12.1	0.9
40代	106	48.1	35.8	39.6	16.0	11.3	5.7	5.7	8.5	1.9	21.7	-
50代	130	49.2	37.7	40.8	6.9	16.2	14.6	6.9	4.6	3.1	21.5	-
60代	145	44.1	38.6	33.8	7.6	10.3	10.3	0.7	4.8	4.8	19.3	2.8
70歳以上	116	20.7	22.4	19.8	2.6	12.1	3.4	-	2.6	6.0	35.3	8.6

(31) 現在の住居の居住年数

問24 あなたは今の住居にどのくらいお住まいですか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

現在の住居の居住年数を聞いたところ、「10年以上」と回答した人が55.6%と最も多く、次いで「2年未満」(12.5%)、「2年以上4年未満」(11.4%)となっている。

図表 現在の住居の居住年数【全体】



《 最後に、あなたやあなたのご家族のことについておたずねします 》

問35 あなたの性別は (○は1つだけ)

1 男性 41.9	2 女性 56.3	無回答 1.8
-----------	-----------	---------

問36 あなたの年齢は

平均

53.9

歳 (数字をご記入ください)

問37 あなたの家族数(同居人数)は、あなたを含めて何人ですか。(○は1つだけ)

1 1人 17.4	5 5人 5.1	無回答 1.8
2 2人 32.1	6 6人 1.7	
3 3人 23.0	7 7人以上 0.9	
4 4人 18.0		

問38 家族構成は (○は1つだけ)

1 単身(同居人はいない) 16.9	4 親と子と孫の三世代 5.4	無回答 2.1
2 夫婦のみ 25.5	5 兄弟姉妹のみ 1.0	
3 親と子の二世代 48.2	6 その他(具体的に:) 1.0	

問39 あなたが同居している家族についておたずねします。あなた自身も含めて、あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください(単身の方はご自身についてお選びください)。

1 未就学児 12.4	5 大学・大学院生 5.5	無回答 3.8
2 小・中学生 14.0	6 65歳以上75歳未満の人 27.7	
3 高校生 5.7	7 75歳以上の人 20.3	
4 専門学校生・短大・高専生 1.9	8 「1」～「7」までに該当する人はいない 26.7	

問40 あなたのお住まいは (○は1つだけ)

1 東区 20.2	5 城南区 9.3	無回答 1.5
2 博多区 12.8	6 早良区 14.5	
3 中央区 11.7	7 西区 13.3	
4 南区 16.7		

問41 あなたの職業は（○は1つだけ）

1 自営業経営者 6.2	7 臨時雇い・アルバイト 4.4
2 会社等役員 2.7	8 専業主婦・主夫 16.6
3 家族従事者・家業手伝い 1.1	9 学生 1.7
4 正社員・正職員 26.7	10 無職 20.5
5 常勤パートタイマー 9.7	11 その他（具体的に： ） 2.6
6 契約社員・派遣社員 4.9	無回答 2.8

問42 あなたが、日中主に活動している地域（勤務先等）は（○は1つだけ）

1 東区 15.3	5 城南区 5.6
2 博多区 17.3	6 早良区 11.0
3 中央区 17.3	7 西区 9.8
4 南区 10.8	8 市外 7.7
	無回答 5.2

問43 あなたが福岡市に住んでいる年数は通算で何年になりますか。（○は1つだけ）

1 1年未満 1.5	5 10年以上20年未満 14.5
2 1年以上3年未満 3.8	6 20年以上30年未満 18.0
3 3年以上5年未満 3.7	7 30年以上 48.7
4 5年以上10年未満 7.2	無回答 2.6

問44 あなたのお住まいは（○は1つだけ）

1 持ち家（一戸建て） 32.8	
2 持ち家（マンションなどの集合住宅） 23.4	
3 賃貸住宅（一戸建て） 2.4	
4 賃貸住宅（アパート、マンションなどの集合住宅） 29.6	
5 市営住宅や県営住宅などの公営住宅 6.3	
6 社宅・寮 1.9	
7 その他（具体的に： ） 0.9	無回答 2.6

お忙しい中、調査にご協力いただきありがとうございました。

記入もれや記入間違いがないか再度ご確認の上、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて **6月30日（木）** までに郵便ポストに投函してください。

平成 28 年度

市政に関する意識調査

平成 29 年 1 月発行

発行 福岡市市長室広聴課
福岡市中央区天神一丁目 8 番 1 号
TEL (092) 711-4067
FAX (092) 733-5580
E-mail: kocho.M0@city.fukuoka.lg.jp

この印刷物は再生紙を使用しています。